

福島大学

共生システム理工学類

学修案内

2021

(令和3年度入学者用)

～ 目 次 ～

1. 福島大学の教育目標	1
2. はじめに	
学類長のことば	4
学修案内を読む前に	6
3. 履修に関する基本的事項	7
4. 研究倫理に関して	19
5. 福島大学のカリキュラム	
福島大学のカリキュラム	23
共生システム理工学類履修基準表	24
6. ラーニングポートフォリオについて	
ラーニングポートフォリオについて	27
共生システム理工学類DPルーブリック	29
共生システム理工学類ディプロマ・ポリシー	30
7. 教務関係日程表	31
8. 基盤教育科目授業一覧表	33
9. 接続領域の履修について	40
10. スタートアップセミナーの履修について	43
11. 英語、英語以外の外国語の履修について	48
12. 教養領域の履修について	58
13. キャリアモデル学習の履修について	66
14. 問題探究領域の履修について	68
15. 問題探究セミナーⅠの履修について	71
16. 学類・コースの紹介	75
17. 専門教育、自由選択の履修について	80
18. 特修プログラムについて	
放射線科学専修プログラム	97
地域と学ぶ未来の理科先生	98

19. 免許・資格の取得について	
教育職員免許状	103
学芸員資格	113
公認心理師受験資格	115
20. カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ	
カリキュラム・ポリシー	119
カリキュラム・マップ	121
21. グローバル特修プログラムの履修について	130
22. 地域実践特修プログラムの履修について	133
23. 他学類の専門教育科目等の履修について	135
24. 転学類について	137
25. 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について	139
26. 大学間交流協定に基づく学生派遣について	141
27. 履修上の諸手続について	144
28. 各種問い合わせ窓口・福島大学案内図	147

1. 福島大学の教育目標

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

2. はじめに

学類長のことば

共生システム理工学類長 佐藤 理夫

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。まずは大学生活の良いスタートをきって欲しいと思います。良いスタートとは、直ぐに全力疾走することではありません。卒業というゴールに向かって、これからの大学生活を走り続けるためのスタートです。途中には険しい難所があるかもしれませんが、給水地点や休憩所があり、疲れた心身を癒してくれるスタッフもいます。大学合格という「高校生活のゴール」に満足せず、大学生活のスタートラインで立ちすくむことなく、進んでください。走り始めてしばらくすると、力や技が身についていることが実感できると思います。高く見えていた難所も、楽しめるようになってくるでしょう。どのルートを通してゴールにたどり着くのか、そもそもゴールをどこに定めるのか、チェックポイントで考えて自ら決めてください。「大学生活のゴール」は新たなスタートです。大学院で更にトレーニングをするという選択もあるでしょう。社会人としての良いスタートがきれるよう、充実した大学生活をおくってください。

福島大学共生システム理工学類は、「人・産業・環境の共生をめざす科学と技術」の創生のために設立され、2005年4月から学生を受け入れ、文理融合型カリキュラムや実践的研究能力の育成に寄与する様々な事業を通じて、特色ある教育・研究を進めてきました。2019年4月には、学類での教育と大学院教育との接続性を高めるとともに、学修の幅の広さと専門の深さとのバランスをとるよう、コース制を導入してカリキュラム改革を行いました。

地球温暖化・自然災害の巨大化・化石資源の枯渇・産業構造の急激な変化・少子高齢化など、21世紀の様々な課題が顕在化し、対応が求められています。加えて福島では東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響が残り、解明すべき事象と解決すべき課題が数多く残されています。新型コロナウイルスの出現は世界中の人々に影響を与え、人類は行動の変革を求められています。これらの課題は単一の学問では解決しません。様々な課題を抱えている地球・地域・社会をシステムとして捉え、科学技術を幅広く集め、社会制度を併せて考えて、変革し続けなくてはなりません。共生システム理工学類が目指すのは、幅広く学んだ上で自分が専門としたい分野を自ら選び、専門分野の探究ができ、様々な分野の他者と協同して社会に貢献することが継続的にできる人材を育てることです。学修できる分野の幅広さは他の大学にはない特徴です。これを活かして多くのものを身につけてほしいと願っています。

大学での学び方は高校までと大きく異なります。選択の幅が大きく広がるのです。1年次は必修の理工系基礎科目が多いため、時間割の自由度は限られます。それでも基盤教育で何

を選択するかなど、自分で決めることは多くあります。1年次末にはコース選択です。どのような専門分野を深く学びたいのか、1年間かけて学びながら考えてください。学年が上がるにつれて、専門性が高くなりますが、選択できる科目の幅は広がります。卒業研究に取り組む研究室の選択と卒業論文テーマの決定も、ルールはありますが自らの選択です。卒業研究を始めると、今日はどの実験をしようか・何を読んで調べようか・データはどうまとめようか・等々、日々考えて選択して行動です。

選択の幅が広いということは・・・、「楽なものを選んで、楽をしてゴールすることが可能（かもしれない）」という側面があります。このように考えて行動すると、ゴールにたどり着けなかったり、社会人としてのスタートをきってからトレーニング不足で辛い目にあったり……。こんな後悔をすることのないようにしてほしいものです。選択に悩んだ時には、グループアドバイザーや教務課に相談してください。学生総合相談室など、様々な相談に対応してくれる場所もあります。抱え込んで立ち尽くすことのないように、お願いします。

選択できるものは、学修内容だけではありません。サークル活動・地域ボランティア・アルバイトなど、様々な選択肢があることでしょう。長期の休暇は大学生の特権です。まずは今年の夏休みを充実して過ごす計画を考えてみましょう。「自ら選択して決定し、行動すること」は、大学で身につけるべきことのひとつだと私は思っています。人生の節目で振り返った時に、「充実した大学生活だった。大学で身につけたものが人生を豊かにした。」と思えるよう、良いスタートをきり、前進してください。

学修案内を読む前に

1. 学修案内を読む前に（重要）

この学修案内は、共生システム理工学類とその各コースの紹介から始まり、福島大学のカリキュラム（教育課程）の構造、カリキュラムの各領域の科目とその履修方法などの説明、履修に関する基本的な事項の説明、特修プログラムの修得、そして教育職員免許状の取得などに関する説明、諸手続きに関する事項や関係規程などから成っています。履修にあたっては、別紙の「時間割表」、別冊子の「学生便覧」も併せて読んでください。

みなさんは、2年次前期にコース所属となり、各コースの履修基準に基づき学んでいくようになりますが、自分の所属する（あるいは所属しようとする）コースに関する部分だけでなく、とにかく全部に目を通して、重要事項は何なのか、必要な事項は何なのかを把握してください。

この学修案内は、4年間の履修計画を立てられるようになっていますので、卒業まで大切に扱ってください。できれば通学の際に常時携帯してください。また、基本的な事項・情報を提供していますが、より詳細な事項は掲示やガイダンスなどで周知・説明が行われますので、そちらを見落としたり欠席しないように十分注意をする必要があります。学修案内の記載事項や掲示の見落としなどにより、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。

2. 教務関係日程表

2021年度の各種行事、手続き等の日程は示していますが、それ以外の手続き等についても、それぞれ期日を指定し掲示しますので、定められた期日を厳守してください。**指定期間以外は受付を一切行いませんのでご注意ください。**

また、日程は変更することもあり得るので、掲示に注意し、指定された期間内に必ず手続きを終えるようにしてください。

本学修案内に記載した日程はすべて2021年度の日程となっています。次年度以降は日付が異なります。時間割表については毎年度配付されます。その他の各種行事の日程は掲示等で周知します。

詳しくは、LiveCampus 上にUPしてある日程表（年度毎に更新）を参照してください。

なお、日程表は下記のURLからもダウンロードできます。

<http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>

3. 履修に関する基本的事項

履修に関する基本的事項

学修案内はみなさんが卒業するために、あるいは各種資格を取得するために必要な履修方法などの情報を掲載しています。よく読んで、それぞれ自分自身の「履修計画」を立ててください。

各学類には、卒業要件として履修基準表が示されています。履修基準表では、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」で構成される「基盤教育」に「専門教育」「自由選択」を加えて大きく3つに区分されています。基盤教育とは、大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけることを念頭に置いた区分です。専門教育とは、基礎的科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために身につける専門的な知識や技術を学ぶための区分です。自由選択は、他学類や他コースの科目を横断的に履修して学際性の幅を広げることを念頭に置いた区分です。

学修案内に記載されない個別の連絡事項については、学類ごと所定の掲示板に掲示しますので、毎日立ち寄り確認してください。授業担当教員からの連絡事項などは、LiveCampus（ライブキャンパス／教務事項を含む統合WEBシステム。「LC」と省略します）の案内のみの場合もあるので、こちらも1日1回は確認してください。

学修案内の記載事項や掲示を見落として単位が修得できず、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。不明な点があれば、教務課の各学類係で確認してください。

学修案内の修正、変更は随時行います。掲示やLCでお知らせしますので、確認漏れのないようにしてください。特に4月・10月のセメスター始めは教室変更など多数の連絡事項が予想されます。

1. 授業時間帯、セメスターについて

(1) 単位と授業時間

大学で開講される科目にはそれぞれ**単位数**が定められています。みなさんが授業を受講し、担当教員によって一定の水準に達したと評価されたときにこの単位が認められます。卒業もしくは各種資格を取得するためには、定められた科目について単位の認定を受け、必要な単位数を修得しなければなりません。

授業科目の単位数は、「大学設置基準」により1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法や、授業時間外の学修等を考慮して大学が定めるとしています。

単位数計算の基準は、講義及び演習については、15～30時間の範囲で1単位。実験、実習及び実技については、30～45時間の範囲で1単位とされています。

これを受け、本学では毎週1コマ（90分）の授業を半期間（30時間）受講することにより、講義及び演習は2単位、実験、実習及び実技については1単位として認定しています。ただし、授業科目によっては異なる場合がありますので、各授業科目の単位数を参照してください。

なお、本学における1時限（単位算出上の用語として1コマと称す）90分の授業は、設置基準上の2時間とみなします。

■設置基準でいう45時間1単位を満たすためには、自宅等において自学自習（予習・復習）を行うことが求められていることに留意してください。

【 授業時間表 】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1 時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間 開講科目の授業を 行わない。
2 時限	10:20～11:50	
(昼休み)	(11:50～13:00)	
3 時限	13:00～14:30	13:00～14:30
4 時限	14:40～16:10	14:40～16:10
5 時限	16:20～17:50	16:20～17:50
6 時限	18:00～19:30	18:20～19:50
7 時限	19:40～21:10	

※ 専門科目の一部を夜間主の授業時間帯（網かけ部分）に開講することがありますので、注意してください。

※ 夜間主の授業は、通常、平日の6・7時限、および土曜日の3・4時限に行われます。

(2) セメスター

本学では学年制は取っていないので、在学経過年とともに自動的に学年（年次と呼ぶ）が進行します。在学しなければならない4年間で年2期（4～9月を前期、10～3月を後期）に分け、各期を「セメスター」と言います（4年間で計8セメスターとなる）。このため、1年次前期は第1セメスター、同後期は第2セメスターとなり、順次進行してゆくことになります。

ただし、食農学類生については、各年次における進級要件が定めてあるため、進級要件を満たせなかった場合は、当該セメスターに留め置かれることになります。

2. 履修科目の登録手続きについて

- (1) 授業を履修するには、必ず履修登録をしなければなりません。履修登録は、インターネットに接続された学内外のパソコンから、「LC」に接続して行います。詳しくは、新入生ガイダンスで配付した「共通ガイドブック」を参照してください。なお、「LC」はパソコンでの使用を前提としたシステムであり、スマートフォンやタブレットでの動作は保証していません。ID・パスワードを忘れた場合は、総合情報処理センターで再発行手続きを行ってください。電話での問い合わせには応じられません。
- (2) 定められた期間内に登録をしなかった授業科目については、いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。
- (3) 基盤教育科目や専門教育科目の一部には受講者の人数を制限する科目もありますのであらかじめ所定の手続きをとってください。
- (4) 特定の授業科目を履修した後でないと受講できない等の制限が設けられている科目もありますので、学修案内・時間割表等で確認の上、登録するよう注意してください。
- (5) 次の場合、履修登録の際「LC」でエラーとなり、履修は認められませんので注意してください。

- ①二重履修・・・同一時限に同時に開講する2つ以上の授業科目を履修すること。
特に、集中講義の日程が重ならないように注意してください。
- ②すでに修得した授業科目（入学前の既修得単位として認定された科目を含む）と同一の授業を再び履修すること。
- ③同時履修・・・同一の授業科目を同一の学期に複数受講すること。
- (6) 履修登録期間は教務関係日程表を参照してください。期間内に履修登録と履修登録内容の確認を「LC」の時間割表画面で行ってください。
- (7) 授業科目の中には、教室の収容人員の都合上、受講者を制限するものがあります。
特に基盤教育の授業科目の受講調整は、毎年一定の手続きにしたがって行われます。
詳細は、接続領域、教養領域、それぞれの履修方法の説明で確認してください。専門教育科目でも同様に、受講者を制限する場合があります。また入学時におこなうガイダンスや掲示でも説明をおこないますので、必ず指示にしたがってください。調整対象となった科目は、受講許可を得なければ履修登録ができなくなるので十分に注意してください。

3. 試験及び成績について

(1) 試験及びレポートについて

① 試験について

試験には、厳格な規則（試験規則など）が適用される**正規試験**と、担当教員の判断で随時行われる**平常試験**があります。正規試験を欠席した場合には、追試験または履修登録撤回の手続きが認められた場合を除き、自動的に不合格となります。正規試験は、授業期間終了後の決められた期間（教務関係日程表参照）に実施されます。

正規試験を実施する科目は試験期間開始日の2週間前までに、正規試験の日程は試験期間開始日の1週間前までに発表されます。試験の時間割は、通常の授業の曜日・時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。

【試験期間の授業時間表】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1 時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間 開講科目の試験 を行わない。
2 時限	10:25～11:55	
(昼休み)	(11:55～12:45)	
3 時限	12:45～14:15	13:15～14:45
4 時限	14:30～16:00	15:00～16:30
5 時限	16:15～17:45	16:45～18:15
6 時限	18:00～19:30	18:45～20:15
7 時限	19:45～21:15	

また、試験日程発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので、試験期間中の掲示には特に注意してください。

正規試験を受験する際の注意事項は、学生受験心得に定められていますので、受験の前

に熟読しておいてください。また、福島大学試験規則も同様に熟読してください。さらに、以下の事項にも留意してください。

追試験制度

病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は、追試験を認めることがあります。追試験の受験を申請する者は、所定の期間に追試験受験願を提出しなければなりません。その際に、病気の場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

公共交通機関の突発的な事故等による追試験は、以下を条件として認められることに注意してください。

- ・試験開始 5 分前に余裕をもって間に合うように、通常の公共交通機関を利用して登校しつつあったが、当該事故等によって試験開始時刻に遅れた。
- ・当該事故等について、試験日程の変更や試験開始時刻の変更などの措置がとられなかった。

不正行為に対する処分

不正行為（カンニング等）を行った場合、当該科目だけでなく、そのセメスターの履修登録がすべて取り消しになるほか、学則に基づき懲戒処分を受けることになります。

学生証の携帯

学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。筆記試験の時間中は、学生証を机上の見やすいところに置いてください。

②レポートについて

正規試験としてのレポート試験は、筆記による正規試験と同様の扱いとなります。すなわち、未提出者は正規試験を欠席したものとみなします。

上記以外のレポート（平常レポート）は、科目ごとの指示に従ってください。教務課窓口へ提出する場合は、教務課事務室前に設置されている平常レポートボックスに入れてください。なお、提出期限を過ぎたものは受け付けません。

レポートの体裁は、レポート試験・平常レポートともに必ず次のような表紙をつけ、担当教員から特に指示があった場合を除き、A4版 400 字詰横書き原稿用紙を用い、複数枚の場合は必ずステープラー（ホチキス）で綴じて提出してください。

表紙見本
(本文は 2 枚目からとする)

—	—
科 目 名	○ ○ ○ ○ ○
曜日・時限	曜日 時限
担当教員	△ △ △ △ △
所属学類	◆◆◆◆学類
学籍番号	※ ※ ※ ※ ※
氏 名	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
提出年月日	年 月 日

【レポート作成の際の注意事項】

文献・電子書籍やインターネットの記述をレポートに利用する際には、利用した箇所が明らかになるように、必ず出典を明記してください。

以下の行為は不正行為です。絶対に行ってははいけません。→「研究倫理に関して」を参照

- ◆作成者の許諾のあるなしに関わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分が作成したものと偽って提出すること。
- ◆出典を明らかにせずに、文献やインターネット上の記述／電子書籍の内容をコピーし、レポート作成に利用すること。

特に、インターネット上の記事を、出典を明らかにせず、単に「コピー／貼り付け」してレポートを作成することは、著作権を侵害するという点で社会的にも許されない行為です。数個の記事を組み合わせてコピーした場合でも同様です。レポート作成において、文献やインターネット上の記事を利用する際のルールについてわからない場合には、担当教員に相談してください。

(2) 単位の認定及び成績評価について

本学の単位の認定は、各科目について次の5段階で評価し、S～Cを合格とします。各科目の評価方法等は、シラバスに明示されています。

単位の認定は、正規試験としての筆記試験やレポートによるばかりでなく、平常試験や平常レポート等で行われることもあります。

	評語	学修成果	評点	GP
合 格	S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90点～100点	4
	A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80点～89点	3
	B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70点～79点	2
	C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60点～69点	1
不合格	F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59点以下	0

※GP (Grade Point) については、次頁を参照してください。

【単位認定上の注意事項】

- ・ 授業料を所定の期間に納入しなかった者（授業料全額免除者を除く）が履修する科目の単位認定は、授業料の納入が確認された後に行います。したがって、授業料未納によって除籍された者が当該年度（学期）に履修した科目は、単位を認定しません。
- ・ 集中講義の単位認定『学期』について
集中講義の日程ならびに単位認定『学期』については、履修登録手続き前に掲示します。開講日程（時間帯）が重複している場合は、二重履修となり履修できません。

(3) 成績発表について

各セメスターの成績発表日以降、「LC」で成績を確認することができます。各セメスターの成績発表日以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行いません。成績の確認は、メンテナンス期間を除き随時可能です。

(4) 不服申立てについて

成績評価について不服がある場合には、セメスターごとの所定の期間内に申立てをすることができます。不服申立ては、「LC」により行います。申請方法等の詳細は、掲示によりお知らせします。

この「不服申立て」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし、非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立て」については教務課窓口で対応します。

成績に対する不服は、単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは、申し立てることはできません。「不服申立て」にあたっては、シラバスの成績評価基準による自己採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど、不服申立てを行うに足る合理的な根拠を明確に説明する必要があります。要件を満たさない申立ては受理されません。

4. GPA制度について

GPA とは何かー「量」より「質」の学修

卒業するためには、124 単位を修得しなければなりません、この「単位」は、大学における学修の「量」をカウントするものです。これに対して、GPA とは、大学で修得した単位の「質」（クオリティ）を測定する尺度です。

GPA は、学生が履修した科目の成績評価（S、A、B、C 及び F）をそれぞれ 4、3、2、1、0 に点数化し（これを GP といいます）、履修科目の 1 単位当たり平均 GP の値を計算します。本学では、例えば奨学金の募集上の基準や研究室への所属決定の際の基準など様々な形で利用されています。また、就職において成績を重視する企業も増えていますので、採用上の判断材料として使われる場合もあるようです。

GPA は、学修の「量」より「質」を求める制度ですので、1 セメスター当たりの履修登録単位を制限する **Cap 制度**があります。

GPA 制度は、履修登録した授業科目に対する学生の履修責任を前提としています。**履修登録撤回**の手続きをとらずに、ある科目の学修を途中で放棄した場合には、不合格と同様に扱われ、GPA を大きく引き下げることになります。このようなことにならないように、よく考えて履修計画を立ててください。その際、履修計画の手引きとして、**シラバス**があります。シラバスには、その授業科目でどのようなことを学修するのか（授業概要・授業計画）、また学修の達成度をどのように評価するのか（評価方法）が、担当教員によって詳細に示されています。

もちろん、学修の「質」の向上は、学生の努力だけで達成されるものではなく、教員の教育責任も当然の前提となります。授業でよく理解できないところがあったら、**オフィスアワー**を利用して、直接担当教員に質問をしましょう。また、シラバスに書かれていた「評価方法」に照らして、成績評価に疑問を感じた場合には、授業担当教員に**不服申立て**をすることもできます。

GPA の最高点は 4.0 です。より高い GPA を獲得できるように、「量」だけでなく「質」の向上も目標として学修してください。

前頁の表で、S～C の評価及び不合格 F を 4～0 に点数化したものを GP（Grade Point）といい、さらに、以下の式によって、1 単位当たり平均 GP の値を計算したものを GPA といい、GPA は、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までの値を計算します。

$$\text{GPA (Grade Point Average)} = \frac{(\text{修得した各科目の単位数} \times \text{Grade Point}) \text{ の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

(注) GPA対象外科目

全学類で共通	自主学修プログラム、インターンシップ、「N」評価科目（他大学等で修得した科目等の認定単位）
人間発達文化学類	特別支援学校教育実習（基礎及び応用）、教育実習（事前・事後指導含む）、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、博物館実習、美術館実習、社会教育課題研究、社会教育実習

行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、キャリアモデル学習、コア・アクティブ科目
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「生涯学習社会と学校・家庭・地域」及び「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農実践基礎演習、食農実践特別演習、フードスペシャリスト論、フードコーディネーター論、調理学、調理実習（食農）

【GPA関連諸制度】

GPA制度の下には、これが有効に機能するようにさまざまな制度が設けられています。以下の（１）～（２）の制度を正しく理解していないと、GPAの計算に不利な結果を生ずる可能性がありますので、注意してください。なお、不合格（F判定）の科目を再履修して、C評価以上で合格した場合は、上書きされるので成績証明書には表示されません。教育実習などでの不合格（H）についても同様です。

（１）履修登録上限（Cap）制度について

本学では、単位修得に必要な予習・復習の時間を確保し、さらに、受講科目の「単位認定基準」が達成されるように、セメスターごとに履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを「Cap制度」といい、以下のようになっています。

１セメスター当たり 24 単位。（共生システム理工学類のみ 30 単位）

（注）Cap 除外科目

全学類で共通	集中講義、自主学修プログラム、インターンシップ、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目
人間発達文化学類	教職に関わる科目（免許取得を希望する教職登録者のみ。ただし、１年次は希望しない学生でも対象科目は除外）
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、社会教育課題研究、社会福祉課題研究、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、中国語コミュニケーション、英語コミュニケーション、English Presentations
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「生涯学習社会と学校・家庭・地域」及び「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目

※行政政策学類夜間主生については、行政政策学類夜間主学修案内「授業の履修について」も参照すること。

(2) 履修登録撤回制度について

履修登録をした科目について、授業内容が予想していたものと違っていた、または授業についていけない、などを理由にして所定期間内に手続きをした者に、履修登録撤回を認める制度を「履修登録撤回制度」といいます。

これは、上記のような場合に、学生の自主的な履修登録撤回によって、低いG Pを取得しG P Aが低下することを回避するための措置です。今年度は下記の期間内に行います。

履修登録撤回期間 具体的な日程は「教務関係日程表」により確認してください。

集中講義については、集中講義開始日の翌日まで履修登録撤回を認めます。ただし、食農学類開講の「畜産学特別実習」と「森林特別実習」については、登録撤回は認めません。また、共生システム理工学類の実習関係の集中講義に関しては、6月30日までを撤回期日とします。

履修登録撤回は、学生の履修計画を前提とした例外的な措置であるので、ある科目を履修撤回した場合に、代わりに別の科目を追加登録することはできません。

なお、履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、病気や事故などやむをえない理由で、履修登録をした科目の受講を継続することが困難になった場合などは、例外的にさかのぼって履修登録撤回を認めることがあります。入院していた証明書などを添付の上、授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、教務課へ申請する必要があります。

(注) 履修登録撤回を認めない科目

全学類で共通	受講調整実施科目、スタートアップセミナー、キャリア形成論、健康運動科学実習、英語A、英語B、英語(夜間主)、英語以外の外国語（基礎、基礎（特設）、応用）、スポーツ実習、情報リテラシー、問題探究セミナーⅠ
人間発達文化学類	問題探究セミナーⅡ、卒業研究科目
行政政策学類	必修科目、単位互換を除く放送大学科目（夜間）
経済経営学類	「全学類で共通」欄のとおり（専門科目における制限は無し）
共生システム理工学類	必修科目
食農学類	すべての専門教育科目 ※ただし、集中講義を除く ※集中講義のうち「畜産学特別実習」および「森林特別実習」は撤回を認めない

5. シラバスについて

「シラバス (syllabus)」とは、「授業計画」のことで、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価の基準や方法、予習・復習についての指示、教科書・参考書、履修条件などが記載されています。学生のみなさんは、履修計画の参考に使うほか、授業

期間全体を通じた授業の進め方を確認し、各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることができます。

履修計画を立てる際には、まず年度始めのガイダンス、学修案内によりその年度にどの科目を受講すべきか、受講可能であるかを確認します。学修案内の科目一覧には、授業の詳細な内容までは記されていないので、シラバスを参照して履修計画を立てることになります。受講時には授業全体に対する現在の授業の位置づけの確認したり、予習・復習のためのアドバイス、参考書などが勉強の参考になりますので、必ず自分の目で確認してどんどん活用してください。

また、シラバスには当該科目に関連する DP（ディプロマポリシー）の各項目の割合が示されています。後段で説明がありますが、各学生の学修履歴の記録やふり返りなどのツールとしてラーニング・ポートフォリオ（L ポートフォリオ）上で活用するためのものです。個々の授業を履修する際に特に意識する必要はありませんが、DP の各割合に応じてポイントが算出されるので、単に科目の単位（評価）だけでなく、DP の達成度も客観的に計ることが可能です。L ポートフォリオでは入学時・各セメスター・卒業時に、自己評価、授業評価を行い、それを 4 年間積み上げ、卒業までの自己の成長を記録します。

(1) 「LC」のシラバス

福島大学では、学生の履修登録システムとして「LC」を導入していますが、履修登録時や授業履修時に参考になるように、各授業のシラバスも「LC」から閲覧できるようになっています。「LC」にログインし、「シラバス」の項目から履修したい授業科目を検索して参照してください。

なお、自宅やアパート等、大学外から「LC」のシラバスを参照したい場合は、<http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>より「LC」を選択し参照してください。

(2) 詳細シラバス

教員によっては、授業の最初の時間に、「LC」に掲載したシラバスに加え詳細なシラバスを配付する場合があります。また、授業時の資料配付やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので、オンライン版のシラバスや授業時のアナウンスを参考にしてください。

6. オフィス・アワーについて

学生は授業の前後や教員の都合の許す時間帯に、履修上の相談や授業に関する質問等を行うことができますが、「オフィス・アワー」とは、教員（非常勤講師を除く）が研究室等において、そうした相談や質問に応じるため、あらかじめ設定されている時間帯のことです。各教員は、毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し、研究室等に待機しています。学生のみなさんは、オフィス・アワーを利用して研究室を訪れ、いろいろな質問や相談をすることができます。

大学の授業は、一般に、15 回にわたって体系的に構成されているため、一つの疑問点をそのままにしていると、授業全体が理解できなくなるおそれがあります。まさに、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。また、疑問点を質問するばかりでなく、オフィス・アワーを利用して、その授業科目のより発展的な勉強をするのにはどうすればよいか、担当教員にアドバイスを求めるのもよいでしょう。各教員のオフィス・アワーの時間・場所等については「LC」のシラバスで調べることができます。

7. その他履修上の注意点

- ①各セメスターの所定の期間に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合、当該セメスターの履修を認めないので、注意してください。
- ②各科目の履修方法等に従い履修してください。これに反する履修は認めません。違反した場合、単位の修得ができなくなる場合があります。
- ③指定された履修年次（セメスター）で単位を修得しないと、以降の学年での履修計画に支障を来すことがあるので、注意してください。
- ④出席不良により、正規（平常）試験の受験を認めないことがあるので、注意してください。
- ⑤講義等の録画・録音は、原則として認めません。ただし、やむを得ない場合は、担当教員の許可を得た上で認めることがあります。

4. 研究倫理に関して

研究倫理に関して

一般的に、大学の役割は①教育、②研究、③社会貢献の3つだと言われており、大学に入學した皆さんは、「教育を受ける」立場にいと同時に「研究を行う主体」であると見なされます。そして、研究を行う上で最も重要なことのひとつに「研究倫理の遵守」が挙げられます。研究倫理とは、非常に簡単に言うと、研究において差別的な立場をとったり偏見による類推や断言をすることによって、過去や現在に生きる誰かを傷つけたり誰かの利益を損ねたりしないことや、研究を行う上で不正行為を行わないという研究を行う者全てが守らなければならない規範・規則や考え方のことです。

さて、先にも述べたように、皆さんは教育を受ける立場にいと同時に研究を行う主体でもあります。研究というと自分とは関係ないものであると思いがちかもしれません。しかし、大学では学問を「教えてもらう」のではなく、自ら主体的に問いを立て、探究し、学んでいく姿勢が求められます。また、自らが学んだことをレジュメやスライドにまとめてプレゼンテーションを行ったり、レポートを執筆するといった機会が数多く存在します。さらに、大学での学びの集大成として「卒業研究」を行い、その成果を「卒業論文」として執筆することが一般的です。これらの、皆さんが大学での学びの中で日常的に行わなければならないことの全てが学問研究の一部であることを自覚しなければなりません。では、具体的にはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。ここでは、皆さんが1年生の時点から取り組む機会の多い「レポート」を例に見ていきましょう。

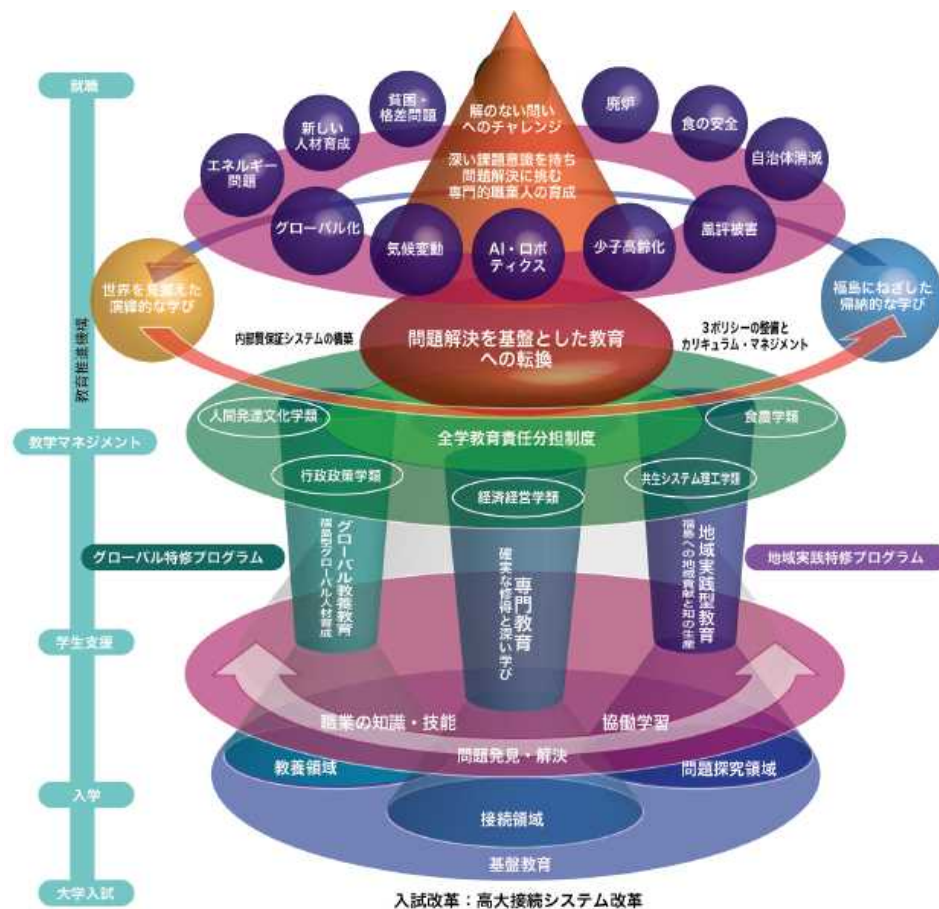
レポートを作成する際は、教員から提示された、あるいは自分で設定したテーマについて、文献を読んだり、関連する資料・データを収集・分析したりして考察を深めていく必要があります。インターネットの普及に伴って、これらは昔に比べて格段に容易になってきました。また、文章の作成も手書きではなくパソコン等を用いることがほとんどとなってきています。こうしたICT技術を活用できることも、大学生にとっては非常に重要なスキルのひとつです。一方で、パソコンやインターネットは、「コピー&ペースト（コピペ）」によって他者が作成した文章や図表などをそのまま取り込んで使うことも容易にできてしまいました。少し難しい言葉になりますが、他者が作成した文章や図表などを勝手に自分のものとして使うことを「剽窃（ひょうせつ）」と言います。この剽窃という行為は研究不正の代表的なもののひとつであり、残念ながら、大学生が作成するレポートにおいても頻繁に見られるものです。レポートは必ず自分の言葉で書くことが基本となります。とは言え、先人の知見を参照することはレポートを作成する上では避けて通れません。そこで、他者の作成した文章や図表などをレポートに掲載する際は、「引用」を行い、誰の文章・図表等を引用したかを示す「出典」を明示する必要があります。引用と出典明示のルールや方法は、これからスタートアップセミナーや様々な科目で学ぶことであり、まだピンとこないかもしれません。しかし、この、「引用」と「出典の明示」を用いて、自分で作成したものと他者の作成したものを明確に区別しなければならないということは、現時点で強く認識しておいてください。

研究倫理を逸脱することは、明確な不正行為であり、単位の取消や場合によっては卒業で

きなくなってしまうような重大なものであることを自覚してください。研究倫理について学ぶ機会はきちんと用意されています。研究倫理を守り、皆さんが健全に学問研究に取り組んでいくことに期待しています。

5. 福島大学のカリキュラム

福島大学のカリキュラム



(新しい福島大学の教育理念の概念図)

<福島大学の教育理念>

- 「問題解決を基盤とした教育」への転換
- 「解のない問題にチャレンジできる人材」の育成

福島大学は、これからの大きな社会の変化に主体的に対応し、新たな社会形成に貢献するため「解のない問題にチャレンジできる人材」を育成することを教育の目的とします。そのために教育理念を「問題解決を基盤とした教育」へ転換します。

福島県は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地として、21世紀の課題を他よりも一足先に経験した地域ということができます。加えて、世界的な人口増加や我が国の人口減少、それらに伴う経済問題や資源問題、環境問題、一方のグローバル化、テクノロジーの加速度的な発達、などの複雑で複合的な課題を解決するためには、教育の在り方を転換しなければなりません。それは、予め準備された答えを探すのではなく、現実から学び、粘り強く問題を探究し、学生自身が問題解決のプロセスに参加することが必要です。上に掲げた図は、このような考え方を概念的に示したものです。

別表 1

共生システム理工学類 履修基準表

	領域区分	科目区分	開設科目等	履修 年次	セメス ター	1科目 単位数	卒業要件	
							必修	選必
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	
			健康運動科学実習	1	1	1	1	
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1～	1	4	
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	1～	2	2	9
			社会科学分野の科目	1～	1～	2	2	
			自然科学分野の科目	1～	1～	2	2	
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2～	3～	2	2	
			インターンシップ	2～	3～	1又は2		
			ワーキングスキル	2～	3～	1又は2		
		健康・運動科目	スポーツ実習	1～	2～	1		
		外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	2～	3～	1	4	
			応用英語	1～	1～	1		
			英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1		
			英語以外の外国語基礎（特設）Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1		
			英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ	2～	3～	1		
		情報科目	情報リテラシー	1～	1～	2		
	問題探究領域	問題探究科目		1～	1～	2	2	
		自主学修プログラム		1～	1～	1又は2		
		問題探究セミナー	問題探究セミナーⅠ	1	2	2	2	
	小計							34
専門教育	学類共通領域	学類共通科目		1	1, 2	2	4	
		学類基礎科目	学類基礎科目A	1	1, 2	2	8	
			学類基礎科目B	1	1	2		4
			学類基礎科目C	1	2	2		4
		学類専門科目	共生の科学Ⅲ	3	5	2	2	
	コース領域	コース基礎科目（必修）		2～	3～	2	16	
		コース専門科目（選択必修）（注1）		2～	3～	2		24
		コース実践科目	問題探究セミナーⅡを含む（注2）	2～	3～	1又は2	6	4
	演習	演習	演習Ⅰ・演習Ⅱ	3, 4	6, 7	2	4	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7, 8	2	4	
小計							80	
自由選択	自由選択領域（注3）						10	
全体	総計						124	

※「選必」とは選択必修を示す。

※教養領域の「英語以外の外国語」は同一言語で修得する。

※教養領域の外国語科目必修4単位の履修方法は、「英語4単位」、「英語以外の外国語4単位」、「英語2単位＋英語以外の外国語2単位」のいずれかとする。

※卒業要件単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

（注1）各コースで示されたコース専門科目（選択必修）のうち、指定の科目群からは12単位以上取得しなければならない。

（注2）問題探究セミナーⅡは、4セメスターにて各コースのコース実践科目（必修）の科目として開講される。

（注3）学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位及び配属されているコース以外のコースのコース領域科目の各科目区分において修得した単位は、自由選択に計上することができる。

別表2

共生システム理工学類 履修基準表（外国人留学生）

	領域区分	科目区分	開設科目等	履修 年次	セメス ター	1科目 単位数	卒業要件	
							必修	選必
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	
			健康運動科学実習	1	1	1	1	
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1～	1	8	9
	外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	2～	3～	1			
		応用英語	1～	1～	1			
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1			
		英語以外の外国語基礎（特設）Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1			
		英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ	2～	3～	1			
	日本語科目	日本語Ⅰ～Ⅳ	1～	1～	1			
	日本事情	日本事情（Ⅰ～Ⅳ）	1～	1～	2			
	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	1～	2	2		
		社会科学分野の科目	1～	1～	2	2		
		自然科学分野の科目	1～	1～	2	2		
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2～	3～	2	2	
			インターンシップ	2～	3～	1又は2		
			ワーキングスキル	2～	3～	1又は2		
	健康・運動科目	スポーツ実習	1～	2～	1			
	情報科目	情報リテラシー	1～	1～	2			
	問題探究領域	問題探究科目		1～	1～	2	2	
		自主学修プログラム		1～	1～	1又は2		
		問題探究セミナー	問題探究セミナーⅠ	1	2	2	2	
					小計			34
専門教育	学類共通領域	学類共通科目		1	1, 2	2	4	
		学類基礎科目	学類基礎科目A	1	1, 2	2	8	
			学類基礎科目B	1	1	2		4
			学類基礎科目C	1	2	2		4
	学類専門科目	共生の科学Ⅲ	3	5	2	2		
	コース領域	コース基礎科目（必修）		2～	3～	2	16	
		コース専門科目（選択必修）（注1）		2～	3～	2		24
		コース実践科目	問題探究セミナーⅡを含む（注2）	2～	3～	1又は2	6	4
	演習	演習	演習Ⅰ・演習Ⅱ	3, 4	6, 7	2	4	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7, 8	2	4	
					小計			80
自由選択	自由選択領域（注3）					10		
全体	総計					124		

※「選必」とは選択必修を示す。

※ 外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く1カ国語で8単位を修得する。

※「日本事情Ⅰ～Ⅳ」は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

※卒業要件単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

（注1）各コースで示されたコース専門科目（選択必修）のうち、指定の科目群からは12単位以上取得しなければならない。

（注2）問題探究セミナーⅡは、4セメスターにて各コースのコース実践科目（必修）の科目として開講される。

（注3）学類共通領域において卒業要件を超えて修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超えて修得した単位及び配属されているコース以外のコースのコース領域科目の各科目区分において修得した単位は、自由選択に計上することができる。

6. ラーニングポートフォリオ について

1. ラーニングポートフォリオ（Lポートフォリオ）について

ラーニングポートフォリオ（LC 上は「Lポートフォリオ」という名称になっています。この文章上も以降Lポートフォリオで説明します。）は、自身の学修履歴の記録や学修の振り返りのツールで、LC上に構築されています。Lポートフォリオで自己評価を記録していくことにより、自身の能力向上への意識が強くなります。また、評価結果は授業やカリキュラムの改善にフィードバックされます。

Lポートフォリオを使う場合は、ネットワークに接続し、自身のコンピュータや大学のコンピュータを使って、LCにアクセスし、上部メニューから選択します。Lポートフォリオでは、次のことを行います。

（１）キャリアノート：自分自身の基礎情報や大学での学修目標、進路希望、学内外の活動・受賞歴などを記録します。

（２）セメスターごとの自己評価：〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉（全学 DP）や自分の所属する学類の DP（DP はディプロマ・ポリシーの略で、大学が学位を与える方針）に即して作られたルーブリック（評価基準表）で自己評価します。また、自己評価のコメントも記入します。

（３）各種アンケート：セメスター内で受講した授業に対する評価を記入したり、学生生活に関するアンケート、入学時や卒業時のアンケートに回答します。

（４）その他：教員免許状を取得する場合は教職履修カルテを記入したり、全学特修領域、英語の評価指標（SELF）の自己評価、などを記入します。

これらは、基本的に各セメスター（学期）ごとに、指定された期間内に記入する必要があり、記入が完了することによって、次のセメスターの履修登録ができるようになります。

全学 DP、各学類のルーブリックは下記のとおりです。左側に能力の内容を示し、「克服すべきレベル」から「応用レベル」まで能力のレベルが記載されています。各項目の内容をよく読んで、自身が該当するレベルをLポートフォリオ上でマークしてください。

<全学 DP の〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉ルーブリック>

大項目*	中項目**	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
最新の専門知識及び技術 （専門知識・技術）	資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル	ほとんどのアカデミックスキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	基本的なアカデミック・スキルを身に付けており、ある程度実用レベルに達している	授業以外でもアカデミック・スキルを身に付けようと努力している	大学で学修するためにアカデミック・スキルを身に付ける必要性があることを理解できる	基本的なアカデミック・スキルが身につけていない
	最新の学問的知識や技術を身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や技術を改善したり更新したりする態度	自身の専門分野のより新しい知見を得ようとしており、それを社会に役立てようとしている	自分の専門分野では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自分の専門分野に関する本やインターネットの記事を読んだり集めたりしている	自身が大学で身に付けるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、力や意欲も足りない

本質を見極めるための教養と学際性 (教養と学際性)	物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着	身近な事象や社会的な事象を幅広い教養で受け止める、専門にこだわることなく探究しようとする	人文科学や社会科学、自然科学と自分の専門を関連付けることができる	自分の専門分野以外の本やインターネットの記事を日常的に読んでいる	教養を身に付ける必要性を理解している	探究的態度が弱く、教養の必要性を理解していない
	他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築	専門性を拡張させ、物事を総合的に見るために、幅広い知識のネットワークが構築できている	自身の専門領域以外に関心をもつ学問分野を持っており、知識をつなぎ合わせることができる	レポートを書くとき、自分の専門分野以外の領域にも言及することができる	知識と知識を関連付けることの必要性を理解している	知識が断片的で、自分の専門分野の意味も理解できていない
協働的な問題探究 (社会的スキル)	日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル	幅広い問題意識や問題発見・解決のスキルを実際の問題解決に活用できる	問題の持つ多様な側面を分析し、自分なりのアプローチで問題解決に向かおうとする	自分の関わる日常的問題について粘り強く問題解決に向けて努力することができる	日常生活や国際社会に対する問題意識を一定程度もっている	日常生活や国際社会に対する問題意識が弱い
	高度なリーダーシップやフォロワーシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践	高度なグループワークのスキルが身につけており、他者と協働して問題探究できる	グループワークでリーダーシップを発揮することができ、全体がうまくいくように工夫できる	グループワークにおいて、自身の役割を意識して参加することができる	少々苦手であってもグループワークに参加することができる	グループワークのスキルが身につけておらず、他者との協働が苦手である
社会の改善につなげる創造性 (認知的スキル)	事実にもとづく客観的な社会の把握、および多面的にアプローチするためのデータ解析やフィールドワークなど様々なツールの駆使	様々なツールを駆使して、事実に基づき客観的に社会を把握できる	様々な知見に基づいてデータを分析し、事実に基づいてアイデアを生むことができる	本やインターネット、フィールドワークなどから、より客観的なデータを得ることができる	物事を一面的にとらえるだけではまずいことを知っている	主観的で、物事の把握が一面的である
	社会と自身の関係を問い直し、常識にとらわれることのない独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れずチャレンジ精神	独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れずチャレンジ精神を持ち、社会に貢献しようとする	自分の考えを理路整然と述べることができ、他者との違いを調整できる	うまく発表できないまでも、理屈に合った自分なりの考え方を持っている	他人に流されないうち自分なりの考え方を持とうとしている	一般的な考え方に流されやすく、これまでのやり方にこだわる
市民としての主体的態度 (態度や価値観)	東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地に学ぶ者として、被災の概要を知り、被災地に寄添い共感的にアプローチする態度	被災地に学ぶ者として、現状を十分に理解しており、被災者に共感的にアプローチできる	被災地の特定分野や特定地域に関心をもっており、復興に必要な術を考えることができる	関係授業、フィールドワークや学習会に参加するなどして自分なりに情報を集めたことがある	福島大学が東日本大震災・原発事故の被災地にあることを意識している	東日本大震災への関心が薄く、被災地への共感が薄い
	地域の抱える課題を社会が直面する21世紀的課題として捉え直し、主体的に探究しようとする態度	地域の抱える課題を社会が直面する21世紀的課題として捉え直し、主体的に探究しようとする	身近な課題を世界が直面するグローバルな課題と関連付けてとらえ、探究しようとする	すべてではないにせよ地域や社会の抱えている課題の現状を知っている	少子高齢化や環境問題などの現代社会が抱えている課題に関心をもっている。	日本や世界全体が直面している課題への関心が薄い

＊ 大項目は〈福島大学生に期待する姿勢および能力〉を表します。

＊＊ 中項目は「大項目」の下位に属する具体的な説明を表します。

共生システム理工学類DPルーブリック

大項目	中項目	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
I. 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性	理工学的な基礎知識	理工学分野のほとんどの基本的なアカデミック・スキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	理工学分野の基本的なアカデミック・スキルを身につけており、ある程度実用レベルに達している	授業および授業以外でも理工学分野のアカデミック・スキルを身につけようと努力している	大学で学修するために理工学分野のアカデミック・スキルを身につける必要があることを理解している	理工学分野の基本的なアカデミック・スキルが身につけておらず、その必要性も理解していない
	文系理系の枠を超えた幅広い領域の基礎理解	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を高度に融合させて、多角的・総合的な視点で捉えることができる	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を踏まえて、文理融合的な視点で捉えることができる	人文科学や社会科学の基本的な知見を有しており、自然科学分野の自身の専門に関連付けることができる	文理融合の知見を身につける必要性を理解している	探究的態度が弱く、文理融合の必要性を理解していない
	専門領域を学び続ける姿勢と専門性の確立	自身の専門領域の知識や技術を確実に持っており、かつ、より新しい知見を得ようと努力し、知見の更新を継続することができる	自身の専門領域では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自身の専門領域に関する文献や資料を主体的に読んだり集めたりしている	自身が大学で身につけるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、学力や意欲も足りない
II. 論理的で的確な立案力と決定力	主張を論理的に表現する力	専門性を拡張させ、物事を総合的に認識し、見解の異なる理論も含めて幅広い知識を活用した論理的な説得力のある説明ができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野の知見も活用し、より幅広い根拠に基づく説得力のある論理展開ができる	自身の専門領域を中心とした知識をつなぎ合わせ、根拠に基づいた論理展開ができる	知識と知識を関連づけ、根拠に基づいて論理を展開することの必要性を理解している	知識が少なく断片的で、論理的に思考することが難しい
	立案し決定する力	社会の変化や不確実性も考慮して、課題に対する学際的で優れた改善案等を立案するとともに、社会の多様な主体や基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野も活用して、課題に対する実効的な改善案等を立案するとともに、多様な基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域を中心として、課題に対する改善案等を立案し、相対的に良い案を判断することができる	課題に対する改善案等を立案し、社会的視点や基準に基づいて決定することの必要性を理解している	課題に対する自身の案を考えることができず、決定するための視点や基準も理解できていない
III. 学際的・国際的に実践する力	国際的に活躍するために必要な語学力	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分と他者で議論して、結果のとりまとめや新たな提案をすることができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明して、他者と議論することができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明することができる	国際社会に対する関心があり、英語の語学力を身につける必要性を理解している	国際社会に対する関心が低く、英語の基礎的な語学力が身につけていない
	専門領域が異なる人に対しても情報発信し交渉を行なう力	高度なグループワークのスキルが身につけており、専門領域の異なる他者との協働においてリーダーシップを発揮し、効果的な結論を導き出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすとともに、協働による相乗効果を生み出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすことができる	専門領域の異なる他者との協働の必要性を理解している	専門領域の異なる他者との協働に関心が無い
IV. 積極的かつ持続的な貢献意識	倫理的な行動を選択する姿勢	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から望ましい判断と行動ができるだけでなく、社会にも拡げていくことができる	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から、望ましい判断と行動をすることができる	科学技術と社会との関係において、求められる技術者倫理や環境倫理に関する基本事項を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解していない
	貢献し続ける熱意	社会が直面している問題について、自分の専門領域だけでは解決できないような大きな課題に立ち向かい、粘り強く取り組み続けることができる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示するとともに、継続して改善案を模索できる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示することができる	社会が直面している問題について、解決のために貢献することの必要性を理解している	社会が直面している問題について、解決のために貢献しようとする姿勢が見られない

共生システム理工学類

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【共生システム理工学類の教育目標】

本学類は共生システムの名の下に、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学ばせ、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成します。

【学類ディプロマ・ポリシー】

本学類は、基礎的な理工学的知識を習得し、自ら専門性を高め、よりよい社会の構築に向けて専門性を活用できる理工系人材を養成するため、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」の四つの能力の観点からディプロマ・ポリシーを定めます。

I. 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性

理工学的基礎知識を幅広く有し、文系理系の枠を超えた幅広い領域への関心を有した上で、自ら選択した専門領域において自主的・継続的な学習を行ない、確かな専門性を身につけたこと。

II. 論理的で的確な立案力と決定力

自らの主張を論理的に表現でき、立場の違う相手を理解し尊重する姿勢を持ち、冷静な討議を行ない、現状を的確に把握した上で立案し、決定する能力を有すること。

III. 学際的・国際的に実践する力

専門領域や国を越えて情報発信及び交流する能力を有し、課題の解決に向けて自らの専門性を活かすと共に、様々な人と協同して行動できること。

IV. 積極的かつ持続的な貢献意識

地域の課題から国際的な課題まで現実の課題に貢献し続ける熱意を持ち、倫理的な行動を選択する姿勢を持ち、困難に直面しても挫けない心を持つこと。

7. 教務關係日程表

令和3年度 教務関係日程表

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
前期	4月	木	金	土	日	月	火	水	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月②	火②	水②	木③	金③	土	日	月③	火③	水③	木	金④						
		春季休業				入学式		授 業 期 間																													
		履修登録期間 (4月3日～4月16日まで)										履修登録修正期間 (4月17日～4月28日まで)																									
		入学前ガイダンス (4/2～4)				新入生ガイダンス (4/5～7)														授業なし (新歓 対応)																	
		抽選1次						結果 発表						抽選 2次		抽選 3次																					
		土③	日	月	火	水	木④	金⑤	土④	日	月④	火④	水④	木⑤	金⑥	土⑤	日	月⑤	火⑤	水⑤	木⑥	金⑦	土⑥	日	月⑥	火⑥	水⑥	木⑦	金⑧	土⑦	日	月⑦					
中期	5月	授 業 期 間																																			
		履修撤回										Lポートフォリオ目標設定期間 (履修登録完了後～5月末日まで)																									
		火⑦	水⑦	木⑧	金⑨	土⑧	日	月⑧	火⑧	水⑧	木⑨	金⑩	土⑨	日	月⑨	火⑨	水⑨	木⑩	金⑪	土⑩	日	月⑩	火⑩	水⑩	木⑪	金⑫	土⑪	日	月⑪	火⑪	水⑪						
		授 業 期 間																																			
後期	6月	木⑫	金⑬	土⑫	日	月⑫	火⑫	水⑫	木⑬	金⑭	土⑬	日	月⑬	火⑬	水⑬	木⑭	金⑮	土⑭	日	月⑭	火⑭	水⑭	木	金	土⑮	日	月⑮	火⑮	水⑮	木⑮	金	土					
		授 業 期 間																																			
	7月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火					
		正規試験・補講期間								夏季休業 (集中講義・各種実習等)																							卒業試験・補講期間				
										追試			夏季一斉休業										追試期間			卒論											
		※Lポートフォリオ自己評価期間 (正規試験終了後～成績発表前日 (9月8日) まで)																																			
	8月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木						
		夏季休業 (集中講義・各種実習等)																																			
		成績発表・不服申立 (全学生)										履修登録期間 (9月15日～9月26日まで)																									
		Lポートフォリオ自己評価期間 (～成績発表前日 (9月8日) まで)										抽選1次														結果 発表					抽選 2次		抽選 3次		卒業式		

※ 10月27日(水)のみなし土曜日の授業は、夜間6、7時限に行われます。

※ Lポートフォリオは、目標→自己評価の順で行いますので、期限内に各自入力をお願いします。入力が完了しないと、次セメスターの履修登録ができなくなります。

8. 基盤教育授業科目一覽表

2021（令和3）年度 基盤教育科目授業一覧表

キャリア形成論

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリア形成論（人）	富永 美佐子・小野原 雅夫・川田 潤・保木井 啓史	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論（行）A	西田 奈保子	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論（行）B	今西 一男	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論（経）	岩井 秀樹	水	2	1	2	L 3	
前期	キャリア形成論（理）	山口 克彦・他1名	水	2	1	2	L 4	
前期	キャリア形成論（食）	小山 良太	水	2	1	2	L 1	

健康運動科学実習

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		行政政策学類
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	月	2	1	1	S 28	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	2	1	1	S 41	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	2	1	1	S 43	人間発達文化学類
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1		
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	月	3	1	1	S 28	
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S 33	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S 41	
前期	バスケットボール	本嶋 良恵	月	3	1	1	S 43	経済経営学類
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	3	1	1		
前期	テニス	安田 俊広	月	3	1	1		
前期	バドミントン	(非)工藤 孝幾	火	3	1	1		
前期	テニス	本嶋 良恵	火	3	1	1	S 43	
前期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1	M 1	
前期	フィットネス	鈴木 裕美子	火	3	1	1	M 2	共生システム理工学類
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	火	3	1	1		
前期	ゴルフ	川本 和久	火	3	1	1		
前期	フィットネス	鈴木 裕美子	金	3	1	1	M 2	
前期	バドミントン	(非)工藤 孝幾	金	3	1	1	M 24	
前期	アルティメット	杉浦 弘一	金	3	1	1		
前期	ソフトボール	(非)諏訪 雅貴	金	3	1	1		食農学類
前期	アルティメット	杉浦 弘一	金	4	1	1	M 2	
前期	フィットネス	鈴木 裕美子	金	4	1	1	M 24	
前期	バドミントン	本嶋 良恵	金	4	1	1		

英語AⅠ・AⅡ

※LL教室、AV教室（M講義棟3階）

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語AⅠ01	吉高神 明	月	2	1	1	S 11	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語AⅠ02	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S 35	
前期	英語AⅠ03	松浦 浩子	月	2	1	1	LL教室	
前期	英語AⅠ04	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S 33	
前期	英語AⅠ05	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S 34	
前期	英語AⅠ06	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	2	1	1	S 22	
前期	英語AⅠ07	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S 31	
前期	英語AⅠ08	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S 42	
前期	英語AⅠ09	(非)荒 哲	月	2	1	1	S 21	
前期	英語AⅠ10	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S 38	
前期	英語AⅠ21	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S 35	
前期	英語AⅠ22	松浦 浩子	月	3	1	1	LL教室	
前期	英語AⅠ23	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S 42	
前期	英語AⅠ24	(非)荒 哲	月	3	1	1	S 21	
前期	英語AⅠ25	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S 31	
前期	英語AⅠ26	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S 38	
前期	英語AⅠ27	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S 36	
前期	英語AⅠ28	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S 22	
前期	英語AⅠ29	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S 34	
前期	英語AⅠ30	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S 32	
前期	英語AⅠ61	佐久間 康之	火	4	1	1	S 14	食農学類
前期	英語AⅠ62	飯嶋 良太	火	4	1	1	AV教室	
後期	英語AⅠ11	吉高神 明	月	2	1	1	S 11	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語AⅠ12	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S 35	
後期	英語AⅠ13	松浦 浩子	月	2	1	1	LL教室	
後期	英語AⅠ14	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S 33	
後期	英語AⅠ15	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S 34	
後期	英語AⅠ16	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	2	1	1	S 22	
後期	英語AⅠ17	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S 31	
後期	英語AⅠ18	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S 42	
後期	英語AⅠ19	(非)荒 哲	月	2	1	1	S 21	
後期	英語AⅠ20	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S 38	
後期	英語AⅠ41(上級)	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S 36	
後期	英語AⅠ42(基礎)	朝賀 俊彦	月	2	1	1	S 23	
後期	英語AⅠ31	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S 35	
後期	英語AⅠ32	松浦 浩子	月	3	1	1	LL教室	
後期	英語AⅠ33	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S 42	
後期	英語AⅠ34	(非)荒 哲	月	3	1	1	S 21	
後期	英語AⅠ35	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S 31	
後期	英語AⅠ36	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S 38	
後期	英語AⅠ37	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S 36	
後期	英語AⅠ38	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S 22	
後期	英語AⅠ39	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S 34	
後期	英語AⅠ40	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S 32	行政政策・経済経営学類
後期	英語AⅠ43(上級)	吉高神 明	月	3	1	1	S 11	
後期	英語AⅠ44(基礎)	飯嶋 良太	月	3	1	1	AV教室	
後期	英語AⅠ71	佐久間 康之	火	4	1	1	S 14	
後期	英語AⅠ72	飯嶋 良太	火	4	1	1	AV教室	
後期	英語AⅠ91(基礎)	佐々木 俊彦	火	4	1	1	S 35	食農学類

前期	英語AⅡ61	高田 英和	木	2	1	1	S 23	食農学類
前期	英語AⅡ62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	2	1	1	S 22	
前期	英語AⅡ63	後藤 史子	木	2	1	1	S 31	
前期	英語AⅡ01	坂本 恵	金	1	1	1	S 32	
前期	英語AⅡ02	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S 33	
前期	英語AⅡ03	(非)荒 哲	金	1	1	1	S 21	
前期	英語AⅡ04	(非)川崎 和基	金	1	1	1	S 36	
前期	英語AⅡ05	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S 43	
前期	英語AⅡ06	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S 38	
前期	英語AⅡ07	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S 22	
前期	英語AⅡ08	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	S 34	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語AⅡ09	(非)レジス・ドラビゾン	金	1	1	1	S 12	
前期	英語AⅡ10	佐藤 元樹	金	1	1	1	S 28	
前期	英語AⅡ21	後藤 史子	金	3	1	1	S 31	
前期	英語AⅡ22	川田 潤	金	3	1	1	S 14	
前期	英語AⅡ23	(非)荒 哲	金	3	1	1	S 21	
前期	英語AⅡ24	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S 42	
前期	英語AⅡ25	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S 23	
前期	英語AⅡ26	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S 43	
前期	英語AⅡ27	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	3	1	1	S 22	
前期	英語AⅡ28	(非)ジョン・ティルマント	金	3	1	1	S 34	行政政策・経済経営学類
前期	英語AⅡ29	(非)レジス・ドラビゾン	金	3	1	1	S 12	
前期	英語AⅡ30	坂本 恵	金	3	1	1	S 32	
後期	英語AⅡ71	高田 英和	木	2	1	1	S 23	
後期	英語AⅡ72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	2	1	1	S 22	
後期	英語AⅡ73	後藤 史子	木	2	1	1	S 31	
後期	英語AⅡ11	坂本 恵	金	1	1	1	S 32	
後期	英語AⅡ12	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S 33	
後期	英語AⅡ13	(非)荒 哲	金	1	1	1	S 21	
後期	英語AⅡ14	(非)川崎 和基	金	1	1	1	S 36	
後期	英語AⅡ15	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S 43	食農学類も受講可
後期	英語AⅡ16	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S 38	
後期	英語AⅡ17	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S 22	
後期	英語AⅡ18	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	S 34	
後期	英語AⅡ19	(非)レジス・ドラビゾン	金	1	1	1	S 12	
後期	英語AⅡ20	佐藤 元樹	金	1	1	1	S 28	
後期	英語AⅡ41(上級)	川田 潤	金	1	1	1	S 14	
後期	英語AⅡ42(基礎)	高田 英和	金	1	1	1	S 23	
後期	英語AⅡ31	後藤 史子	金	3	1	1	S 31	
後期	英語AⅡ32	川田 潤	金	3	1	1	S 14	行政政策・経済経営学類
後期	英語AⅡ33	(非)荒 哲	金	3	1	1	S 21	
後期	英語AⅡ34	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S 42	
後期	英語AⅡ35	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S 23	
後期	英語AⅡ36	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S 43	
後期	英語AⅡ37	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	3	1	1	S 22	
後期	英語AⅡ38	(非)ジョン・ティルマント	金	3	1	1	S 34	
後期	英語AⅡ39	(非)レジス・ドラビゾン	金	3	1	1	S 12	
後期	英語AⅡ40	坂本 恵	金	3	1	1	S 32	
後期	英語AⅡ43(上級)	福富 靖之	金	3	1	1	S 35	食農学類も受講可
後期	英語AⅡ44(基礎)	佐藤 元樹	金	3	1	1	S 28	

人文科学分野【「人間と文化」分野】

開講	科 目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	心理学Ⅰ	飛田 操	月	1	1	2	遠隔	
前期	美術	加藤 奈保子	木	1	1	2	遠隔	
前期	精神疾患とその治療	片山 規央	金	2	1	2	遠隔	
後期	哲学Ⅰ	(非)額岸 佑亮	月	1	1	2	遠隔	
後期	心理学Ⅱ	鶴巻 正子	月	1	1	2	遠隔	
後期	音楽	横島 浩	水	2	1	2	M 22	
後期	倫理学	樋口 良之・小野原 雅夫	水	2	1	2	M 24	
後期	ことばの仕組み	福富 靖之	木	1	1	2	遠隔	
後期	言語・文学Ⅱ	澁澤 尚・佐藤 佐敏	金	2	1	2	遠隔	

社会科学分野【「社会と歴史」分野】

開講	科 目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	若者・学校・社会	呉 書雅・前川 直哉	月	1	1	2	L 4	
前期	市民と法	山崎 暁彦	木	1	1	2	L 4	行政政策学類生履修不可
前期	地域論Ⅰ	藤原 遼	金	2	1	2	遠隔	
前期	経済学Ⅱ	大川 裕嗣	金	2	1	2	L 2	経済経営学類生履修不可
後期	社会論	鈴木 賢夫	月	1	1	2	L 2	
後期	歴史学Ⅱ	小松 賢司 他	水	2	1	2	遠隔	
後期	日本国憲法 01	(非)二瓶 由美子	水	2	1	2	L 2	行政政策学類生履修不可
後期	経済学Ⅰ	荒 知宏	木	1	1	2	遠隔	経済経営学類生履修不可
後期	農業と人間	生源寺 真一	木	1	1	2	L 2	
後期	日本国憲法 02	阪本 尚文	金	2	1	2	遠隔	行政政策学類生履修不可

自然科学分野【「自然と技術」分野】

開講	科 目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	食品の機能	熊谷 武久	月	1	1	2	遠隔	
前期	食と健康	升本 早枝子	木	1	1	2	遠隔	
前期	環境の科学	横尾 善之	金	2	1	2	L 4	
後期	生命の科学	木村 勝彦	月	1	1	2	遠隔	
後期	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	小室 安宏	水	2	1	2	遠隔	
後期	ちからとうごき	馬場 一晴	木	1	1	2	遠隔	
後期	物質の科学	杉森 大助	金	2	1	2	遠隔	

ワーキングスキル【総合科目】

開講	科 目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
後期	知的財産の基礎知識	横島 善子	火	4	2	2	L 3	2年生以上
後期	データサイエンス入門	(非)村重 慎一郎 他	金	4	2	2	M 4	2年生以上：受講者数50人に制限

スポーツ実習

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	2	1	1	S 28	行政政策・経済経営学類
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	S 41	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	2	1	1		人間発達文化学類
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1		
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	3	1	1	S 28	
後期	バドミントン	本嶋 良恵	月	3	1	1	S 41	
後期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	月	3	1	1		
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	S 43	
後期	タグラグビー	松本 健太	月	3	1	1		共生システム理工・食農学類
後期	バドミントン	(非)工藤 孝幾	金	3	1	1	C 101	
後期	卓球	鈴木 裕美子	金	3	1	1	C 102	
後期	バスケットボール	杉浦 弘一	金	3	1	1	C 103	

英語BⅠ・BⅡ、応用英語

※LL教室、AV教室（M講義棟3階）

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語BⅠ01	佐久間 康之	月	1	2	1	S 14	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅠ02	飯嶋 良太	月	1	2	1	AV教室	
前期	英語BⅠ03	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S 23	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅠ04	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S 33	
前期	英語BⅠ05	(非)志子田 真由子	月	1	2	1	S 31	
前期	英語BⅠ06	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S 36	
前期	英語BⅠ07	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S 22	
前期	英語BⅠ08	(非)芝田 直久	月	1	2	1	S 32	
前期	英語BⅠ09	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S 42	
前期	英語BⅠ41(上級)	(非)ジョン・ティルマント	月	1	2	1	S 34	
前期	英語BⅠ42(基礎)	(非)荒 哲	月	1	2	1	S 21	
前期	英語BⅠ61	高木 修一	火	2	2	1	S 41	食農学類
前期	英語BⅠ62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	火	2	2	1	S 22	
前期	英語BⅠ81(基礎)	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S 42	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅠ21	(非)レジス・ドラビゾン	水	1	2	1	S 12	
前期	英語BⅠ22	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S 35	
前期	英語BⅠ23	吉高神 明	水	1	2	1	S 11	
前期	英語BⅠ24	松浦 浩子	水	1	2	1	LL教室	
前期	英語BⅠ25	川田 潤	水	1	2	1	S 14	
前期	英語BⅠ26	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S 42	
前期	英語BⅠ27	(非)荒 哲	水	1	2	1	S 21	
前期	英語BⅠ28	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S 22	
前期	英語BⅠ29	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S 32	
前期	英語BⅠ43(上級)	照沼 かほる	水	1	2	1	S 33	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅠ44(基礎)	高田 英和	水	1	2	1	S 23	
後期	英語BⅠ11	佐久間 康之	月	1	2	1	S 14	
後期	英語BⅠ12	飯嶋 良太	月	1	2	1	AV教室	
後期	英語BⅠ13	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S 23	
後期	英語BⅠ14	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S 33	
後期	英語BⅠ15	(非)志子田 真由子	月	1	2	1	S 31	
後期	英語BⅠ16	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S 36	
後期	英語BⅠ17	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S 22	
後期	英語BⅠ18	(非)芝田 直久	月	1	2	1	S 32	
後期	英語BⅠ19	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S 42	食農学類
後期	英語BⅠ51(上級)	(非)ジョン・ティルマント	月	1	2	1	S 34	
後期	英語BⅠ52(基礎)	(非)荒 哲	月	1	2	1	S 21	
後期	英語BⅠ71	高木 修一	火	2	2	1	S 41	
後期	英語BⅠ72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	火	2	2	1	S 22	
後期	英語BⅠ91(基礎)	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S 42	
後期	英語BⅠ31	(非)レジス・ドラビゾン	水	1	2	1	S 12	
後期	英語BⅠ32	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S 35	
後期	英語BⅠ33	吉高神 明	水	1	2	1	S 11	
後期	英語BⅠ34	松浦 浩子	水	1	2	1	LL教室	
後期	英語BⅠ35	川田 潤	水	1	2	1	S 14	行政政策・経済経営学類
後期	英語BⅠ36	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S 42	
後期	英語BⅠ37	(非)荒 哲	水	1	2	1	S 21	
後期	英語BⅠ38	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S 22	
後期	英語BⅠ39	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S 32	
後期	英語BⅠ53(上級)	照沼 かほる	水	1	2	1	S 33	
後期	英語BⅠ54(基礎)	高田 英和	水	1	2	1	S 23	

前期	英語BⅡ01	照沼 かほる	水	2	2	1	S 33	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅡ02	村上 雄一	水	2	2	1	S 41	
前期	英語BⅡ03	吉高神 明	水	2	2	1	S 11	
前期	英語BⅡ04	(非)荒 哲	水	2	2	1	S 21	
前期	英語BⅡ05	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	S 43	
前期	英語BⅡ06	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S 22	
前期	英語BⅡ07	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	S 34	
前期	英語BⅡ08	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S 32	
前期	英語BⅡ09	佐藤 元樹	水	2	2	1	S 28	
前期	英語BⅡ41(上級)	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S 38	食農学類
前期	英語BⅡ42(基礎)	久我 和巳	水	2	2	1	S 35	
前期	英語BⅡ61	後藤 史子	木	4	2	1	S 31	
前期	英語BⅡ62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	4	2	1	S 22	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅡ63	高木 修一	木	4	2	1	S 41	
前期	英語BⅡ21	村上 雄一	金	2	2	1	S 41	
前期	英語BⅡ22	坂本 恵	金	2	2	1	S 32	
前期	英語BⅡ23	後藤 史子	金	2	2	1	S 31	
前期	英語BⅡ24	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S 23	
前期	英語BⅡ25	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S 38	
前期	英語BⅡ26	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S 22	
前期	英語BⅡ27	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	S 34	
前期	英語BⅡ28	(非)レジス・ドラビゾン	金	2	2	1	S 12	
前期	英語BⅡ29	福富 靖之	金	2	2	1	S 35	
前期	英語BⅡ43(上級)	(非)川崎 和基	金	2	2	1	S 36	
前期	英語BⅡ44(基礎)	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S 33	
後期	英語BⅡ11	照沼 かほる	水	2	2	1	S 33	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語BⅡ12	村上 雄一	水	2	2	1	S 41	
後期	英語BⅡ13	吉高神 明	水	2	2	1	S 11	
後期	英語BⅡ14	(非)荒 哲	水	2	2	1	S 21	
後期	英語BⅡ15	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	S 43	
後期	英語BⅡ16	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S 22	
後期	英語BⅡ17	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	S 34	
後期	英語BⅡ18	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S 32	
後期	英語BⅡ19	佐藤 元樹	水	2	2	1	S 28	
後期	英語BⅡ51(上級)	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S 38	食農学類
後期	英語BⅡ52(基礎)	久我 和巳	水	2	2	1	S 35	
後期	英語BⅡ71	後藤 史子	木	4	2	1	S 31	
後期	英語BⅡ72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	4	2	1	S 22	行政政策・経済経営学類
後期	英語BⅡ73	高木 修一	木	4	2	1	S 41	
後期	英語BⅡ31	村上 雄一	金	2	2	1	S 41	
後期	英語BⅡ32	坂本 恵	金	2	2	1	S 32	
後期	英語BⅡ33	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S 31	
後期	英語BⅡ34	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S 23	
後期	英語BⅡ35	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S 38	
後期	英語BⅡ36	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S 22	
後期	英語BⅡ37	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	S 34	
後期	英語BⅡ38	(非)レジス・ドラビゾン	金	2	2	1	S 12	
後期	英語BⅡ39	福富 靖之	金	2	2	1	S 35	
後期	英語BⅡ53(上級)	(非)川崎 和基	金	2	2	1	S 36	
後期	英語BⅡ54(基礎)	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S 33	
前期	応用英語XⅠ	松浦 浩子	月	5	1	1	LL教室	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	応用英語XⅢ	佐々木 俊彦	火	5	1	1	S 35	
前期	応用英語XⅤ	マッカーズランド・フィリップ	水	1	1	1	S 38	
前期	応用英語XⅦ	福富 靖之	木	5	1	1	S 35	
前期	応用英語XⅨ	福富 靖之	金	5	1	1	S 35	
後期	応用英語XⅡ	松浦 浩子	月	5	1	1	LL教室	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	応用英語XⅣ	佐々木 俊彦	火	5	1	1	S 35	
後期	応用英語XⅥ	マッカーズランド・フィリップ	水	1	1	1	S 38	
後期	応用英語XⅧ	福富 靖之	木	5	1	1	S 35	
後期	応用英語XⅩ	福富 靖之	金	5	1	1	S 35	

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ドイツ語基礎ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S 11	主に行政政策・経済経営学類
前期	ドイツ語基礎ⅠB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S 12	
前期	ドイツ語基礎ⅠC	(非)齊藤 寛	木	2	1	1	S 13	
前期	ドイツ語基礎ⅠD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S 12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ドイツ語基礎ⅠE	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S 11	
前期	ドイツ語基礎ⅠF	高橋 優	火	3	1	1	S 13	
前期	ドイツ語基礎ⅠG	高橋 優	木	4	1	1	S 13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ドイツ語基礎(特設)ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S 11	
前期	ドイツ語基礎(特設)ⅠB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S 12	
前期	ドイツ語基礎(特設)ⅠC	ぐんすけふおんけるん・M	金	2	1	1	S 11	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
後期	ドイツ語基礎ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S 11	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S 12	
後期	ドイツ語基礎ⅡC	(非)齊藤 寛	木	2	1	1	S 13	
後期	ドイツ語基礎ⅡD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S 12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ドイツ語基礎ⅡE	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S 11	
後期	ドイツ語基礎ⅡF	高橋 優	火	3	1	1	S 13	
後期	ドイツ語基礎ⅡG	高橋 優	木	4	1	1	S 13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ドイツ語基礎(特設)ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S 11	
後期	ドイツ語基礎(特設)ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S 12	
後期	ドイツ語基礎(特設)ⅡC	ぐんすけふおんけるん・M	金	2	1	1	S 11	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
前期	ドイツ語応用ⅠA	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S 11	学類指定なし
前期	ドイツ語応用ⅠB	ぐんすけふおんけるん・M	木	3	2	1	S 11	
前期	ドイツ語応用ⅠC	高橋 優	木	3	2	1	S 13	
後期	ドイツ語応用ⅡA	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S 11	学類指定なし
後期	ドイツ語応用ⅡB	ぐんすけふおんけるん・M	木	3	2	1	S 11	
後期	ドイツ語応用ⅡC	高橋 優	木	3	2	1	S 13	
前期	フランス語基礎ⅠA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S 21	主に行政政策・経済経営学類
前期	フランス語基礎ⅠB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S 35	
前期	フランス語基礎ⅠC	(非)長谷川 明子	木	2	1	1	S 42	
前期	フランス語基礎ⅠD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S 21	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	フランス語基礎ⅠE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S 35	
前期	フランス語基礎ⅠF	(非)長谷川 明子	木	4	1	1	S 42	
前期	フランス語基礎(特設)Ⅰ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S 42	主に行政政策・経済経営学類
後期	フランス語基礎ⅡA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S 21	
後期	フランス語基礎ⅡB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S 35	
後期	フランス語基礎ⅡC	(非)長谷川 明子	木	2	1	1	S 42	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	フランス語基礎ⅡD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S 21	
後期	フランス語基礎ⅡE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S 35	
後期	フランス語基礎ⅡF	(非)長谷川 明子	木	4	1	1	S 42	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	フランス語基礎(特設)Ⅱ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S 42	
前期	フランス語応用ⅠA	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	S 42	
前期	フランス語応用ⅠB	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S 12	学類指定なし
後期	フランス語応用ⅡA	(非)平手 伸昭	火	1	2	1	S 21	
後期	フランス語応用ⅡB	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S 12	
前期	中国語基礎ⅠA	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S 32	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎ⅠB	(非)呉 怡芬 (ごいふん)	火	2	1	1	S 31	
前期	中国語基礎ⅠC	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S 32	
前期	中国語基礎ⅠD	(非)解 澤春 (かいたくしゅん)	木	2	1	1	S 34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎ⅠE	(非)池澤 実芳	木	2	1	1	S 38	
前期	中国語基礎ⅠF	手代木 有兒	木	2	1	1	S 36	
前期	中国語基礎ⅠG	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S 34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎ⅠH	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S 32	
前期	中国語基礎ⅠI	(非)池澤 実芳	火	3	1	1	S 38	
前期	中国語基礎ⅠJ	(非)呉 怡芬 (ごいふん)	火	3	1	1	S 31	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	中国語基礎ⅠK	金 敬雄	木	4	1	1	S 23	
前期	中国語基礎ⅠL	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S 32	
前期	中国語基礎ⅠM	(非)解 澤春 (かいたくしゅん)	木	4	1	1	S 34	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
前期	中国語基礎ⅠN	手代木 有兒	木	4	1	1	S 36	
前期	中国語基礎(特設)ⅠA	金 敬雄	火	2	1	1	S 23	
前期	中国語基礎(特設)ⅠB	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S 34	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎(特設)ⅠC	金 敬雄	火	3	1	1	S 23	
前期	中国語基礎(特設)ⅠD	手代木 有兒	火	3	1	1	S 36	
後期	中国語基礎ⅡA	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S 32	主に行政政策・経済経営学類
後期	中国語基礎ⅡB	(非)呉 怡芬 (ごいふん)	火	2	1	1	S 31	
後期	中国語基礎ⅡC	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S 32	
後期	中国語基礎ⅡD	(非)解 澤春 (かいたくしゅん)	木	2	1	1	S 34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎ⅡE	(非)池澤 実芳	木	2	1	1	S 38	
後期	中国語基礎ⅡF	手代木 有兒	木	2	1	1	S 36	
後期	中国語基礎ⅡG	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S 34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎ⅡH	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S 32	
後期	中国語基礎ⅡI	(非)池澤 実芳	火	3	1	1	S 38	
後期	中国語基礎ⅡJ	(非)呉 怡芬 (ごいふん)	火	3	1	1	S 31	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	中国語基礎ⅡK	金 敬雄	木	4	1	1	S 23	
後期	中国語基礎ⅡL	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S 32	
後期	中国語基礎ⅡM	(非)解 澤春 (かいたくしゅん)	木	4	1	1	S 34	学類指定なし (2019年度以降入学生のみ)
後期	中国語基礎ⅡN	手代木 有兒	木	4	1	1	S 36	
後期	中国語基礎(特設)ⅡA	金 敬雄	火	2	1	1	S 23	
後期	中国語基礎(特設)ⅡB	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S 34	学類指定なし
後期	中国語基礎(特設)ⅡC	金 敬雄	火	3	1	1	S 23	
後期	中国語基礎(特設)ⅡD	手代木 有兒	火	3	1	1	S 36	
前期	中国語応用ⅠA	金 敬雄	火	1	2	1	S 23	学類指定なし
前期	中国語応用ⅠB	手代木 有兒	火	1	2	1	S 36	
前期	中国語応用ⅠC	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S 34	
前期	中国語応用ⅠD	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S 32	学類指定なし
前期	中国語応用ⅠE	(非)解 澤春 (かいたくしゅん)	木	3	2	1	S 34	
後期	中国語応用ⅡA	金 敬雄	火	1	2	1	S 23	
後期	中国語応用ⅡB	手代木 有兒	火	1	2	1	S 36	学類指定なし
後期	中国語応用ⅡC	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S 34	
後期	中国語応用ⅡD	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S 32	
後期	中国語応用ⅡE	(非)解 澤春 (かいたくしゅん)	木	3	2	1	S 34	

前期	ロシア語基礎ⅠA	吉川 宏人	火	2	1	1	S 28	主に行政政策・経済経営学類
前期	ロシア語基礎ⅠB	吉川 宏人	木	2	1	1	S 28	
前期	ロシア語基礎ⅠC	(非)カザンツェワ・ラーダ	火	3	1	1	S 33	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ロシア語基礎ⅠD	吉川 宏人	木	4	1	1	S 28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ロシア語基礎(特設)Ⅰ	クズネツォーフ・マリナ	金	2	1	1	S 28	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	ロシア語基礎ⅡA	クズネツォーフ・マリナ	火	2	1	1	S 28	主に行政政策・経済経営学類
後期	ロシア語基礎ⅡB	吉川 宏人	木	2	1	1	S 28	
後期	ロシア語基礎ⅡC	クズネツォーフ・マリナ	火	3	1	1	S 28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ロシア語基礎ⅡD	クズネツォーフ・マリナ	木	4	1	1	S 28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ロシア語基礎(特設)Ⅱ	吉川 宏人	金	2	1	1	S 28	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	ロシア語応用ⅠA	吉川 宏人	火	1	2	1	S 28	学類指定なし
前期	ロシア語応用ⅠB	クズネツォーフ・マリナ	木	3	2	1	S 28	
後期	ロシア語応用ⅡA	吉川 宏人	火	1	2	1	S 28	学類指定なし
後期	ロシア語応用ⅡB	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	3	2	1	S 33	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠA	伊藤 俊介	火	2	1	1	S 14	主に行政政策・経済経営学類
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠB	(非)朴 相賢(ばくさんひょん)	木	2	1	1	S 21	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠC	伊藤 俊介	火	3	1	1	S 14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠD	(非)梁 姫淑(やんひすく)	火	3	1	1	S 22	
前期	韓国朝鮮語基礎ⅠE	(非)朴 相賢(ばくさんひょん)	木	4	1	1	S 21	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅠA	伊藤 俊介	金	2	1	1	S 14	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅠB	(非)梁 姫淑(やんひすく)	金	2	1	1	S 21	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡA	(非)金 丹(きんたん)	火	2	1	1	S 14	主に行政政策・経済経営学類
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡB	(非)朴 相賢(ばくさんひょん)	木	2	1	1	S 21	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡC	(非)金 丹(きんたん)	火	3	1	1	S 14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡD	(非)梁 姫淑(やんひすく)	火	3	1	1	S 22	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡE	(非)朴 相賢(ばくさんひょん)	木	4	1	1	S 21	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅡA	(非)金 丹(きんたん)	金	2	1	1	S 14	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅡB	(非)梁 姫淑(やんひすく)	金	2	1	1	S 21	
前期	韓国朝鮮語応用ⅠA	(非)梁 姫淑(やんひすく)	火	1	2	1	S 22	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語応用ⅠB	(非)朴 相賢(ばくさんひょん)	木	3	2	1	S 21	
後期	韓国朝鮮語応用ⅡA	(非)梁 姫淑(やんひすく)	火	1	2	1	S 22	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語応用ⅡB	(非)朴 相賢(ばくさんひょん)	木	3	2	1	S 21	

日本語Ⅰ～Ⅳ、日本事情Ⅰ～Ⅳ(外国人留学生のみ)

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語ⅠA	井本 亮	火	2	1	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語ⅠB	井本 亮	木	2	1	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語ⅢA	井本 亮	火	1	2	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語ⅢB	井本 亮	木	3	2	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅡA	井本 亮	火	2	1	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅡB	井本 亮	木	2	1	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅣA	井本 亮	火	1	2	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語ⅣB	井本 亮	木	3	2	1	S 24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本事情Ⅲ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S 24	留学生
後期	日本事情Ⅳ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S 24	留学生

情報リテラシー

※IPC1、IPC4(総合情報処理センター)

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報リテラシー 01	松本 正晴	月	1	1	2	IPC 4	
前期	情報リテラシー 02	中山 明	月	1	1	2	IPC 1	
前期	情報リテラシー 03	(非)木谷 徳智	木	1	1	2	IPC 4	
前期	情報リテラシー 04	(非)中山 祐貴	金	2	1	2	IPC 4	
後期	情報リテラシー 05	松本 正晴	月	1	1	2	IPC 4	
後期	情報リテラシー 06	(非)木谷 徳智	水	2	1	2	IPC 4	
後期	情報リテラシー 07	篠田 伸夫	木	1	1	2	IPC 4	
後期	情報リテラシー 08	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	IPC 4	

問題探究科目

※AV教室(M講義棟3階)、IPC1(総合情報処理センター)

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ボランティア論	初澤 敏生	月	1	1	2	S 24	受講者数20人に制限
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣	月	1	1	2	遠隔	
前期	成年年齢引き下げと政策的課題	中里 真	木	1	1	2	L 2	
前期	福島ブランド農業	則藤 孝志・林 薫平	木	1	1	2	遠隔	
前期	哲学カフェ	小野原 雅夫	金	2	1	2	M 23	受講者数50人に制限
前期	立ち直り支援と地域社会	高橋 有紀	金	2	1	2	L 1	
前期	グローバル災害論	佐野 孝治	金	2	1	2	L 3	
前期	ふくしま未来学入門Ⅰ	前川 直哉 他	金	2	1	2	遠隔	
後期	災害復興支援学Ⅱ	菊地 芳朗	月	1	1	2	L 3	
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	遠隔	
後期	アジア共同体構想	朱 永浩(ずう よんほ)	水	2	1	2	M 4	
後期	環境放射能学入門	難波 謙二 他	水	2	1	2	M 23	
後期	NPO論	牧田 実	木	1	1	2	M 4	
後期	震災農村復興論	小山 良太・石井 秀樹	木	1	1	2	遠隔	
後期	映画の世界・映画と世界	久我 和巳	金	2	1	2	AV教室	
後期	再生可能エネルギー	佐藤 理夫・赤井 仁志・斉藤 公彦	金	2	1	2	L 2・L 3	
後期	ふくしま未来学入門Ⅱ	前川 直哉 他	金	2	1	2	遠隔	
後期	データ分析入門	呉 書雅	金	2	1	2	IPC 1	受講者数48人に制限
後期	むらの大学 A	狩野 剛・前川 直哉	金	5	1	2	S 22・S 28	(川内班)クラス分けは前期に行う。
後期	むらの大学 B	前川 直哉・狩野 剛	金	5	1	2	S 22・S 28	(南相馬班)クラス分けは前期に行う。

9. 接続領域の履修について

接続領域の履修について

「**接続領域**」は、高校教育と大学の専門的な教育とをスムーズに連結させ、大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身に付けることを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。各科目の指導内容や開講のしくみ、到達すべき目標はそれぞれある程度共通化されています。

これにより質保証を図り、学類専門教育へ円滑に接続させていきます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

(1) スタートアップ科目について

「**スタートアップセミナーの履修について**」を参照してください。

(2) ライフマネジメント科目について

生涯にわたるキャリア発達と身体・健康維持とを目的とし、必修科目として「**キャリア形成論**」と「**健康運動科学実習**」を開講します。「**キャリア形成論**」のねらいは第一に自分と向き合い自分の人生を見つめること、第二に働くことの意味や職業についての見方を再確認すること、第三にこれらを通して大学で学ぶことの意味を考え、学ぶ主体を確立することです。「**健康運動科学実習**」は、スポーツを通して運動や健康への興味・関心を高め、生涯にわたり健やかな生活をしていくための知識や習慣を身に付けることを目的としている科目です。

<キャリア形成論の履修について>

- ① 1年次：前期に「キャリア形成論」2単位を修得しなければなりません。
- ② 学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。
行政政策学類のクラス分けは、行政政策学類の掲示等で確認してください。
再履修者も同様です。
- ③ キャリア形成論は履修登録撤回できません。

<健康運動科学実習の履修について>

- ① 1年次前期に「健康運動科学実習」を履修してください。
- ② 指定された曜日、時間帯（下表）で受講してください。第1回目の授業の際に種目分けを行いますので、必ず出席してください。
集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し、普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。
第1回目の授業に出席できなかった学生は、蓮沼教員（保健体育棟214号）の指示を受けてください。

学類	健康運動科学実習
行政政策学類	月曜日 2時限
人間発達文化学類	月曜日 3時限
経済経営学類	火曜日 3時限
共生システム理工学類	金曜日 3時限
食農学類	金曜日 4時限

ただし、再履修者で、必修の科目と開講時間帯が重なり、指定時間帯の受講が困難な場合は、他の時間帯での履修を認めることがありますので、第1回目の授業で担当教員に必ず申し出てください。

③特別な理由により実技を行うことが困難な学生には、代替措置を認める場合があります。詳しくは第1回目の授業で説明しますので必ず出席してください。

④健康運動科学実習は履修登録撤回できません。

(3) 外国語コミュニケーション科目について

別項目＜英語、英語以外の外国語の履修について＞を参照してください。

外国人留学生は、同じく＜英語、英語以外の外国語の履修について＞にある
＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞も参照してください。

10. スタートアップセミナー の履修について

(10) スタートアップセミナーの履修について

大学教育の基礎を身につけるスタートアップ科目の中心となる科目です。内容は、アカデミック・スキルズ、すなわち文献や資料の読み方や書評レポートの書き方、調査・研究方法、情報技術の基礎、プレゼンテーション、ディスカッションの技術などを身に付けます。スタートアップセミナー（または問題探究セミナーⅠ）終了時に初年次レポートを提出することになります。

この科目を中心として、1年終了時までには身に付けるべきアカデミック・スキルズは以下の通りです。

【アカデミック・スキルズ チェックリスト】

- ☐ OPAC、CiNii等のデータベースを活用した文献・資料の検索方法を知っている。
- ☐ 文献・資料の内容を要約したレジюмеの基本的な形式を知っている。
- ☐ 序論・本論・結論のような、レポートの基本的な構成を知っている。
- ☐ 文献・資料の内容をレジюмеやレポートに反映させる際のルール（引用のしかた）を知っている。
- ☐ 参考文献・資料一覧を作成する際のルールを知っている。
- ☐ 文献・資料の内容を要約したレジюмеを作成することができる。
- ☐ レポートの構成や引用のしかた等、一般的または指定された形式やルールを守ったレポートを作成することができる。
- ☐ パワーポイント等のICTを活用して、プレゼンテーションを行うことができる。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<スタートアップセミナーの履修手続きについて>

- ① 2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
- ② 未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」／各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。
- ③ スタートアップセミナーは、履修登録撤回できません。

スタートアップセミナー担当者一覧

人間発達文化学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位 数	教室
スタート アップ セミナー	教育実践コース	木 3	森本 明	1	2	
	心理学・幼児教育コース		飛田 操	1	2	
	特別支援・生活科学コース		千葉 養伍 高橋 純一	1	2	
	芸術・表現コース		加藤 奈保子	1	2	
	人文科学コース A		澁澤 尚	1	2	
	人文科学コース B		朝賀 俊彦	1	2	
	人文科学コース C		中村 洋介	1	2	
	数理自然科学コース		中田 文憲	1	2	
	スポーツ健康科学コース		川本 和久 蓮沼 哲哉	1	2	

行政政策学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	※ガイダンスおよび時間割を確認			1	2	

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	木 3	荒知宏	1	2	104 演 /IPC1
	B		岩井秀樹	1	2	113 演
	C		岩本吉弘	1	2	114 演
	D		大川裕嗣	1	2	509 演
	E		奥本英樹	1	2	412 演
	F		金善照	1	2	409 演
	G		佐藤英司	1	2	508 演
	H		沼田大輔	1	2	501 演
	I		根建晶寛	1	2	410 演
	J		藤原遥	1	2	411 演
	K		遠藤明子	1	2	502 演
	L		福富靖之	1	2	405 演
	M		吉川宏人	1	2	404 演

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	月 5	内海 哲史	1	2	S 1 1
	B		大橋 弘範	1	2	S 1 2
	C		大山 大	1	2	S 1 4
	D		後藤 忍	1	2	S 2 1
	E		島田 邦雄	1	2	S 2 2
	F		筒井 雄二	1	2	S 2 3
	G		董 彦文	1	2	IPC 5
	H		吉田 龍平	1	2	S 2 8

食農学類

授業科目名	クラス	担当教員	曜日 時限	セメスター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	○平 修 林 薫平	金 1	1	2	S31
	B	○則藤 孝志 尾形 慎		1	2	S35
	C	金子 信博 ○高田 大輔		1	2	S42
	D	○新田 洋司 窪田 陽介		1	2	S44

※「○」印は代表教員です。

1 1．英語、英語以外の外国語 の履修について

英語、英語以外の外国語の履修について

<英語について>

<「英語AⅠ」・「英語AⅡ」について>

(ア)「英語AⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(イ)「英語AⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

- ・ Reading …「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
- ・ Writing …「書く」能力を養成するためのコース
- ・ Oral Communication …「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ウ) 1年次では、「英語AⅠ」及び「英語AⅡ」を各2単位、計4単位を修得しなければなりません。また、各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。

(エ)「英語AⅠ」及び「英語AⅡ」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、

「英語AⅠ」について前・後期各1クラスの計2クラス、

「英語AⅡ」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。

(オ)開講曜日・時限は学類ごとに指定されています。

・ 人間発達文化学類・共生システム理工学類は、

「英語AⅠ」が月曜日2時限、「英語AⅡ」が金曜日1時限

・ 行政政策学類・経済経営学類は、

「英語AⅠ」が月曜日3時限、「英語AⅡ」が金曜日3時限

・ 食農学類は、「英語AⅠ」が火曜日4時限、「英語AⅡ」が木曜日2時限

・ 学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(カ)「英語AⅠ」、「英語AⅡ」は、履修登録撤回できません。

<英語AⅠ・英語AⅡの履修について>

(ア)前期の所属クラスは「英語AⅠ」、「英語AⅡ」とともに、以下の手続きで行います。

1. シラバスを読んで、受講希望クラスの第1回目の授業に必ず出席してください。
2. 第1回目の授業では、授業内容についての説明と
希望受付が2回（1次、2次）行われます。

<1次説明・受付>

・ 第1回目授業開始時刻（1時限8時40分、2時限10時20分、3時限13時00分、4時限14時40分）に希望クラスの教室に行き授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・ 1次受付で定員に達したクラスは、2次受付は行いません。

<2次説明・受付>

・ 1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラ

スを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻（1時限9時40分、2時限11時20分、3時限14時00分、4時限15時40分）までに希望クラスの教室に行ってください。

授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。

（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語AⅠ」、「英語AⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

・同一教員のクラスが後期に開講されていない場合は、前期クラスの教員の指示に従ってください。

・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

(ウ)「英語AⅠ」、「英語AⅡ」は、それぞれ後期のみ「基礎クラス」、「上級クラス」が開講されます。ただし、食農学類に関しては「英語AⅠ」のみ「基礎クラス」が開講されます。

成績評価は、「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の可否は掲示板等でお知らせします。

（人数が多い場合等は希望が認められない場合があります。）

(エ)食農学類で「英語AⅡ」の「基礎クラス」の受講を希望する学生は、「英語AⅠ」の「基礎クラス」の手続きを行う際に基盤教育係窓口に出してください。

<「英語BⅠ」・「英語BⅡ」について>

(ア)「英語BⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(イ)「英語BⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

・Reading・・・「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース

・Writing・・・「書く」能力を養成するためのコース

・Oral Communication・・・「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ウ)2年次で英語を選択する学生は、「英語BⅠ」及び「英語BⅡ」を各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。

(エ)「英語BⅠ」及び「英語BⅡ」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、

「英語BⅠ」について前・後期各1クラスの計2クラス、

「英語BⅡ」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。

(オ)開講曜日・時限は学類毎に指定されています。

・人間発達文化学類・共生システム理工学類は

- 「英語ＢⅠ」が月曜日１時限、「英語ＢⅡ」が水曜日２時限
 - ・行政政策学類・経済経営学類は
「英語ＢⅠ」が水曜日１時限、「英語ＢⅡ」が金曜日２時限
 - ・食農学類は「英語ＢⅠ」が火曜日２時限、「英語ＢⅡ」が木曜日４時限
 - ・学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。
- (カ)「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」は、履修登録撤回できません。

＜英語ＢⅠ・英語ＢⅡの履修について＞

(7)前期の所属クラスは「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」とともに、以下の手続きで行います。

- １．シラバスを読んで、受講希望クラスの第１回目の授業に必ず出席してください。
- ２．第１回目の授業では、授業内容についての説明と
希望受付が２回（１次、２次）行われます。

＜１次説明・受付＞

・第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、４時限１４時４０分）に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

- ・１次受付で定員に達したクラスは、２次受付は行いません。

＜２次説明・受付＞

・１次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分、２時限１１時２０分、４時限１５時４０分）までに希望クラスの教室に行ってください。

授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。

（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

- ・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

ただし、「通常クラス」から「基礎クラス」、「上級クラス」に限って変更ができます。

(ウ)「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」の「基礎クラス」と「上級クラス」は、前期から開講されます。ただし、食農学類に関しては「英語ＢⅠ」のみ「基礎クラス」が開講されます。また、「上級クラス」は開講されません。

成績評価は「上級クラス」が「Ｓ、Ａ、Ｆ」のいずれか、「基礎クラス」は「Ｂ、Ｃ、Ｆ」のいずれかになります。

・「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、「通常クラス」と同様、第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、４時限１４時４０分）に希望ク

ラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻（1時限9時40分、2時限11時20分、4時限15時40分）までに希望クラスに行ってください。授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口提出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(エ)前期に通常クラスに所属していた学生に限り、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」へ変更可能です。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の可否は掲示板等でお知らせします。

（前期の時点で「基礎クラス」、「上級クラス」が定員を満たしている場合、また希望人数が多い等の場合は希望が認められないことがあります。）

<応用英語について>

(ア)1年次から、「応用英語」を履修することができます。

(イ)当該科目は、それぞれの授業の目的・内容が異なります。詳細はシラバスに記載されています。

(ウ)ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。

例：応用英語XⅠ、XⅡ → 別の科目

(エ)修得した単位は、教養領域・外国語科目の単位として計上されます。

<再履修等の履修手続きについて>

(ア)2年次生以上で「英語AⅠ・AⅡ」、「英語BⅠ・BⅡ」の再履修希望学生は、基盤教育係窓口から「英語再履修希望調査カード」を受け取り、第1回目授業開始時に希望クラスの教室に行き、カードを担当教員に提出してください。第1希望のクラスが受入不可で、第2、第3希望のクラスでも受付不可だった場合は、基盤教育係窓口まで申し出て下さい。

再履修希望カード配布時期：前期 3月中旬～下旬 / 後期 9月中旬

(イ)1クラス（半期）のみの再履修希望学生は、修得済みクラスの開講時期（前期／後期）に関わらず、前期、後期いずれでも履修可能です。

(ウ)再履修以外の理由（休学等）で、「英語AⅠ・AⅡ」を2年次生以上、「英語BⅠ・BⅡ」を3年次生以上で履修する学生も同じ手続きをとってください。

(エ)再履修として前期から履修している学生は、後期の再履修手続は不要です。後期は、前期と同一教員のクラスになります。前期に「通常クラス」に所属し、後期から「基礎

クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、所定の手続きをとってください。

(オ) 4 年次生以上で専門教育科目の履修の関係で英語の再履修が困難な学生は、英語再履修受付期間に必ず基盤教育係窓口に申し出てください。

<外部検定試験の活用について>

「2019 年度入学生からの英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」／掲示等でお知らせします。

<海外語学研修について>

「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」／掲示等でお知らせします。

<行政政策学類夜間主の履修について>

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<英語以外の外国語について>

英語以外の外国語は下記のとおり「Ⅰは前期、Ⅱは後期」に開講されます。

言語	1 年次	1 年次希望者 (基礎と同一セメスター)	2 年次
ドイツ語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
フランス語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
中国語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
ロシア語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
韓国朝鮮語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ

<英語以外の外国語：履修方法について>

(ア) 各言語に「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」(各 1 単位)、「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」(各 1 単位)、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」(各 1 単位)があります。

(イ) 1 年次「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」(各 1 単位)では、基礎的な語学力を学びます。

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語いずれか 1 言語で前期「基礎Ⅰ」、後期「基礎Ⅱ」をそれぞれ週 1 回履修することになります。

※人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類の学生は、接続領域として合計 2 単位を必ず修得しなければなりません。

なお、上記 2 単位を修得した後、別言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」の修得が可能ですが、

修得単位は、自由単位への計上となります。

(ウ)「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」は同一クラスです。指定クラスで履修することになります。

詳細は新入生ガイダンスで別途、指示します。

(エ)「基礎Ⅱ」の履修は、当該言語「基礎Ⅰ」の単位修得が必要となります。

(オ)「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」(1年次)について

・「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」履修者のうち希望者対象の科目で、目的は外国語基礎で身に付けた語学力を定着させ、外国文化への関心・理解を増進することです。

「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」と「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」をあわせて、それぞれ同一セメスターに指定クラスを履修することができます。

詳細は新入生ガイダンスで別途、指示します。

・なお、「基礎(特設)Ⅰ」を履修せずに「基礎(特設)Ⅱ」のみを履修することはできません。

・経済経営学類生は「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」を「アドバンスト演習Ⅰ①」・「アドバンスト演習Ⅰ②」として履修することができますが、その場合、修得単位は経済経営学類の専門科目として計上され、教養領域の4単位(下記(ク)を参照)には計上されないの
で注意してください。

(カ)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」(2年次)について

・「基礎」で学んだ語学力のレベルアップを図ります。また海外語学研修や留学への接続も意識した科目です。履修する場合は「基礎」で修得した言語について前期「応用Ⅰ」、後期「応用Ⅱ」をそれぞれ週1回履修することになります。

・「応用Ⅰ」の履修は、当該言語「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」の単位修得が必要となります。

また「応用Ⅱ」の履修は、当該言語「応用Ⅰ」の単位修得が必要となります。

(キ)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」は、同一言語で8単位まで修得できますが、4単位を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

(ク)教養領域では英語と英語以外の外国語の同一言語を下表①～④のいずれかで合計4単位をまず、修得しなければなりません、学類毎に修得方法が違いますので注意してください。

＜教養領域4単位の修得方法：人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類＞

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類		
①	英語で4単位	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から4
②	英語以外で4単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2、 応用Ⅰ・応用Ⅱを2
③	英語以外で4単位	同一言語の応用Ⅰ・応用Ⅱを4
④	英語で2単位と	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から2
	英語以外で2単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2、 または応用Ⅰ・応用Ⅱを2

【重要】「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」はすべての言語で2クラス以上が開講されます。「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」2単位を修得（上表②④の場合）するには、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」とも同じ1クラス（たとえば応用ⅠAと応用ⅡA）を選択し、それぞれ週1回受講しなければなりません。また「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」4単位を修得（上表③の場合）するには、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」とも同じ2クラス（たとえば応用ⅠAと応用ⅡAおよび応用ⅠBと応用ⅡB）を選択し、それぞれ週1回受講しなければなりません。クラス選択に指示がある場合はそれに従ってください。

また②④において、基礎(特設)Ⅰ、基礎(特設)Ⅱのどちらかを修得できなかった場合、同一言語の応用Ⅰ・応用Ⅱで代替が可能です。

<教養領域4単位の修得方法：共生システム理工学類、食農学類>

共生システム理工学類、食農学類		
①	英語で4単位	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から4
②	英語以外で4単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2、 基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを2
③	英語以外で4単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2、 応用Ⅰ・応用Ⅱを2
④	英語で2単位と	英語BⅠ、英語BⅡ、応用英語から2
	英語以外で2単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを2

【重要】「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」はすべての言語で2クラス以上が開講されます。「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」2単位を修得（上表③の場合）するには、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」とも同じ1クラス（たとえば応用ⅠAと応用ⅡA）を選択し、それぞれ週1回受講しなければなりません。また「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」4単位を修得するには、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」とも同じ2クラス（たとえば応用ⅠAと応用ⅡAおよび応用ⅠBと応用ⅡB）を選択しそれぞれ週1回受講しなければなりません。クラス選択に指示がある場合はそれに従ってください。

また②において、基礎(特設)Ⅰ、基礎(特設)Ⅱのどちらかを修得できなかった場合、同一言語の応用Ⅰ・応用Ⅱでの代替が可能です。

<英語以外の外国語：履修手続きについて>

- (ア)「基礎Ⅰ」「基礎(特設)Ⅰ」の履修手続きを、新入生ガイダンスの時にを行います。その場で、履修希望の言語を提出することになりますので、必ず出席してください。
- (イ)「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」を履修する学生は、選択するクラスの第1回目の授業に出席してください。
- (ウ)履修希望者が一定の数を超えた場合、受講調整を行うことがあります。
- (エ)「英語以外の外国語」は履修登録撤回できません。
- (オ)履修方法について質問がある者は、基盤教育係窓口に相談してください。

＜英語以外の外国語：再履修手続きについて＞

(7)「基礎Ⅰ」の再履修希望学生は、基盤教育係窓口から「英語以外の外国語基礎Ⅰ履修希望調査カード」を受領し、必要事項を記入の上、基盤教育係窓口に提出してください。また「基礎Ⅰ」再履修とあわせて「基礎(特設)Ⅰ」の履修を希望する場合は、その旨を同カードに記入してください。クラス編成はこの調査に基づいて行います。結果は掲示により発表します。

その指示に従って第1回目の授業を受講してください。受付期間は、3月下旬～4月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。この「希望調査カード」を提出しないと希望する言語が履修できないことがあります。

(i)「基礎Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第1回目の授業に出席してください。希望調査カードは不要です。事前に掲示による指示があった場合にはそれに従ってください。やむを得ない理由で第1回目の授業に出席できない場合は、必ず各言語の責任教員に相談してください。また「基礎Ⅱ」再履修とあわせて「基礎(特設)Ⅱ」の履修を希望する場合は、事前に各言語の責任教員に相談してください。

(責任教員は掲示により確認してください。)

(u)「応用」の再履修希望学生は、希望クラス第1回目の授業に出席してください。

＜その他＞

(a)外部資格試験を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「**2019年度入学生からの英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項**」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」／掲示等でお知らせします。

(b)海外語学研修を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「**2019年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項**」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」／掲示等でお知らせします。

(c)留学ビザによる編入学生は「英語以外の外国語」として「日本語」の履修を認めることがあります。

＜行政政策学類夜間主の履修について＞

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞

・外国人留学生は、外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統を除く1カ国語で次の①から③のいずれかの方法で8単位を

修得しなければなりません。（日本語の履修が望ましいです。）

①	日本語	「ⅠA・ⅠB」・「ⅡA・ⅡB」・「ⅢA・ⅢB」・「ⅣA・ⅣB」※1	8単位
②	英語	「AⅠ・AⅡ」・「BⅠ・BⅡ」・「応用英語」※2	8単位
③	英語 以外の 外国語	ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語 いずれか 同一言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」、「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」、 「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」※2	8単位

※1 「日本語」はローマ数字の順で修得してください。

（例：「日本語ⅡA」の履修は「日本語ⅠA」または「日本語ⅠB」どちらか1単位の修得が必要です。「日本語ⅢB」の履修は「日本語ⅡA」または「日本語ⅡB」どちらか1単位の修得が必要です。）

※2 「英語」、「英語以外の外国語」は、それぞれの履修方法を参照してください。

なお、8単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

・「日本事情」は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

上記で述べた点以外は、基盤教育の履修方法は一般学生と同じです。

1 2．教養領域の履修について

(12) 教養領域の履修について

今日、高等教育で重視されている教養教育は、学生が他領域で学ぶ他の学生と価値観を共有し、より幅広く他領域の専門内容を理解し、協働するための「共通の言語」を形づくることを目的としています。これらを踏まえ「**教養領域**」では、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7単位
共生システム理工学類、食農学類	9単位
※外国人留学生（全学類）	9単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

(1) 学術基礎科目について

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の分野からなり、幅広い教養教育の中心に位置する科目群です。各学問の基本的概念や特有の事象の見方・切り取り方を学ぶことによって、自らが専門として学ぶ学問とは異なる観点から多角的・学際的にアプローチする方法が数多く存在することに気づくことを目的としています。

<学術基礎科目の履修方法について>

①学術基礎科目の3分野（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）から各2単位を修得しなければなりません。

② ①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

③教員免許状取得を希望する学生は、「社会科学」分野の「日本国憲法」を修得してください。（ただし、行政政策学類生は学類の学修案内で科目を確認してください。）

④科目名称についての注意

- ・授業科目名の二桁の数字だけが異なる場合は、同一の授業科目とみなします。
重ねて履修できません。

例：日本国憲法 01、02 → 同一の科目

- ・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。

例：歴史学 I、II → 別の科目

- ⑤行政政策学類生は「市民と法」「日本国憲法 01、02」を履修できません。
- ⑥経済経営学類生は「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」を履修できません。
- ⑦「履修希望受付」は、以下の「抽選履修登録方法」手続きで行います。

＜抽選履修登録方法＞

受付期間等や「LiveCampus（ライブキャンパス）」の抽選履修登録は、教務関係
日程表・マニュアル等により確認してください。

＜1＞1次受付（前期科目4月初旬／後期科目10月上旬）

- ①履修希望科目のシラバスをあらかじめ確認し、曜日・時限毎に履修希望科目を「LiveCampus」で抽選履修登録してください。第3志望まで登録ができます。
- ②抽選履修登録の結果、教室収容人数を超える科目は「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。
受講調整が行われる場合、抽選となります。
- ③1次受付結果は「LiveCampus」で発表します。各自、確認してください。
- ④1次受付で受講が認められた科目の扱いは、以下のとおりです。
 - ・受講調整があった科目は、当該時間帯で科目の変更・追加・撤回できません。
 - ・受講調整がない科目は、原則として当該時間帯で科目の変更・追加できません。
- ⑤当該時間帯に1次受付で受講が認められた科目以外を登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び1次受付で受講が認められた科目も受講できなくなります。
- ⑥受講調整があった科目は、「LiveCampus」等でお知らせします。

＜2＞2次受付（詳細は、1次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）

- ①1次受付後、受講調整を行った結果、履修希望が認められなかった学生に限り2次受付を行います。
受付期間・時間帯に注意してください。
- ②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。
 - ・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。
科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。
 - ・1次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。
- ③2次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。
- ④当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び2次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。
- ⑤2次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

＜3＞3次受付（詳細は、2次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）

- ①1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として特別に3次受付を行うことがあります。

受付期間・時間帯に注意してください。

②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。

科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

・1次受付及び2次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

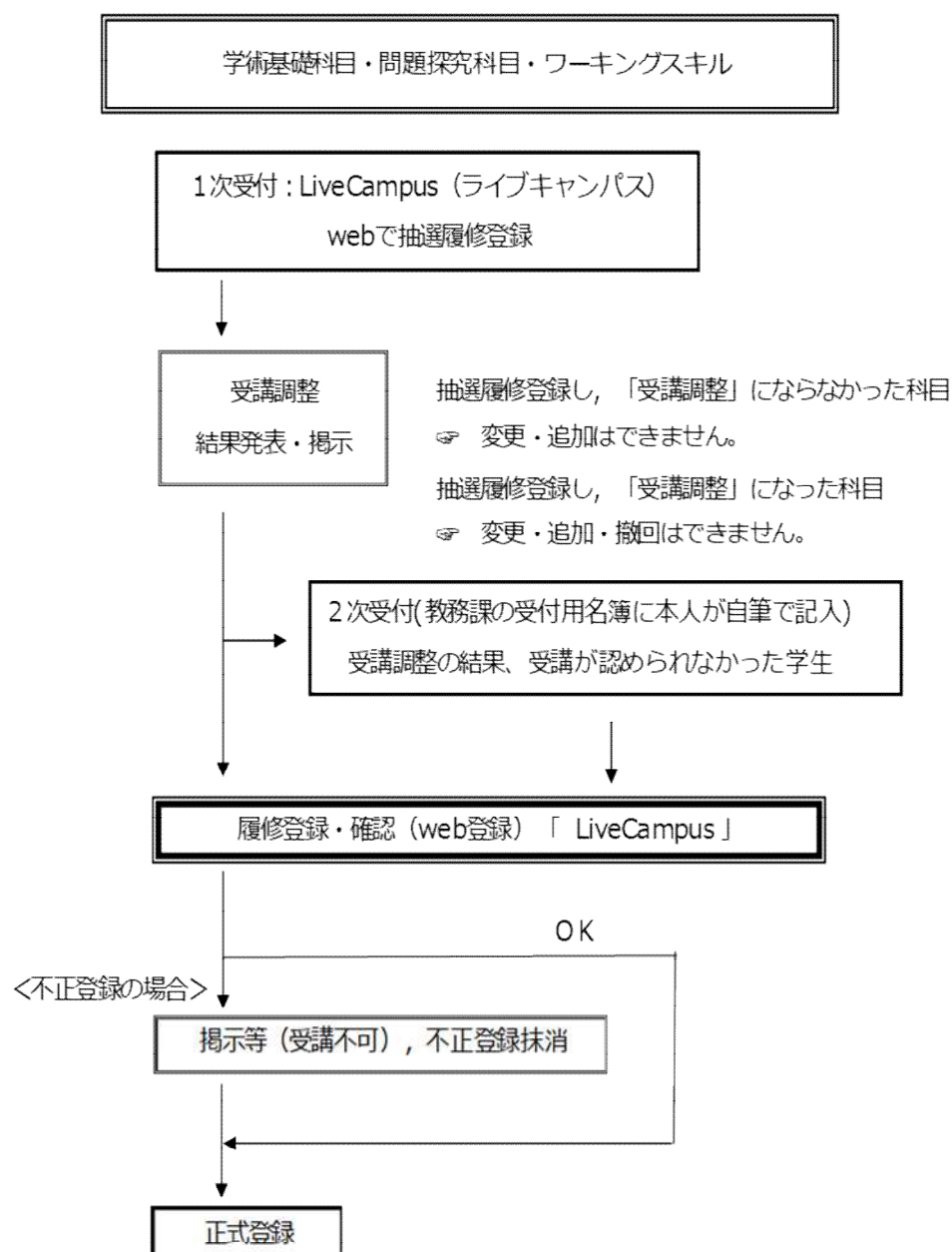
③3次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

④当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び3次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

⑤3次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

〈注意〉

抽選登録に関するマニュアルは入学式当日に配布した「新入生共通ガイドブック」内に記載しています。マニュアルを参考に必ず期間中に抽選履修登録をしてください。「共通ガイドブック」は教務課HPからもダウンロードできます。



(※) 3次受付について：1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として、2次受付終了後に空きがある科目にかぎり特別に3次受付を行うことがあります。

(2) キャリア設計科目について

「キャリアモデル学習」「インターンシップ」「ワーキングスキル」の3科目からなります。「キャリアモデル学習」は各学類に関わりの深い職業人による、職業や仕事内容、人生設計などについての講義が中心の科目です。

「インターンシップ」とは、大学に在学したまま、一定期間企業や自治体などで就業体験を行う科目です。実社会での就業体験を通して、社会の基本的なルールやマナーを修得するとともに、自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としています。学生が自主的に行うインターンシップについては、キャリア支援課へご相談ください。

「ワーキングスキル」は、めまぐるしく変貌を遂げる現代社会の中で、より豊かなキャリア設計を実現するために、最新のスキルや知識を修得するための科目です。

キャリアモデル学習は、別項目<キャリアモデル学習の履修について>を参照してください。

<インターンシップの履修について>

(2年生以上、食農学類は3年生以上)4月に希望者向けガイダンスを実施しますので、別途掲示等を確認してください。

<ワーキングスキルの履修について>

2年生以上から履修が可能です。

「抽選履修登録方法」は、学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

(3) 健康・運動科目について

身体運動を楽しみ、生涯を通して、健康でスポーツに親しむ技能・知識を身に付けることを目的として「スポーツ実習」を開講します。

<スポーツ実習の履修について>

①「スポーツ実習」は、1年次後期から履修することができます。また、同一種目の場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は、選択必修または自由選択の単位になります。

②**第1回目の授業の際に受講調整を行います。集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と屋内シューズ、屋外シューズを持参し運動できる格好で出席してください。**欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

③スポーツ実習は、履修登録撤回できません。

④教員免許状取得のためには、「体育」科目として「健康運動科学実習」1単位に加え「スポーツ実習」1単位の修得が必要です。「スポーツ実習」の履修にあたっては、履修時限の指定はありませんが、下記表の曜日・時間においては、指定された学

類の教員免許状取得希望者を優先します。教員免許取得希望者は必ず第1回目の授業の際に担当教員に伝えてください。

スポーツ実習	教員免許希望者が優先される学類
月曜日 2時限	行政政策学類、経済経営学類
月曜日 3時限	人間発達文化学類
金曜日 3時限	共生システム理工学類、食農学類

(4) 外国語科目について

別項目＜英語、英語以外の外国語の履修について＞を参照してください。

外国人留学生は、同じく＜英語、英語以外の外国語の履修について＞にある

＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞も参照してください。

(5) 情報科目について

高度情報化社会においてパーソナル・コンピュータやネットワークなどの情報機器を適切に操作・活用し、情報の収集・整理・編集・発信・コミュニケーションを主体的に行うための基礎スキルの修得をめざします。具体的には、基本的な情報機器の構成・操作方法を理解し、情報収集、文書作成・データ集計などの方法を学びます。また、インターネットなどの情報発信・コミュニケーションに関わる基礎知識を身につけ、セキュリティなど日頃注意を払うべき事柄と心構えを学びます。

学修内容：コンピュータのしくみ（ハードウェア／OS／ソフトウェア）／Word、PowerPoint／インターネットと情報セキュリティ／Excel とその実際／情報倫理／情報の収集・整理・編集の実際

＜情報リテラシーの履修について＞

①修得単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

なお、教員免許状取得を希望する学生は必ず修得してください。

②情報リテラシーは、履修登録撤回できません。

■前期履修手続き

・履修手続きは、新入生ガイダンスの時にを行います。「情報リテラシー」の希望クラスを選択のうえ「受講希望調査カード」を提出してください。受講希望に基づき、決定した所属クラスを決定次第、「LiveCampus」及び基盤教育掲示板に掲示します。

1回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと教室を確認して履修してください。

- ・全て同一科目のため複数クラスは受講できません。
- ・受講希望者数がクラスの収容人数を超えた場合、抽選となります。
- ・2年次生以上の学生は、基盤教育係窓口から「受講希望調査カード（2年次生以上）」

を受領し、希望クラスを記入のうえ、基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は3月下旬～4月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「**情報リテラシー**」の履修登録は教務課で行います。

■後期履修手続き

・前期の履修手続きで後期開講「情報リテラシー」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要はありません。掲示情報を確認し、所属クラスの授業を履修してください。

・前期の履修希望受付期間に「希望調査カード」を提出しなかった後期履修希望学生、再履修希望学生は受講可能なクラスを掲示で確認し、受講希望カードを基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は9月下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「**情報リテラシー**」の履修登録は教務課で行います。

■再履修について

・「情報リテラシー」の再履修は基本的に認められますが、受講希望人数が収容可能数より多い場合は抽選をおこない、再履修者の受講を決定し、掲示でお知らせします。

（6）高年次教養科目について

「教養領域」の科目は、学年指定がない限り1年次のうちに履修してしまう学生が多いと思います。しかしながら、幅広く他領域の専門内容を理解し、学際性を養うことは、本格的に専門教育を学び始めた2年次以上でも大事になってきます。

そのために、「高年次教養科目」という仕組みを設けました。対象となる他学類の専門科目を2年次以上で履修した場合に、基盤教育の「教養領域」と「問題探究領域」にまたがる選択必修の単位として計上することができます。（学類毎の単位数は下表のとおりです。）必修単位分として計上することはできないので注意してください。なお、科目名等は、別途掲示を確認してください。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7単位
行政政策学類（夜間主）	11単位
共生システム理工学類、食農学類	9単位
※外国人留学生（全学類）	9単位

1 3．キャリアモデル学習の 履修について

(13) キャリアモデル学習の履修について

- ①学類毎の開講となります。詳細は、掲示等でお知らせします。
- ②人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類は「キャリア設計科目」の中から選択して修得することになります。
- ③共生システム理工学類、食農学類は、必ず修得しなければなりません。
- ④行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリアモデル学習	開講科目一覧を参照	木	4	2	2	開講科目一覧を参照	人間発達
	キャリアモデル学習	※時間割を確認			2	2		行政政策
前期	キャリアモデル学習	岩井秀樹・吉田樹	木	5	3	2	L2/L3	経済経営
前期	キャリアモデル学習	山口 克彦 他	月	5	2	2	L4	理工
前期	キャリアモデル学習	二瓶 直登 他	月	4	2	2	L1	食農

1 4．問題探究領域の履修について

問題探究領域の履修について

この領域は、東日本大震災や地域の過疎化などの現実的な問題から、「自分事」として取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行うことを目的としています。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7単位
共生システム理工学類、食農学類	9単位
※外国人留学生（全学類）	9単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

（１）問題探究科目

福島の震災・原発事故に関する問題や、地域や世界の今日的な課題を学び、その原因解明や問題解決方法を考えることを目的とし、「問題解決を基盤とした学習」の中心に位置づく科目です。

具体的な問題解決の事例や各学問によるアプローチの手法を学ぶ講義型科目のほか、学生たちが自ら問題解決に取り組むアクティブ・ラーニング型の科目も開講します。

<問題探究科目の履修について>

- ① 2単位を修得しなければなりません。
- ② ①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ③ 行政政策学類生は、夜間開講の問題探究科目で受講できる科目があります。
詳細は、行政政策学類の掲示等で確認してください。
- ④ 科目名称についての注意
 - ・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。
 - 例：ふくしま未来学入門Ⅰ，Ⅱ → 別の科目
- ⑤ 「抽選履修登録」は、教養領域の学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

⑥「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。

（２）自主学修プログラム

自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、任意の教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。活動は、自主的な協働学習やプロジェクト型の学修が主たる内容です。

自主学修プログラムは、学修の企画を立ち上げ、計画し、実践して成果をまとめるという一連のプロセスを評価し、単位認定します。

＜自主学修プログラムの履修について＞

- ①修得単位（１単位または２単位）は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
- ②前期申請は４月、後期申請は１０月です。詳細は、別途掲示等を確認してください。

（３）問題探究セミナーについて

別項目＜問題探究セミナーⅠの履修について＞を参照してください。

1 5．問題探究セミナーⅠの 履修について

(15) 問題探究セミナーⅠの履修について

「問題探究セミナーⅠ」は、本学の教育理念でもある「問題解決を基盤とした教育」の入口科目で「スタートアップセミナー」とともに初年次教育の重要な科目であり、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルの定着を目的とするのに対し、この科目は現実の問題に対する理解・探究・解決を目的とするものです。すなわち、両者は縦系と横系の関係になります。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

＜問題探究セミナーⅠの履修手続きについて＞

- ① 2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
- ② 未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」／各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。
- ③ 問題探究セミナーⅠは、履修登録撤回できません。

問題探究セミナーⅠ担当者一覧

人間発達文化学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数	教室
問題探究 セミナーⅠ	A	木 3	森本 明			
	B		飛田 操			
	C		原野 明子			
	D		千葉 養伍 高橋 純一			
	E		加藤 奈保子			
	F		澁澤 尚			
	G		朝賀 俊彦			
	H		中村 洋介			
	J		中田 文憲			
	K		川本 和久 蓮沼 哲哉			

行政政策学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー I	※ガイダンスおよび時間割を確認			2	2	

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー I	A	木 3	荒知宏	2	2	104 演 /IPC1
	B		岩井秀樹			113 演
	C		岩本吉弘			114 演
	D		大川裕嗣			509 演
	E		奥本英樹			412 演
	F		金善照			409 演
	G	木 5	佐藤英司			502 演
	H	木 3	沼田大輔			501 演
	I		根建晶寛			410 演
	J		藤原遥			411 演
	K		村上早紀子			502 演
	L	木 5	井本亮			410 演
	M	木 3	クズネットワーク・マリーナ			404 演

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数	教室
問題探究 セミナーⅠ	A	月 5	内海 哲史	2	2	S 3 1
	B		大橋 弘範	2	2	S 3 2
	C		大山 大	2	2	S 3 3
	D		後藤 忍	2	2	S 3 4
	E		島田 邦雄	2	2	S 3 5
	F	月 3	筒井 雄二	2	2	S 3 3
	G	月 5	董 彦文	2	2	I P C 5
	H		吉田 龍平	2	2	S 3 8

食農学類（問題探究セミナーⅠ）

授業科目名	クラス	担当教員	曜日 時限	セメスター	単位数	教室
農場基礎実習Ⅱ	授業内で 4グループに	高田 大輔 他	木 3、4	2	2	農場 ほか

1 6 . 学類・コースの紹介

学類・コースの紹介

1. 共生システム理工学類における教育の特色

共生システム理工学類では、（１）基礎・基本を重視し、自ら問題を設定し、問題解決のできる教育の重視、（２）視野の広い人材を育成するための文理融合型教育の重視、（３）国際貢献できる国際性を身につけた教育の重視、（４）実践力を身につける実践型教育の重視、の４つを教育の柱としています。これらの具体化のために、「専門教育」を、「学類共通領域」（学類共通科目＋学類基礎科目＋学類専門科目）、「コース領域（講義科目＋実践科目）」、「演習」、「卒業研究」の４つに区分し、それぞれに基礎単位を必修化すると同時に、選択科目を可能な限り拡大し、きめ細かな修学指導を行うことによって、学生の多様な学習ニーズに対応しています。

2. 共生システム理工学類の構成

21世紀の課題を見据え、その解決に貢献できる人材を育成することが本学類の目標です。そのために、本学類は「数理・情報科学コース」、「経営システムコース」、「物理・システム工学コース」、「物質科学コース」、「エネルギーコース」、「生物環境コース」「地球環境コース」「社会計画コース」「心理・生理コース」の9コースから構成されています。すべてのコースの「専門教育」で、理工系の基礎・基本科目、「自由選択」で、経営や環境を理解する科目を配置しています。その上で理工系の専門科目を配置し、少人数によるきめ細かい教育支援体制とGPA等による達成度評価により、学生の基礎学力を保証します。以下に、それぞれのコースのカリキュラムの特徴等を説明します。

（１）数理・情報科学コース

① 数理・情報科学コースがめざすもの

現代の複雑な社会・自然現象を解明するためには、数学的モデル化、シミュレーション、分析が必要です。また、発展・変化の著しい高度情報化社会に対応するためには、情報システムの設計・開発・運用を行える実践的能力も求められています。

本コースは、数学・数理科学と情報科学を見渡したカリキュラムを備え、いずれを専門とする学生も隣接領域への視野と実践・応用力を養うための学習・研究を行います。

② キーワード

数学、ソフトウェア、情報科学、ネットワーク、シミュレーション、データ工学など

（２）経営システムコース

① 経営システムコースがめざすもの

本コースでは、企業経営の効率化のための工学的手法(IE)とマネジメント手法(MOT)を学びます。

企業経営とは、製品開発・生産・流通・サービスなどの企業活動を管理（計画・実施・評価・改善）・マネジメントすることです。現在直面している・将来必ず起こりうる、さまざまな企業経営の諸問題に対し、俯瞰的・的確な解決策を提示できるような学習・研究をします。

② キーワード

経営、サービス、IE、開発、工学的手法、MOT、生産、マネジメント、流通、経営環境など

(3) 物理・システム工学コース

① 物理・システム工学コースがめざすもの

本コースでは物理や機械・電気・情報工学に関係する基本的な知識の修得をベースとして、社会に役立つ新たな“もの”や“技術”、“システム”の創出を担う研究者・開発者を育てます。

学習・研究分野として、物理、機械、電気といった基本分野のほか、モデリングや数値シミュレーションを駆使してサイバネティクス、福祉・医工学、知能ロボットなどの人と工学とが融合した分野も対象としています。

② キーワード

物理、機械・電気工学、ものづくり、信号処理・制御、生体・医用工学など

(4) 物質科学コース

① 物質科学コースがめざすもの

近年、人類は資源・エネルギー・環境分野に対する多くの問題に直面しています。本コースでは、省エネルギー・省資源など低環境負荷の観点から、化学を基盤とした物質科学や材料工学に関する体系的な学問を習得するとともに、化学実験を通して、上記の諸課題に取り組む研究をします。これらの学習・研究とともに、産官学連携を見据えた実践教育も多く取り入れ、環境に配慮した先進的な「ものづくり」に貢献できる人材を育成します。

② キーワード

化学、先端材料、新素材開発など

(5) エネルギーコース

① エネルギーコースがめざすもの

原子力発電所事故は福島に大きな被害を与えました。地球温暖化を招く化石エネルギー資源に、過度に依存することも許されません。持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育てるため、本コースではエネルギー資源の状況と省エネ・創エネ・蓄エネの技術を幅広く学び、エネルギーを切り口に科学技術・社会構造・経済構造の在り方を考えます。

② キーワード

再生可能エネルギー、地球温暖化対策、省エネ・創エネ・蓄エネなど

(6) 生物環境コース

① 生物環境コースがめざすもの

生態学、形態学、分類学、発生学、遺伝学、微生物学など生物学の基礎を学び、多様な実験・野外実習科目で実践力をつけます。研究室では環境保全・生物保全などの応用にも取り組みます。環境や生物多様性の調査や保全、遺跡出土物の分析など、地域や社会への貢献を意図した教育・研究に力を入れるのもこのコースの特色です。

② キーワード

生態学、環境微生物学、生物多様性、保全生物学

(7) 地球環境コース

① 地球環境コースがめざすもの

自然災害・水資源の減少・温暖化などの地球環境に関する問題は、様々な要素が複雑に絡みあっています。このコースでは、地球環境を構成する地形・地質・気象・水循環などを基礎から学び、野外調査やモデリングを通して実践力を身につけます。日本や世界で発生する自然災害の予測や防災、人間活動や地球温暖化が地域や地球全体の環境に及ぼす影響の解明から課題の解決につながる研究へと発展させます。

② キーワード

地球環境、水循環、自然災害、環境予測、防災

(8) 社会計画コース

① 社会計画コースがめざすもの

持続可能な社会の構築を目指して、文理の垣根を超えた総合的な視点から、計画的にアプローチする方法を学ぶコースです。環境を構成する自然、社会、文化の各側面から問題点を総合的に捉え、都市や農村の空間を効果的にデザイン・計画するとともに、行政・事業者・市民による協働の取り組みを進めていくための専門分野を探究します。

② キーワード

社会、都市、持続可能性、環境、農村、デザイン（思考）、地域、計画

(9) 心理・生理コース

① 心理・生理コースがめざすもの

科学技術がいかに発展したとしても、それを支え、利用しているのは人間です。さまざまな視点から人間を理解し、それらの知見を科学技術に応用できる能力の修得をこのコースでは目指します。心理学、生理学、関連する学問分野を学習し、人間の心理・生理的仕組みを解明する研究や、それらを医療、介護、福祉、教育など専門性の高い領域で応用するための研究へと発展させます。

② キーワード

心理学、生理学、心理・生理学実験、質問紙調査、脳神経科学、脳と心

3. グループ・アドバイザー制度について

大学での学び方等の導入教育や大学生活に関する様々なガイダンスを効率よく行うために、また、教員と学生の双方に良き緊張関係を醸成し、密度の高い授業を行うために、相談に乗ったり、アドバイスをしたりする「グループ・アドバイザー」が置かれています。

グループ・アドバイザーは入学時に編成される「スタートアップセミナー」に置かれ、学生が研究室に配属するまでの間（第1 Semesterから第5 Semester）、学生の生活と修学の指導を継続して行います。グループ・アドバイザーは学生個人やクラスにおいて生じる問題の相談に応じ、アドバイスをしますが、学生の生活を規制したり、監督したりするものではありません。所属する研究室が第6 Semesterで決定すると、グループ・アドバイザーが行っていた学生の生活と修学の指導は、基本的には所属研究室の指導教員に引き継がれます。

4. コース所属と研究室配属について

(1) コース所属

コース所属は第3セメスターからで、**総単位数24単位以上を修得した者が許可されます**。コースの決定は、春季休業中に行われます。学生がコースの希望（第1希望から第9希望まで）を提出した後に、第1～2セメスターで履修した全科目の総G P（同点の場合はG P A）を基に、その上位の者から順にコースが決定されます。

各コースの定員は、各コースの担当教員数によって、調整（教員数×3名程度の学生）され、決定されます。

なお、過年度生がコース所属を希望する場合、配属決定時までの各セメスターの総G Pの中で、値の大きい2つの総G Pの合計を用います。総G Pが同点の場合に用いるG P Aは、総G Pを選択したセメスターのG P Aを用います。

ここで、総G Pとは修得した各科目の単位数とその科目のG Pとの積の総和です。

(2) 転コース

一度はコースに所属したものの、学習を進める過程で興味の対象や将来希望する進路が変わり、他のコースで学習を進めたいという学生のために「転コース」制度があります。

転コースは第6セメスターからで、学類内の全コースに所属する学生が対象となります。転コースを希望する学生は、定められた期日（5 セメ）までに教務課に届けを出さなければなりません。また、出願時には80単位以上を取得していなければなりません。

転コースの選考は、夏季休業中に行い、以下の点から総合的に判断して決定されます。

- ① 提出された文書による転コースの理由の確認
- ② 面接による、転コースの理由、勉学意欲の有無、成績などの確認

転コースした学生がどのセメスターに位置づけられるかは、その学生の取得した科目、単位数にしたがって判断されます。したがって、転コースした学生の4年間での卒業は保証されません。

(3) 研究室配属

研究室配属は第6セメスターからで、**以下の2つの条件すべてを満たした者が許可されます**。

- ① 学類共通科目及び学類基礎科目の卒業要件単位を修得していること。
- ② 総取得単位数が90単位以上であること。

学生の研究室配属については、学生の希望と第1～5セメスター（過年度生の場合は第1～研究室配属直前のセメスターまで）で取得した通算G P A（G P A対象外科目を除いて計算）などによって決定されます。研究室配属決定の手順については第5セメスターに実施されるガイダンスで詳しく説明しますので、ガイダンス開催の掲示に注意してください。

研究室に配属になった者は、その研究室の教員が開講する「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」を修得しなければなりません。

17. 専門教育、自由選択の 履修について

専門教育、自由選択の履修について

1. 専門教育の履修について

共生システム理工学類の専門教育では、人理解、産業、環境科学に関する導入的・基礎的内容を修得してもらうための「学類共通科目」・「学類基礎科目」・「学類専門科目」と、学士レベルでのキャリア形成のための専門性を身に付けるためのコース領域「コース基礎科目（必修）」・「コース専門科目（選択必修）」・「コース実践科目」が配置されています。これらは、他学類や他コースの専門教育科目も含めて専門教育レベルでの文理融合型のカリキュラムで編成されています。

卒業に必要な単位数は、「履修基準表」に示されていますが、開設授業科目や卒業までに修得しなければならない授業科目の修得方法については、「履修方法の基準」により定められています。

「履修方法の基準」のうち、専門教育の科目にかかわるものには、次ページ以降に掲載されている「**専門教育のうちの学群・学類共通領域の履修方法の基準（各コース共通）**」と「**専門教育のうちのコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準（各コース別）**」があります。それぞれの基準を示した表には開設授業科目、単位数及び履修セメスターが記載されており、それぞれの基準で定められた必修及び選択必修の単位数を修得する必要があります。また、履修セメスターは、当該科目が履修可能となるセメスターを表しており、指定されたセメスターよりも前のセメスターでは履修できません。

(1) 「専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準（各コース共通）」は、次ページの表1に記載されています。この表には、「履修基準表」の領域区分ごとに、開設授業科目等が記載されています。学類共通科目は「共生の科学Ⅰ」と「共生の科学Ⅱ」の2科目4単位を修得することが定められています。学類基礎科目Aは、「数学Ⅰ（解析学）」、「物理学Ⅰ（力学）」、「化学Ⅰ」、「プログラミング基礎」の4科目8単位を修得することが定められています。学類基礎科目Bは、「数学Ⅱ（線形代数）」・「生物学」・「地球科学」の3科目から2科目を選択して4単位を修得することが定められています。学類基礎科目Cについてもそれぞれの科目区分の中から選択して定められた単位を修得する必要があります。また、学類専門科目は、「共生の科学Ⅲ」の2単位を修得することが定められています。

(2) 「専門教育のうちのコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準（各コース別）」は、各コースのコース基礎科目（必修）・コース専門科目（選択必修）・コース実践科目は、各コースで専門性を身につけるための科目です。

コース基礎科目（必修）・コース専門科目（選択必修）は、指定されたセメスター以降のセメスターにいる場合はコース所属前に修得することができます。コース所属前に修得した科目が、所属したコースで開講している科目の場合はそのコースの科目に計上されますが、所属したコースで開講していない科目の場合は自由選択領域の科目に計上されます。ただし、自由選択科領域の要卒単位は10単位なので、10単位までを上限とします。それ以上の履修もできますが、要卒単位としては計上されません。

コース実践科目は、コースに所属した後に自分が所属しているコースの科目を履修することになります。他コースの実践科目は履修することができません。ただし、教育職員免許状取得希望者は、希望する免許取得又はプログラム修了に必要なコース実践科目に限って履修できます。なお、他コースの実践科目は自由選択領域に計上されます。

【問題探究セミナーⅡについて】

共生システム理工学類の「問題探究セミナーⅡ」は、第4セメスターにコース実践科目の必修科目として開講されます。1年次に問題探究セミナーⅠで習得したスキルを活用し、理工学的な視点・知識を用いた課題設定とそれらの解決に向けて、追求する方法や態度を身につけることを目的とし

ています。よって「問題探求セミナーⅡ」では、配属されたコースで学んでいる専門知識を活用し、より本格的に課題を解決するための実践力を身につけることが期待されています。

具体的な課題の設定およびグループ作りはコースごとに行われますので、コース担当教員の指示に従ってください。なお、最終回には成果を報告する発表会が開かれます。

「問題探求セミナーⅡ」のコアタイムとして火曜日 5 限が充てられていますが、定められた時間帯以外にも講義の空き時間などを利用して、課題解決に向け積極的に実験や製作などに取り組めるよう担当教員と相談しながら進めてください。

【卒業論文について】

- (1) 卒業するためには卒業研究を行わなければなりません。
- (2) 卒業研究の実施資格は、研究室に所属し、その研究室の教員が開講する「演習Ⅰ」の単位を取得した者に与えられます。
- (3) 卒業研究の実施資格を得た者（「演習Ⅰ」の単位取得者）は、所属する研究室の教員が開講する「演習Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」をすべて修得しなければなりません。
- (4) 「卒業研究Ⅱ」の単位修得のためには、卒業論文を提出しなければなりません。
- (5) 卒業論文の題目は、原則として、自分の所属するコースの専門分野に関するものでなければなりません。
- (6) 卒業論文は、卒業年度の1月31日（土曜日のときは翌々日、日曜日のときは翌日）までに、「卒業論文提出カード」とともに教務課に提出しなければなりません。
修業年限を超えた者で9月卒業を希望する者の場合は、前期履修登録期間内に「9月卒業希望届」を提出し、卒業論文は、卒業年度の8月31日（土曜日のときは翌々日、日曜日のときは翌日）までの提出となります。

なお、卒業論文の提出期間は、掲示による教務関係日程表を参照してください。

(7) 卒業論文提出上の注意事項

卒業論文は、原則としてパソコン等を用い、A4 判用紙にプリントアウトしたものを、仮製本するか、ファイルに綴じるなどして、体裁を整えた状態で提出してください。また、表紙には、卒業論文題目、指導教員名、学籍番号、氏名を明記してください。

専門教育の履修方法の基準

表1 専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準

領域区分		授業科目	単位	必修	選択必修	履修 セメス ター	開講予定				備 考	
							'21	'22	'23	'24		
学 類 共 通 領 域	学類共通科目		共生の科学Ⅰ	2	4	/	1	○	○	○	○	
			共生の科学Ⅱ	2			2	○	○	○	○	
	学 類 基 礎 科 目	学類基礎科目A	数学Ⅰ（解析学）	2	8	/	1	○	○	○	○	
			物理学Ⅰ（力学）	2			1	○	○	○	○	
			化学Ⅰ	2			1	○	○	○	○	
			プログラミング基礎	2			2	○	○	○	○	
		学類基礎科目B	数学Ⅱ（線形代数）	2	/	4	2	○	○	○	○	
			生物学	2			1	○	○	○	○	
			地球科学	2			2	○	○	○	○	
		学類基礎科目C	数学Ⅲ（統計学）	2	/	4	2	○	○	○	○	
			物理学Ⅱ（電磁気学）	2			2	○	○	○	○	
			化学Ⅱ	2			2	○	○	○	○	
	学類専門科目		共生の科学Ⅲ	2	2	/	5	○	○	○	○	

表2 専門教育のうちコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準

数理・情報科学コース（表2-1）

区 分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セメ スター	開講予定				備 考
							'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	基礎解析学Ⅰ	2	16		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		線形写像と幾何Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		集合と位相Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		離散数学	2			3	○	○	○	○	
		情報科学概論	2			3	○	○	○	○	
		計算機システム論	2			3	○	○	○	○	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		データベースシステム	2			4	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★情報社会と情報倫理	2	24		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		★集合と位相Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		★基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		★ソフトウェア設計開発論	2			4	○	○	○	○	
		★線形写像と幾何Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		★プログラミング言語論	2			4	○	○	○	○	
		★マルチメディアシステム論	2			5	○	○	○	○	
		★形式言語とコンパイラ	2			5	○	○	○	○	
		★応用数学Ⅰ	2			5	○	○	○	○	
		★ネットワークシステム	2			5	○	○	○	○	
		数理モデリング	2			3	○	○	○	○	
		経営工学	2			3	○	○	○	○	
		経営のデータ科学	2			3	○	○	○	○	
		人間工学	2			4	○	○	○	○	
		オペレーションズ・リサーチ	2			4	○	○	○	○	
		解析学Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅲ	2			5	○	○	○	○	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		解析学Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		デジタル信号処理	2			5	○	○	○	○	
		経営情報システム	2			5	○	○	○	○	
		情報科教育法Ⅰ	2			5	○	○	○	○	
		情報科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		応用数学Ⅱ	2			6	○	○	○	○	
	人工知能と知識処理	2	6	○	○	○	○				
	情報理論	2	6	○	○	○	○				
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		プログラミングⅠ	2			3	○	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2			4	○	○	○	○	
		プログラミングⅢ	2	4		5	○	○	○	○	
		数理・情報学ゼミⅠ	2			5	○	○	○	○	
		数理・情報学ゼミⅡ	2			6	○	○	○	○	
		応用情報学演習	2			6	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から12単位以上取得すること。

経営システムコース（表2-2）

区 分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考
							'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	経営工学	2	16		3	○	○	○	○	
		生産管理概論	2			3	○	○	○	○	
		流通管理概論	2			3	○	○	○	○	
		経営のデータ科学	2			3	○	○	○	○	
		産業・社会調査法	2			3	○	○	○	○	
		経営システム概論	2			3	○	○	○	○	
		製品開発概論	2			4	○	○	○	○	
		循環型産業論	2			4	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★情報科学概論	2	24		3	○	○	○	○	
		★入門会計学	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		★経営戦略論	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		★オペレーションズ・リサーチ	2			4	○	○	○	○	
		★品質管理	2			4	○	○	○	○	
		★サプライチェーンマネジメント	2			4	○	○	○	○	
		★人間工学	2			4	○	○	○	○	
		★基礎経営学Ⅰ	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		★エコロジカル経済学	2			5	○	○	○	○	
		★経営情報システム	2			5	○	○	○	○	
		★環境経済学	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		離散数学	2			3	○	○	○	○	
		数理モデリング	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		心理学概論	2			3	○	○	○	○	
		都市計画概論	2			4	○	○	○	○	
		入門統計学	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		地域と経済	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		社会調査論	2			3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	経営システムコースの学生のみ履修可
		データベースシステム	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		ソフトウェア設計開発論	2			4	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2			4	○	○	○	○	
		科学技術と環境の倫理学	2			4	×	○	×	○	人間発達文化学類開講科目 隔年開講
		基礎経営学Ⅱ	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		統計学概論	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		原価計算Ⅰ	2			3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		管理会計	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		基礎解析学Ⅲ	2			5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		応用数学Ⅰ	2			5	○	○	○	○	
		都市計画論	2			5	○	○	○	○	
		経営情報分析	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		原価計算Ⅱ	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		コスト・マネジメント	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		地域企業経営論	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		国際経営論	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		計量経済学	2			5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		応用数学Ⅱ	2			6	○	○	○	○	
		人工知能と知識処理	2			6	○	○	○	○	
		知的財産権論	2			7	×	○	○	○	
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	
		経営システム演習Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		経営システム演習Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2	4		3	○	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2			4	○	○	○	○	
		プログラミングⅢ	2			5	○	○	○	○	
		CAD/CAM演習	2			5	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついてる科目から12単位以上取得すること。

物理・システム工学コース（表2-3）

区 分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考
							'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	数理モデリング	2	16		3	○	○	○	○	
		材料力学	2			3	○	○	○	○	
		機構学	2			3	○	○	○	○	
		電気回路	2			3	○	○	○	○	
		基礎物性物理	2			3	○	○	○	○	
		量子力学	2			4	○	○	○	○	
		計測工学	2			4	○	○	○	○	
		制御工学	2			4	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★熱力学	2	24		3	○	○	○	○	
		★材料工学	2			3	○	○	○	○	
		★人間工学	2			4	○	○	○	○	
		★電子回路	2			4	○	○	○	○	
		★アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		★デジタル信号処理	2			5	○	○	○	○	
		★統計力学	2			5	○	○	○	○	
		★パワーエレクトロニクス	2			5	○	○	○	○	
		★流体力学	2			5	○	○	○	○	
		計算機システム論	2			3	○	○	○	○	
		心理学概論	2			3	○	○	○	○	
		脳神経科学	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		線形写像と幾何Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		物理化学	2			3	○	○	○	○	
		技術科教育法Ⅰ	2			3	○	×	○	×	隔年開講
		技術科教育法Ⅳ	2			3	○	×	○	×	隔年開講
		技術科教育法Ⅱ	2			3	×	○	×	○	隔年開講
		工業科教育法Ⅰ	2			3	×	○	×	○	隔年開講
		工業科教育法Ⅱ	2			3	×	○	×	○	隔年開講
		情報科学概論	2			3	○	○	○	○	
		機械材料・加工学	2			4	○	○	○	○	
		システム生理学	2			4	○	○	○	○	
		機器分析	2			4	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		線形写像と幾何Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2			4	○	○	○	○	
		技術科教育法Ⅲ	2			4	×	○	×	○	隔年開講
		基礎心理学Ⅱ（神経・生理心理学）	2			4	○	○	○	○	
		解析学Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		医用福祉工学	2			5	○	○	○	○	
		放射線科学	2			5	○	○	○	○	
		解析学Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅲ	2			5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		理科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
	心理学研究法	2	5	○	○	○	○				
	人工知能と知識処理	2	6	○	○	○	○				
	理科教育法Ⅲ	2	6	○	○	○	○				
	知的財産権論	2	7	×	○	○	○				
コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○		
	物理学実験	2			3	○	○	○	○		
	機械・電気工学実験	2			4	○	○	○	○		
	物理・システム工学演習	1			3	○	○	○	○		
	化学実験Ⅰ	2			3	○	○	○	○		
	プログラミングⅠ	2			3	○	○	○	○		
	プログラミングⅡ	2			4	○	○	○	○		
	CAD/CAM演習	2			5	○	○	○	○		
演習	演習	生体工学実験	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅰ	2			7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から12単位以上取得すること。

物質科学コース（表2-4）

区 分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考
							'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	熱力学	2	16		3	○	○	○	○	
		基礎無機化学	2			3	○	○	○	○	
		基礎有機化学	2			3	○	○	○	○	
		分析化学	2			3	○	○	○	○	
		物理化学	2			3	○	○	○	○	
		無機化学	2			4	○	○	○	○	
		有機化学	2			4	○	○	○	○	
		機器分析	2			4	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★材料工学	2	24		3	○	○	○	○	
		★環境衛生科学	2			3	○	○	○	○	
		★化学工学	2			4	○	○	○	○	
		★生化学	2			4	○	○	○	○	
		★資源・エネルギー工学	2			4	○	○	○	○	
		★高分子化学	2			5	○	○	○	○	
		★発展無機化学	2			5	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		材料力学	2			3	○	○	○	○	
		電気回路	2			3	○	○	○	○	
		基礎物性物理	2			3	○	○	○	○	
		生物多様性概論	2			3	○	○	○	○	
		地質学概論	2			3	○	○	○	○	
		気象学	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		電子回路	2			4	○	○	○	○	
		機械材料・加工学	2			4	○	○	○	○	
		量子力学	2			4	○	○	○	○	
		生態学基礎	2			4	○	○	○	○	
		製品開発概論	2			4	○	○	○	○	
		循環型産業論	2			4	○	○	○	○	
		品質管理	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2			4	○	○	○	○	
		放射線科学	2			5	○	○	○	○	
		再生可能エネルギーⅠ	2			5	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		再生可能エネルギーⅡ	2			6	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅲ	2			6	○	○	○	○	
		知的財産権論	2			7	×	○	○	○	
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		物理学実験	2			3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅲ	2			5	○	○	○	○	
		CAD/CAM演習	2			5	○	○	○	○	
		サイエンスライティング演習	2			8	×	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から12単位以上取得すること。

エネルギーコース（表2-5）

区 分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考
							'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	熱力学	2	16	/	3	○	○	○	○	
		環境衛生科学	2			3	○	○	○	○	
		基礎物性物理	2			3	○	○	○	○	
		電気回路	2			3	○	○	○	○	
		資源・エネルギー工学	2			4	○	○	○	○	
		化学工学	2			4	○	○	○	○	
		都市計画概論	2			4	○	○	○	○	
		エコロジカル経済学	2			5	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★気象学	2	24	/	3	○	○	○	○	
		★水循環システム学概論	2			3	○	○	○	○	
		★経営工学	2			3	○	○	○	○	
		★社会計画概論	2			3	○	○	○	○	
		★環境計画論	2			3	○	○	○	○	
		★循環型産業論	2			4	○	○	○	○	
		★再生可能エネルギーⅠ	2			5	○	○	○	○	
		★流体力学	2			5	○	○	○	○	
		★パワーエレクトロニクス	2			5	○	○	○	○	
		★再生可能エネルギーⅡ	2			6	○	○	○	○	
		基礎無機化学	2			3	○	○	○	○	
		基礎有機化学	2			3	○	○	○	○	
		分析化学	2			3	○	○	○	○	
		物理化学	2			3	○	○	○	○	
		材料工学	2			3	○	○	○	○	
		地質学概論	2			3	○	○	○	○	
		材料力学	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		無機化学	2			4	○	○	○	○	
		有機化学	2			4	○	○	○	○	
		機器分析	2			4	○	○	○	○	
		生化学	2			4	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2			4	○	○	○	○	
		生態学基礎	2			4	○	○	○	○	
		環境微生物学	2			4	○	○	○	○	
		環境保全論	2			4	○	○	○	○	
		流域水文学	2			4	○	○	○	○	
		地下水盆管理学	2			4	○	○	○	○	
		制御工学	2			4	○	○	○	○	
		計測工学	2			4	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		高分子化学	2			5	○	○	○	○	
		発展無機化学	2			5	○	○	○	○	
		放射線科学	2			5	○	○	○	○	
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6	/	4	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		機械・電気工学実験	2			4	○	○	○	○	
		物理学実験	2	4	/	3	○	○	○	○	
		エネルギー資源調査Ⅰ	1			3	○	○	○	○	
		エネルギー資源調査Ⅱ	1			4	○	○	○	○	
		化学実験Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
	社会計画演習Ⅰ	2	4	○	○	○	○				
演習	演習	演習Ⅰ	2	4	/	6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4	/	7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついてる科目から12単位以上取得すること。

生物環境コース（表2-6）

区 分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セメ スター	開講予定				備 考
						'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	生物多様性概論	2	16	3	○	○	○	○	
		水循環システム学概論	2		3	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2		4	○	○	○	○	
		生態学基礎	2		4	○	○	○	○	
		環境微生物学	2		4	○	○	○	○	
		環境保全論	2		4	○	○	○	○	
		保全遺伝学	2		4	○	○	○	○	
		森林生態学	2		5	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★地質学概論	2	24	3	○	○	○	○	
		★基礎有機化学	2		3	○	○	○	○	
		★分析化学	2		3	○	○	○	○	
		★環境計画論	2		3	○	○	○	○	
		★気象学	2		3	○	○	○	○	
		★都市計画概論	2		4	○	○	○	○	
		★生化学	2		4	○	○	○	○	
		★流域水文学	2		4	○	○	○	○	
		★地下水益管理学	2		4	○	○	○	○	
		★高分子化学	2		5	○	○	○	○	
		★水循環システム学	2		5	○	○	○	○	
		基礎無機化学	2		3	○	○	○	○	
		心理学概論	2		3	○	○	○	○	
		脳神経科学	2		3	○	○	○	○	
		博物館資料論	2		3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		博物館学概論	2		3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		博物館教育論	2		3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		博物館資料保存論	2		3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		博物館展示論	2		3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		博物館経営論	2		3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		博物館情報・メディア論	2		3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目 隔年開講 ・学芸員資格取得希望者のみ受講可
		環境文化論	2		4	○	○	○	○	
		機器分析	2		4	○	○	○	○	
		資源・エネルギー工学	2		4	○	○	○	○	
		システム生理学	2		4	○	○	○	○	
		有機化学	2		4	○	○	○	○	
		社会情報分析	2		4	○	○	○	○	
		基礎心理学Ⅰ（学習・言語心理学）	2		4	○	○	○	○	
		基礎心理学Ⅱ（神経・生理心理学）	2		4	○	○	○	○	
		考古学Ⅰ	2		3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		理科教育法Ⅰ	2		4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2		4	○	○	○	○	
		エコロジカル経済学	2		5	○	○	○	○	
		都市計画論	2		5	○	○	○	○	
		サウンドスケープ	2		5	○	○	○	○	
		放射線科学	2		5	○	○	○	○	
		生命環境の科学Ⅰ	2		5	○	×	○	×	人間発達開講科目 隔年開講
		考古学Ⅱ	2		5～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		理科教育法Ⅱ	2		5	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅲ	2		6	○	○	○	○	
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6	4	○	○	○	○	
		保全生物学実験	2		5	○	○	○	○	
		サイエンスライティング演習	2		8	×	○	○	○	
		自然環境調査法	1		3	○	○	○	○	
		森林調査法	1		3	○	○	○	○	
		他大学野外実習Ⅰ（集中）	1～2		3	○	○	○	○	
		他大学野外実習Ⅱ（集中）	1～2		3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2		3	○	○	○	○	
		気象データ解析	1		3	○	○	○	○	
		地球環境科学実験	2		4・5	○	○	○	○	
		生物多様性保全実習	1		5	○	○	○	○	
		土壌・水圏微生物学実験	2		5	○	○	○	○	
		地球環境調査法	1		5	○	○	○	○	
		水理学演習	2		6	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4	6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2		7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4	7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2		8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から1 2 単位以上取得すること。

地球環境コース（表2-7）

区 分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セメ スター	開講予定				備 考
							'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	地質学概論	2	16		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		水循環システム学概論	2			3	○	○	○	○	
		気象学	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2			4	○	○	○	○	
		流域水文学	2			4	○	○	○	○	
		地下水盆管理学	2			4	○	○	○	○	
		水循環システム学	2			5	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★基礎無機化学	2	24		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		★分析化学	2			3	○	○	○	○	
		★生物多様性概論	2			3	○	○	○	○	
		★生態学基礎	2			4	○	○	○	○	
		★環境微生物学	2			4	○	○	○	○	
		★環境保全論	2			4	○	○	○	○	
		★保全遺伝学	2			4	○	○	○	○	
		★機器分析	2			4	○	○	○	○	
		★基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		★解析学Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		熱力学	2			3	○	○	○	○	
		基礎有機化学	2			3	○	○	○	○	
		環境計画論	2			3	○	○	○	○	
		線形写像と幾何Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		情報科学概論	2			3	○	○	○	○	
		情報社会と情報倫理	2			3	○	○	○	○	
		環境衛生科学	2			3	○	○	○	○	
		線形写像と幾何Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		都市計画概論	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2			4	○	○	○	○	
		解析学Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		森林生態学	2			5	○	○	○	○	
		統計力学	2			5	○	○	○	○	
		流体力学	2			5	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅲ	2			5	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅲ	2			6	○	○	○	○	
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	
		地球環境科学実験	2			4・5	○	○	○	○	
		水理学演習	2			6	○	○	○	○	
		自然環境調査法	1	4		3	○	○	○	○	
		森林調査法	1			3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2			3	○	○	○	○	
物理学実験		2	3			○	○	○	○		
気象データ解析		1	3			○	○	○	○		
プログラミングⅡ		2	4			○	○	○	○		
保全生物学実験		2	5			○	○	○	○		
地球環境調査法		1	5			○	○	○	○		
土壌・水圏微生物学実験		2	5			○	○	○	○		
生物多様性保全実習		1	5			○	○	○	○		
サイエンスライティング演習		2	8			×	○	○	○		
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から12単位以上取得すること。

社会計画コース（表2-8）

区 分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セメ スター	開講予定				備 考
						'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	社会計画概論	2	16	3	○	○	○	○	
		環境計画論	2		3	○	○	○	○	
		心理学概論	2		3	○	○	○	○	
		都市計画概論	2		4	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2		4	○	○	○	○	
		環境保全論	2		4	○	○	○	○	
		社会情報分析	2		4	○	○	○	○	
		エコロジカル経済学	2		5	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★生物多様性概論	2	24	3	○	○	○	○	
		★社会調査論	2		3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		★科学技術と環境の倫理学	2		4	×	○	×	○	社会計画コースの学生のみ履修可 人間発達文化学類開講科目 隔年開講
		★生態学基礎	2		4	○	○	○	○	
		★環境文化論	2		4	○	○	○	○	
		★循環型産業論	2		4	○	○	○	○	
		★都市計画論	2		5	○	○	○	○	
		★サウンドスケープ	2		5	○	○	○	○	
		環境衛生科学	2		3	○	○	○	○	
		気象学	2		3	○	○	○	○	
		水循環システム学概論	2		3	○	○	○	○	
		地域環境論	2		3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		地域社会学	2		3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		地質学概論	2		3	○	○	○	○	
		都市とまちづくりの地理学	2		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		熱力学	2		3	○	○	○	○	
		流通管理概論	2		3	○	○	○	○	
		行政学Ⅰ	2		3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目 隔年開講
		行政学Ⅱ	2		3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目 隔年開講
		社会福祉論	2		3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		地域と経済	2		3～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		資源・エネルギー工学	2		4	○	○	○	○	
		地下水盆管理学	2		4	○	○	○	○	
		流域水文学	2		4	○	○	○	○	
		環境経済学	2		5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		環境法	2		5～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目 隔年開講
		再生可能エネルギーⅠ	2		5	○	○	○	○	
		社会政策	2		5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		森林生態学	2		5	○	○	○	○	
		水循環システム学	2		5	○	○	○	○	
		地域政策論	2		5～	○	○	○	○	経済経営学類開講科目
		放射線科学	2		5	○	○	○	○	
		応用数学Ⅱ	2		6	○	○	○	○	
		再生可能エネルギーⅡ	2		6	○	○	○	○	
		情報社会論	2		5～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		地域福祉論	2		5～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		知的財産権論	2		7	×	○	○	○	
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6	4	○	○	○	○	
		社会計画演習Ⅰ	2		4	○	○	○	○	
		社会計画演習Ⅱ	2		5	○	○	○	○	
		自然環境調査法	1	4	3	○	○	○	○	
		森林調査法	1		3	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2		3	○	○	○	○	
		地球環境科学実験	2		4・5	○	○	○	○	
		生体システム実験（心理学実験）	2		4	○	○	○	○	
		地球環境調査法	1		5	○	○	○	○	
		生物多様性保全実習	1		5	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4	6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2		7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4	7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2		8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から12単位以上取得すること。

心理・生理コース（表2-9）

区 分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セメ スター	開講予定				備 考
						'21	'22	'23	'24	
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	心理学概論	2	16	3	○	○	○	○	
		脳神経科学	2		3	○	○	○	○	
		人間工学	2		4	○	○	○	○	
		基礎心理学Ⅰ（学習・言語心理学）	2		4	○	○	○	○	
		基礎心理学Ⅱ（神経・生理心理学）	2		4	○	○	○	○	
		システム生理学	2		4	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2		4	○	○	○	○	
		心理学研究法	2		5	○	○	○	○	
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	★基礎有機化学	2	24	3	○	○	○	○	
		★基礎無機化学	2		3	○	○	○	○	
		★知覚・認知心理学Ⅰ	2		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。
		★生態学基礎	2		4	○	○	○	○	
		★社会情報分析	2		4	○	○	○	○	
		★計測工学	2		4	○	○	○	○	
		★医用福祉工学	2		5	○	○	○	○	
		★サウンドスケープ	2		5	○	○	○	○	
		★健康・医療心理学	2		5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		食と健康	2		3					人間発達文化学類開講科目
		解剖学	2		3					人間発達文化学類開講科目
		生物多様性概論	2		3	○	○	○	○	
		分析化学	2		3	○	○	○	○	
		情報科学概論	2		3	○	○	○	○	
		環境計画論	2		3	○	○	○	○	
		基礎解剖学Ⅰ	2		3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		社会調査論	2		3～	○	○	○	○	行政政策学類開講科目
		発達心理学	2		3	×	○	×	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。隔年開講
		社会・集団・家族心理学	2		3	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		心理学的支援法	2		3	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		教育・学校心理学	2		3	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		福祉心理学	2		3	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		公認心理師の職責	2		3	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		感情・人格心理学	2		3	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。
		生化学	2		4	○	○	○	○	
		環境文化論	2		4	○	○	○	○	
		生理学（運動生理学を含む）	2		4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		障害者・障害児心理学	2		4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。
		産業・組織心理学	2		4	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		関係行政論	2		4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。隔年開講
		教育相談の心理（臨床心理学概論）	2		4	×	○	×	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。隔年開講
		生命環境の科学Ⅰ	2		5	○	×	○	×	人間発達文化学類開講科目。隔年開講
		心理的アセスメント	2		5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。
		司法・犯罪心理学	2		5	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
	コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6	4	○	○	○	○	
		生体システム実験（心理学実験）	2		4	○	○	○	○	
		心理学統計法	2		4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。
		プログラミングⅠ	2		3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2		3	○	○	○	○	
		物理学実験	2		3	○	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2		4	○	○	○	○	
		心理演習	2		5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。 「公認心理師の職責」・「関係行政論」・「心理学的支援 法」の単位を修得した者のみ履修可。
		生体工学実験	2		6	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目。
		心理実習	2		6・7	○	○	○	○	心理・生理コースの学生のみ履修可。 「心理演習」の単位を修得した上で、実習参加可とされた 者が履修可。
演習	演習	演習Ⅰ	2	4	6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2		7	×	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4	7	×	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2		8	×	○	○	○	

選択必修科目のうち★印のついている科目から1 2単位以上取得すること。

2. 自由選択の履修について

自由選択の卒業に必要な修得単位は10単位となります。自由選択の履修方法の基準は、以下のとおりです。

自由選択に計上できるのは、基盤教育科目の卒業要件を超過して修得した単位、学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコース以外のコースのコース領域の各科目区分において修得した単位、配属されているコースのコース領域の科目に指定されていない他学類科目、教員免許取得のための科目のうち下記の表3-1の科目、学芸員資格取得のための科目のうち下記の表3-2の科目及び特別聴講学生として修得した他大学等との単位互換科目について計上することができます。また、その他の科目のうち、下記の表3-3に記載されている科目の単位も自由選択に計上されます。

教員免許取得のための科目（表3-1）

区分	授業科目	単位	履修セメスター	開 講 予 定				備考
				'21	'22	'23	'24	
自由選択	人間と教育	2	4	○	○	○	○	
	教職入門	2	3	○	○	○	○	
	教育と社会	2	5	○	○	○	○	
	教育発達心理学	2	3	×	○	×	○	隔年開講
	特別支援教育基礎	2	3	○	○	○	○	
	道徳指導論	2	6	○	○	○	○	
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	3	○	○	○	○	
	教育の方法	2	3	○	○	○	○	
	教育相談の基礎（中学校・高等学校に焦点づけて）	2	6	○	○	○	○	
	生活指導論	2	5	○	○	○	○	
	教職実践演習	2	8	×	○	○	○	
	事前及び事後指導	1	7-8	×	○	○	○	
	教育実習（4週間）	4	7-8	×	○	○	○	
	教育実習（2週間）	2	7-8	×	○	○	○	

区分	授業科目	単位	履修セメスター	開 講 予 定				備考
				‘21	‘22	‘23	‘24	
自由 選択	生命環境の科学Ⅱ	2	3	×	○	×	○	★隔年開講
	基礎微生物学	2	2	○	○	○	○	☆
	土壤生態学	2	6	○	○	○	○	☆
	地球惑星の科学Ⅰ	2	4	○	×	○	×	★隔年開講
	地球惑星の科学Ⅱ	2	5	×	○	×	○	★隔年開講
	土壤科学	2	3	○	○	○	○	☆
	水資源利用学	2	4	○	○	○	○	☆
	木材加工学概論及び実習	2	3	×	○	×	○	隔年開講
	栽培学概論及び実習	2	1	○	×	○	×	隔年開講
	職業指導	2	4	×	○	×	○	隔年開講
	情報と職業	2	5	○	○	○	○	

★印の科目は人間発達文化学類開講科目

☆印の科目は食農学類開講科目

学芸員資格取得のための科目（表3-2）

区 分	授業科目	単位	履修セメスター	開 講 予 定				備考
				‘21	‘22	‘23	‘24	
自 由 選 択	生涯学習社会と学校・家庭・地域	2	3	×	○	×	○	★ 隔年開講
	博物館実習（自然科学系）	2	5-6	○	○	○	○	

★印の科目は人間発達文化学類開講科目で最大受け入れ人数は10名です。

履修登録期間中に教務課窓口で履修登録申請の手続きをしてください。

※学芸員資格取得のための科目は、学芸員資格取得希望者のみ受講可です。

その他（表3-3）

区 分	授業科目	単位	履修セメスター	開講予定				備考
				‘21	‘22	‘23	‘24	
自 由 選 択	海外演習	2	3	○	○	○	○	

【海外演習について】

共生システム理工学類では、第3セメスター（2年生前期）に自由選択科目として海外演習を実施します。これは、今までに大学で学んだ専門分野の知識や経験をいかして、実際に海外の大学や研究機関、企業や工場、現場でどのようなことが行われているのかを直接見て体験するとともに、国際的な感覚を身につけることを目標にしています。

学類で計画するプログラムの他にも、学生と教員が適宜計画して実施する個別プログラムも認定できます。個別プログラムは関係部門の承認が必要ですので、海外演習実施計画委員会、教務課などに相談ください。

海外演習の実施時期は、毎年8～9月に想定されることが多いようです。演習の実施期間は、1～2週間程度です。なお、海外演習に参加するためには、事前に開かれる準備講座に参加しなくてはなりません。また、海外演習に必要な経費（渡航費、宿泊費、食費、保険料など、金額は演習先により異なる、1人あたり10万～25万円程度と想定されます）は、参加する学生の個人負担となります。

事前の準備講座は、前期授業期間中に原則として週1回開かれます。準備講座では、海外演習に参加するための具体的な準備を基礎から行うとともに、海外演習に必要な語学力の向上もめざします。それぞれの海外演習には教員も引率者として同行します。事前に準備を入念に行い、海外演習の手引書を活用して、安全管理や健康管理に十分配慮した演習を行うことにしています。

海外演習に参加するためには、最低限の語学力（英語）が必要です。海外演習で実際に海外に行く時までには、TOEIC 試験で 500 点以上の英語力を身につけておく必要があります。海外演習に参加を希望する学生は、なるべく早い機会にこうした語学試験を受けておいてください。

学生時代に海外に行き、専門分野に関する見聞を広めるとともに国際的な感覚を身につけることは、きっと将来の活躍にも役立ちます。本学類では、やる気のある積極的な学生が海外演習に参加することを期待しています。

※海外演習に参加する場合は、事前に海外演習担当の教員に相談の上、必ず前期の履修登録期間内に履修登録してください。また、履修登録撤回の期間を過ぎてから、履修者の都合で海外演習を取り止めた場合には、原則として、成績評価が不合格となります。十分に注意してください。

1 8．特修プログラムについて

特修プログラムについて

1. 放射線科学専修プログラム

本プログラムは、原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したものです。このプログラムでは「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位取得を課しています。プログラムに参加する場合には1年次末に登録届けを提出してください。登録期日等については共生の科学Ⅱで案内します。

プログラム習得に必要な単位を修得することにより、「放射線科学専修プログラム修了」の認定を受けることができます。「第2種放射線取扱主任者」資格レベルの基礎を養うことを目的としており、3年次以降に同資格試験を受験することを推奨しています。そのため、プログラム参加者には正規の授業科目以外にも実力を養成するための研修会などを機会に応じて呼びかけます。また、より高度な「第1種放射線取扱主任者」資格に挑戦したい場合には別途に演習指導を行います。

放射線科学専修プログラム 履修基準

	授業科目名	セメスター	単位数	履修方法	必要単位数	備考
専門基礎(必修)	数学Ⅰ(解析学)	1	2	必修	16	
	物理学Ⅰ(力学)	1	2	必修		
	化学Ⅰ	1	2	必修		
	生物学	1	2	必修		
	地球科学	1	2	必修		
	数学Ⅲ(統計学)	2	2	必修		
	物理学Ⅱ(電磁気学)	2	2	必修		
	化学Ⅱ	2	2	必修		
専門(必修)	分析化学	3	2	必修	8	
	量子力学	4	2	必修		
	保全遺伝学	4	2	必修		
	放射線科学	5	2	必修		
専門(選択)	環境衛生科学	3	2	選択	6	
	物理学実験	3	2	選択		*1
	化学実験Ⅰ	3	2	選択		*1
	計測工学	4	2	選択		
	機器分析	4	2	選択		
合 計					30	

*1：本プログラム参加者は所属するコースの実践科目でなくても履修可能（人数制限有）

2. 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラム

1. プログラムの概要

地域で活躍する理科の先生には、科学および技術に対する幅広く深い理解と理科教育に対する理解を基にした実践力はもちろんのこと、地域が持つ自然・歴史・文化・社会などの特徴に目を向け、地域の文脈に沿った科学的教育活動を支える力が求められます。

本プログラムでは、自然環境を土台としつつ多様な視点で地域を捉え、地域素材を用いた教材開発の手法や指導法をプロジェクト学習や問題解決型学習などを通じて学びます。また、小・中学校における経験を通じて子どもが持つ考え方や問題意識を学ぶほか、科学館等の施設における経験を通じて、子どもと保護者、地域における科学活動に対する理解を深めます。加えて、「地域を理解し教材とする力」、「子どもを理解する力」、「学びを支え続ける力」を意識し、省察的に自身の取り組みを見つめることで、地域の理科の先生に必要とされる資質・能力の総合的な修得を目指します。

2. プログラムの特徴

コア科目を中心に、基礎科目、観察・実験科目、AL 演習科目、指導法科目の計 5 科目群で構成されます。それぞれの科目群は、以下のような特徴を持っています。

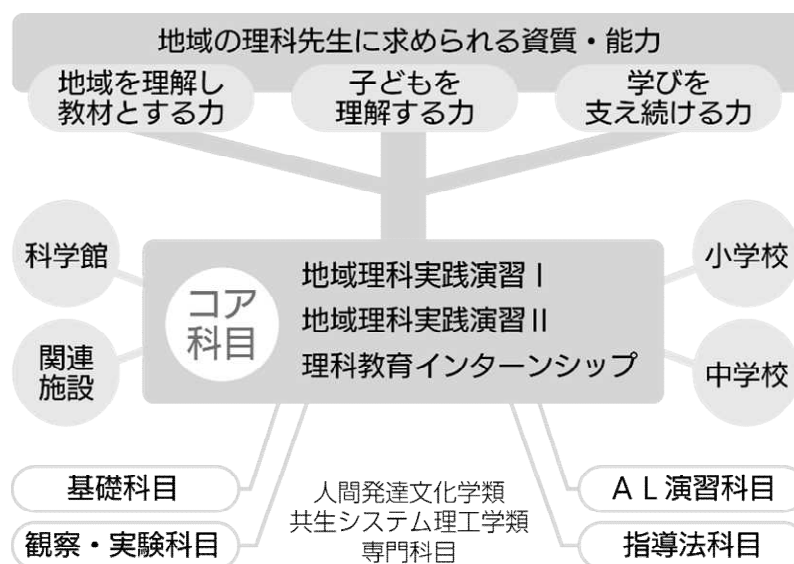


図 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラムのカリキュラム概念

(1) コア科目

福島大学が掲げる教育理念における「世界を見据えた演繹的な学び」と「福島にねざした帰納的な学び」の往還を進めるための科目です。体系的でグローバルな意味合いを持つ科学に関する知識・技能を、子どもの見方・考え方に合わせて地域の自然や文化を教材化し、地域課題の解決にいざなうための資質を養います。

「地域理科実践演習Ⅰ」では、地域や身近な自然事象を教材化する際に必要となる基礎的な考え方と、子どもの理解と学びを支えるために必要となる理論の基礎的理解を進めます。

「地域理科実践演習Ⅱ」では、対象地域でのフィールドワークや学校現場への参加を通じて経験を基にした学びを深め、理論と実践の往還を進めていきます。

プレ教育実習の位置づけとなる「理科教育インターンシップ」では、小・中学校インター

ンシップ（70 時間）と、科学館インターンシップ（20 時間）を経験することで、実践上の課題を把握し教育実習に向けた自己課題を整理していきます。

この科目群では、いずれもアクティブ・ラーニング型で授業を進め、チームによるプロジェクト型の学びと、個人および小グループによる問題解決型の学びを組み合わせしていきます。受講に際しては、他の科目群の科目における学びに課題意識を持ち、理科を専門とする教員としての学んでいく基本を確立していく必要があります。主体的な取り組みが必要とされることはもちろんのこと、対話や協働による学びの意味を考えて学びを深めていく努力が望まれます。

(2) 基礎科目

物理・化学・生物・地学に関する基本的な講義科目です。教員として必要とされる自然科学の体系的な理解を深めます。この科目群の受講に際しては、地域の自然事象や日常生活における身近な事象を教材化する場面への応用を意識し、どのように関連付けるかを意識することが望まれます。

(3) 観察・実験科目

小学校理科の物質・エネルギー領域、生命・地球領域に関する観察・実験への理解を深める科目と、中学校理科における観察・実験の基礎的および原理的な理解を深める科目で構成され、自然事象と向き合うための基礎的な知識・技能を修得します。この科目群の受講に際しては、基礎科目と同様に教材化へ向けた応用の意識と、小・中学校における観察・実験などの場面を想定し、必要となる器具操作の技能や安全対策への意識を持つことが望まれます

(4) AL 演習科目

小学校・中学校理科で取り扱う教科内容を意識した、AL（アクティブ・ラーニング）を主体とする演習科目です。物理・化学・生物・地学各領域の特徴を意識しながら、小学校理科における問題解決、中学校理科における探究過程のあり方について学びを深め、児童生徒と一緒に学びを深めていくための手法を修得します。この科目群は、小・中学校で求められる、主体的・対話的で深い学びを意識して授業を展開します。受講に際しては、どのような工夫を行っているか意識し、自身も活用することを意識することが望まれます。

(5) 指導法科目

小学校及び中学校・高等学校（理科）の免許取得に必要となる科目です。この中では、模擬授業などを通じて指導に関する基礎的な知識・技能を修得するほか、学習科学など理論の観点からどのような指導が望ましいかを検討していきます。この科目群の受講に際しては、子どもの自然事象に対する考え方を意識し、日常生活で見られる自然事象において疑問や課題意識がどのような場面で見られそうかを意識することが望まれます。

3. 対象者

人間発達文化学類 または 共生システム理工学類 に所属し、小学校 1 種教員免許状、中学校 1 種教員免許状（理科）、高等学校 1 種教員免許状（理科）のうち 1 種類以上の取得を希望する者とします。

加えて、4. 履修モデルよりいずれか 1 つを選択し、その条件を満たすことが必要です。

4. 履修モデル

本プログラムでは、取得を希望する免許種や関心に合わせ、以下に示す 3 つの履修モデルを用意しています。プログラム開始時に履修モデルを決定しますが、取得予定の免許種に変更が生じた場合は途中で変更することが可能です。

モデル A 理科に強い小学校教員モデル — 人間発達文化学類生 対象

- ・ 小学校教員を主免許として登録（予定）の者で、理科に強い教員を目指している

モデル B 中学校理科との接続に関心が強い小学校教員モデル — 人間発達文化学類生 対象

- ・ 小学校教員を主免許として登録（予定）の者で、小学校理科と中学校理科の接続に強い関心をもつ教員を目指している

モデル C 中学校理科に関心が強い教員モデル — 共生システム理工学類生 対象

- ・ 中学校教員（理科）または高等学校教員（理科）を主免許として登録（予定）の者で、中学校理科と高等学校理科の接続に強い関心をもつ教員を目指している

5. プログラムの履修開始

コア科目「地域理科実践演習Ⅰ」第 1 回目のガイダンスにおいて履修モデルを選択し、履修登録を済ませることでプログラムの履修開始となります。

なお、受講希望者が多数となった場合は、受講調整を行うことがあります。

6. プログラム履修基準

基盤教育 4 単位、専門教育 26 単位、計 30 単位の修得が必要です。

コア科目 6 単位は必修科目となります。コア科目のうち理科教育インターンシップは、地域理科実践演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者が受講可能です。

基礎科目、観察・実験科目、AL 演習科目、指導法科目は一部必修または選択となります。履修モデルごとに必要修得単位数が異なりますので、履修基準表（次ページ）にしたがって科目を履修してください。

7. プログラム修了認定

各履修モデルに沿った教員免許状を取得（見込みを含む）し、履修基準の修得単位を満たした者をプログラム修了者と認定します。

地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラム 履修基準

領域 区分	科目区分		授業科目名	開講学類	セメスター	1科目 単位数	履修モデル別 修得単位数		
							A	B	C
基盤 教育	問題 探究 領域	問題探究 科目	問題探究セミナーⅠ	各学類	2	2	2		
			ふくしま未来学入門Ⅰ		1	2	2		
			ふくしま未来学入門Ⅱ		2	2			
		自主学修プログラム				1～	1～		
専門 教育	問題探究科目		問題探究セミナーⅡ	各学類	3	2	2		
	学類専門科目	コア 科目	地域理科実践演習Ⅰ	人間発達	1	2	2		
			地域理科実践演習Ⅱ	人間発達	集中 1・2	2	2		
			理科教育インターンシップ	人間発達	集中 3・4	2	2		
		基礎 科目	物理学Ⅰ（力学）	理工	1	2	4	6	
			物理学Ⅱ（電磁気学）	理工	2	2			
			化学Ⅰ	理工	1	2			
			化学Ⅱ	理工	2	2			
			生物学	理工	1	2			
			生態学基礎	理工	3	2			
			地質学概論	理工	3	2			
			気象学	理工	3	2			
		観察・ 実験 科目	子どもと自然	人間発達	2	2	2	8	
			理科の実験指導	人間発達	4	2	2		
			物理学実験 ※	理工	3	2			2
			化学実験Ⅰ ※	理工	3	2			2
			保全生物学実験 ※	理工	5	2			2
			地球環境科学実験 ※	理工	4	2			2
		A.L 演習 科目	物理科学Ⅰ	人間発達	3	2	8	2	2
			物理科学Ⅱ	人間発達	3	2			
			物質化学Ⅰ	人間発達	4	2			
			物質化学Ⅱ	人間発達	4	2			
			生命環境の科学Ⅰ	人間発達	3	2			
			生命環境の科学Ⅱ	人間発達	3	2			
			地球惑星の科学Ⅰ	人間発達	4	2			
			地球惑星の科学Ⅱ	人間発達	4	2			
		指導法 科目	理科学習指導論	人間発達	3	2	2	2	
			理科教育法Ⅰ ※	理工	4	2			2
			理科教育法Ⅱ ※	理工	5	2			
			理科教育法Ⅲ ※	理工	6	2			
			理科教育法Ⅳ ※	理工	4	2			
							2		
計							30	30	30

※印の科目は、中学校1種免許（理科）又は高等学校1種免許（理科）の教職登録者のみ履修可能です。

1 9．免許・資格の取得について

免許・資格の取得について

1. 教育職員免許状

共生システム理工学類の学生は、卒業要件に定められた単位の他に、教育職員免許法（以下「免許法」という。）及び免許法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた、教育職員免許状（以下「免許状」という。）を取得するのに必要な単位等を修得することにより、下記の免許状の取得資格を得ることができます。この際、本来の学類の学習がおろそかにならないように注意しなければなりません。また、単に資格取得だけを目的とするような安易な動機で免許状の取得に臨むのは避けてください。

○主に共生システム理工学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭1種免許状（理科）、高等学校教諭1種免許状（理科）、
中学校教諭1種免許状（技術）、高等学校教諭1種免許状（工業）、
高等学校教諭1種免許状（情報）

○人間発達文化学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭1種免許状（数学）、高等学校教諭1種免許状（数学）

1. 教育職員免許状取得のための履修基準

免許状取得にあたって単位修得しなければならない科目は、免許法及び施行規則により定められ、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」及び「文部科学省令で定める科目」の6種類からなります。

このうち、「文部科学省令で定める科目」については、下記のとおりです。

文部科学省令で定める科目	対応授業科目	必要単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2 単位	
体育	健康運動科学実習	1 単位	2 単位
	スポーツ実習	1 単位	
外国語コミュニケーション	英語AⅠ又は英語AⅡから1 科目で	2 単位	
情報機器の操作	情報リテラシー	2 単位	

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の科目についての履修方法の基準は以下に記載しています。

（「理科」、「技術」、「工業」及び「情報」の免許状についてのみ）

▽「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の履修方法の基準・・・表1

▽「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」の履修方法の基準

▼中学校1種免許（理科）、高等学校1種免許（理科）・・・表2

▼中学校1種免許（技術）・・・表3

▼高等学校1種免許（工業）・・・表3

▼高等学校1種免許（情報）・・・表4

「数学」の免許状については、人間発達文化学類の履修方法の基準を参照するとともに、一部基準が異なる部分等についても注意を払う必要があります。

また、中学校の免許状を取得しようとする場合は「介護等体験」を行わなければなりません。介護等体験については下記の「8. 介護等体験について」を読んでください。

2. 教育職員免許状取得希望者の登録について

- （1）免許状取得希望者（1年次生）を対象として8月と12月頃に説明会を行いますので希望者は両方の説明会に必ず出席してください。この説明会では、免許状取得に必要な科目の履修方法、各種手続きに関する重要な説明を行います。説明会に出席しない場合には、免許状取得希望者としての登録ができなくなる場合がありますので注意してください。
- （2）免許状取得希望者の募集は1年次生を対象に2月に行います。この手続きによって、免許種ごとに免許状取得希望者として登録され、2年次以後の教職関連科目の履修が許可されます。一人が複数の教科の免許状取得を希望することも可能です。
- （3）免許状取得登録後、免許状取得を放棄することになった場合は、その時点で速やかに教務課の担当窓口に出して、「放棄届」を提出してください。

3. 教職関係の各種行事・手続き日程について

原則として下記の日程で行う予定です。詳細は後日掲示によりお知らせします。

対象学年	期 間	内 容
1年	8月頃 12月頃 2月初旬	免許状取得に関する説明会（第1回） 免許状取得に関する説明会（第2回） 免許状取得希望登録
2年	4月中旬 1月 3月 (実施日未定)	免許状取得希望登録者説明会 教育実習参加希望者への説明会 教職担当教員との面談 学校参観説明会 学校参観
3年	4月 10月～ 3月 3月	出身校実習内諾報告書の提出 介護等体験参加（中学校免許種のみ） 模擬授業参観 教職担当教員との面談 実習希望者が実習参加資格確認
4年	4月～5月 5月頃又は9月頃 7月～12月 10月～1月 2月～3月 学位記授与式	教育実習事前指導 介護等体験参加（中学校免許種のみ） 教育実習 教育実習事後指導 教職実践演習 教職担当教員との面談 教員免許状授与

4. 「教職履修カルテ」の活用について

免許状取得を希望する学生は、「教職履修カルテ」を使用することとなります。このカルテは、免許状を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位取得後に確認したり、教育実習等の事前事後指導に活用して免許状取得のために活用するものです。

免許状取得を希望する学生は、年度末にその年度の履修内容を「教職履修カルテ」として整理し、教職担当教員との面談を実施します。これは4年時後期に開講される「教職実践演習」履修の条件となります。なお、「教職履修カルテ」はふりかえりを目的としており、「教職実践演習」等の評価と連動することはありません。

「教職履修カルテ」は記入後、教務課へ提出してもらいますが、次の学期の始めには学生に返却します。4年間使用するものなので大切に保管してください。（カルテの活用等については、ガイダンス等で説明します。）

5. 必修科目「教職実践演習」の受講について

免許状取得のためには8セメスター（4年次後期）に、必修科目「教職実践演習」を受講しなければなりません。この授業では、4年次前期までに履修してきた免許状取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ、教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。

就職活動等での欠席も原則として認められません。この授業の単位を取得できないと、たとえ教員採用試験に合格しても免許状取得ができない場合もありますので、しっかりとした目的をもってこの授業に臨んでください。

6. 教育実習について

- (1) 免許状を取得するためには、各種免許状の種類に応じた教育実習に参加し、所定の単位を修得しなければなりません。なお、教育実習に必要な費用に関しては、履修者が負担するので、説明会での諸指示等に注意してください。
- (2) 教育実習は、免許状取得登録者で教育実習参加資格（下記 7. 参照）等の条件を満たした者に対して履修を許可しますが、その場合、以下の点に留意してください。
 - ① 教育実習への参加は、原則として教員になる意思のある者に限り認めるものです。
 - ② 教育実習に際しては、教員にふさわしい人格的資質、言動が要求されます。そのためには、日頃の心がけ、努力が必要です。
 - ③ 教育実習の単位は、事前・事後指導（4年次）を含めて5単位（高等学校免許種は3単位）として認定されます。したがって、実習校での教育実習の他に、「事前指導」及び「事後指導」への参加が義務付けられています。「事前指導」には2年次実施の「学校参観」や3年次実施の「模擬授業参観」も含まれます。「事前指導」及び「事後指導」を無断欠席した場合、教育実習の単位が修得できなくなることもありますので、そのようなことがないように十分注意してください。
 - ④ 指示事項はすべて掲示及びLiveCampusにより掲載しますので、十分注意してください。
 - ⑤ 「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。
- (3) 教育実習校及び教育実習期間

中学校免許種の教育実習については、4年次に、原則として附属中学校又は出身中学校で行われます。また、高等学校免許種の教育実習については、4年次に、原則として出身高等学校で行われます。なお、期間は中学校1種免許の教科は4週間、高等学校1種免許のみの教科は2週間となっています。

7. 教育実習参加資格について

教育実習に参加するには、教育実習参加の前年度までに、以下に示す条件をすべて満たしていることが必要です。

- (1) 「教職入門」、「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」、教育実習を行う教科の教育法Ⅰ、教育法Ⅱ（中学校免許種のみ）、及び教育法Ⅳの単位を修得していること。
- (2) 教育実習を行う教科の「教科及び教科の指導法に関する科目のうち教科に関する専門的事項」の必修科目の内、3分の2を超える科目を修得していること。

※「数学」免許種で教育実習を受ける場合は、人間発達文化学類の学修案内も参照してください。

※「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

8. 介護等体験について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、平成10年4月に施行されたことに伴い、平成10年度から、小学校及び中学校の免許状取得を希望する者については、特別支援学校及び社会福祉施設等での7日間の介護等体験が義務付けられました。これらのいずれの体験にあたって、中学校の免許状取得を希望する者は、本学類において事前指導を受け、体験希望者名簿に登録されることが必要になります。以下に示す(1)、(2)の両方の介護等体験を行ってください。

- (1) 社会福祉施設等での介護等体験：3年次に福島県下の社会福祉施設等において実施します。
- (2) 特別支援学校での介護等体験：4年次に福島県下の特別支援学校において実施します。

なお、詳しくは事前にガイダンスを行いますので、掲示及びLiveCampusに注意してください。

9. 「教育実習又は介護等体験参加時の授業の取り扱い」について

教育実習又は介護等体験のため、それぞれの期間中に開講されている授業科目を欠席する場合、単位認定要件に係る欠席時数として算入しない取り扱いとすることができます。

単位認定要件に係る欠席時数として算入しない取り扱いとするためには、欠席する授業科目の担当教員へ所定の届を提出しなければなりません。教務課に「申請書」がありますので、必要事項を記入し、教務課で承認印を受け、所属研究室の指導教員に申告のうえ、各授業科目の担当者へ提出してください。

表 1

中学校教諭 1 種免許状（理科・技術）、高等学校教諭 1 種免許状（理科・工業・情報）

取得のための履修基準

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	履修 年次	中学校 1 種 (理科・技術)	高等学校 1 種 (理科・工業・情報)
教科及び教科 の指導法に関 する科目	・教科に関する専門的事項	表 2（理科） 表 3（技術・工業） 表 4（情報）				
	・教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
	・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	理科教育法Ⅰ	2	2	理科必修 (他の教科は×)	理科必修 (他の教科は×)
		理科教育法Ⅱ	2	3	理科必修 (他の教科は×)	※ 1
		理科教育法Ⅲ	2	3	理科必修 (他の教科は×)	※ 1
		理科教育法Ⅳ	2	2	理科必修 (他の教科は×)	理科必修 (他の教科は×)
		技術科教育法Ⅰ	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		技術科教育法Ⅱ	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		技術科教育法Ⅲ	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		技術科教育法Ⅳ	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		工業科教育法Ⅰ	2	2	×	工業必修 (他の教科は×)
		工業科教育法Ⅱ	2	2	×	工業必修 (他の教科は×)
		情報科教育法Ⅰ	2	3	×	情報必修 (他の教科は×)
		情報科教育法Ⅱ	2	3	×	情報必修 (他の教科は×)
教育の基礎的 理解に関する 科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	人間と教育	2	2	必修	必修
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2	2	必修	必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育と社会	2	3	必修	必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育発達心理学	2	2	必修	必修
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育基礎	2	2	必修	必修
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	履修 年次	中学校1種 (理科・技術)	高等学校1種 (理科・工業・情報)
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳指導論	2	3	必修	※2
	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	2	必修	必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 【・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む】	教育の方法	2	2	必修	必修
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生活指導論	2	3	必修	必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の基礎（中学校・高等学校に焦点づけて）	2	3	必修	必修
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後指導	1	4	必修	必修
		教育実習(中学校)	4	4	必修	} 2単位 ※3
		教育実習(高等学校)	2	4	×	
	学校体験活動					
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	4	必修	必修

×印…指定の免許以外には使えない科目

※1 高校1種免許（理科）の場合のみ「各教科の指導法」の単位にあてることができる。

※2 高校1種免許「大学が独自に設定する科目」の単位にあてることができる。

※3 高等学校免許種のみ取得の場合は、教育実習（高等学校）が必修。中学校免許種と高等学校免許種の両方を取得する場合は、教育実習（中学校）を取得し、2単位を高等学校免許種の教育実習の単位にあてることができる。

表2

中学校教諭1種免許状（理科）、高等学校教諭1種免許状（理科）取得のための
教科に関する専門的事項の履修方法の基準

教科に関する専門的事項の履修方法の概要							
	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	中学校1種 (数字は必要単位数)	高等学校1種 (数字は必要単位数)	
教科に関する専門的事項	物理学	物理学Ⅰ（力学）	2	1	必修	4	必修
		物理学Ⅱ（電磁気学）	2	1	必修		必修
		熱力学	2	2			必修
		量子力学	2	2			
		流体力学	2	3			
		統計力学	2	3			
	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	2	2	必修		必修
	化学	化学Ⅰ	2	1	必修		必修
		化学Ⅱ	2	1	必修		必修
		物理化学	2	2			必修
		基礎有機化学	2	2			
		基礎無機化学	2	2			
		分析化学	2	2			
	化学実験（コンピュータ活用を含む。）	化学実験Ⅰ（コンピュータ活用を含む。）	2	2	必修		必修
	生物学	生物学	2	1	必修		必修
		生態学基礎	2	2	必修		必修
		生物多様性概論	2	2			必修
		森林生態学	2	3			
		生命環境の科学Ⅰ	2	3			
		生命環境の科学Ⅱ	2	3			
		基礎微生物学	2	1			
		土壌生態学	2	3			
	生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	保全生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	2	3	必修		必修
		自然環境調査法	1	2			
		生物多様性保全実習	1	3			
		森林調査法	1	2			
	地学	地質学概論	2	2	必修		必修
		気象学	2	2	必修		必修
水循環システム学概論		2	2		必修		
地球科学		2	1				
地球惑星の科学Ⅰ		2	2				
地球惑星の科学Ⅱ		2	3				
土壌科学		2	2				
水資源利用学		2	2				
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	地球環境科学実験（コンピュータ活用を含む。）	2	2又は3	必修	必修		
	地球環境調査法	1	3				
合 計 単 位 数					28	36	

※1 中学校1種免許状（理科）…必修24単位、選択必修4単位、合計28単位修得

※2 高等学校1種免許状（理科）…必修32単位、選択必修4単位、合計36単位修得

表3

中学校教諭1種免許状（技術）、高等学校教諭1種免許状（工業）取得のための
教科に関する専門的事項の履修方法の基準

	施行規則科目 (技術)	施行規則科目 (工業)	授業科目	単位数	履修 年次	中学校1種 (数字は必要単位数)	高等学校1種 (数字は必要単位数)
教科 に 関 す る 専 門 的 事 項	木材加工 (製図及び実 習を含む。)	工業の 関係科目	木材加工学概論及び実習 (実習を含む。)	2	2	必修	必修
			CAD／CAM演習(製 図及び実習を含む。)	2	3	必修	必修
	金属加工 (製図及び実 習を含む。)		材料工学	2	2	必修	必修
			機械材料・加工学(製図 及び実習を含む。)	2	2	必修	必修
	機械 (実習を含 む。)		機構学(実習を含む。)	2	2	必修	必修
			機械・電気工学実験(実 習を含む。)	2	2	必修	必修
	電気 (実習を含 む。)		人間工学	2	2		
			電気回路(実習を含 む。)	2	2	必修	必修
			電子回路(実習を含 む。)	2	2		
			パワーエレクトロニクス (実習を含む。)	2	3		
	栽培(実習を 含む。)		栽培学概論及び実習 (実習を含む。)	2	1	必修	×
	情報とコ ンピュータ (実習を含 む。)	工業の 関係科目	デジタル信号処理(実習 を含む。)	2	3	必修	必修
			生体工学実験 (実習を含む。)	2	3	必修	必修
	高分子化学		2	3	×		
	医用福祉工学		2	3	×		
	基礎物性物理		2	2	×		
	資源・エネルギー工学		2	2	×		
制御工学	2		2	×			
環境衛生科学	2		2	×			
計測工学	2		2	×			
	職業指導	職業指導	2	2	×	必修	
合 計 単 位 数						24	34

※1 ×印…該当欄の免許には使えない科目

※2 中学校1種免許状（技術）…必修20単位、選択4単位、合計24単位修得

※3 高等学校1種免許状（工業）…必修20単位、選択必修14単位、合計34単位修得

表 4

高等学校教諭 1 種免許状（情報）取得のための教科に関する専門的事項の履修
方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修 年次	高等学校 1 種 (数字は必要単位数)	
教 科 に 関 す る 専 門 的 事 項	情報社会・ 情報倫理	情報社会と情報倫理	2	2	必修	必修以外 の科目 から 18単位 選択
		知的財産権論	2	4		
	コンピュータ・ 情報処理 (実習を含む。)	情報科学概論（実習を含む。）	2	2	必修	
		プログラミング基礎（実習を含 む。）	2	1	必修	
		プログラミングⅠ（実習を含む。）	2	2		
		プログラミングⅡ（実習を含む。）	2	2		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ（実 習を含む。）	2	2		
		形式言語とコンパイラ（実習を含 む。）	2	3		
	情報システム (実習を含む。)	ソフトウェア設計開発論（実習を 含む。）	2	2	必修	
		プログラミング言語論（実習を含 む。）	2	3		
		データベースシステム（実習を含 む。）	2	2		
		人工知能と知識処理（実習を含 む。）	2	3		
		経営情報システム（実習を含 む。）	2	3		
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	ネットワークシステム（実習を含 む。）	2	3	必修	
		情報理論	2	3		
	マルチメディア表現 ・マルチメディア技術 (実習を含む。)	マルチメディアシステム論（実習 を含む。）	2	3	必修	
		サウンドスケープ	2	3		
	情報と職業	情報と職業	2	3	必修	
合 計 単 位 数					32	

※高等学校 1 種免許状（情報）…必修 14 単位、選択必修 18 単位、合計 32 単位修得

2. 学芸員資格

共生システム理工学類の学生は、卒業要件に定められた単位の他に、博物館法及び博物館法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた単位等を習得することにより学芸員資格を得ることができます。学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究、およびこれらと関連する事業についての専門的事項をつかさどる専門職員です。博物館法上の博物館には、資料館、科学館、動物園・植物園、水族館、郷土館、美術館なども含みます。これらの単位を修得する際は、学類の本来の学習がおろそかにならないように注意して下さい。また、時間割の都合で、4 年間では教員免許などの他の資格を同時に取得できないことがあります。

1. 学芸員資格取得のための履修基準

施行規則により定められている、学芸員資格取得にあたって単位修得しなければならない科目は以下の通りです。

博物館法施行規則に定められた科目		現在の開講科目	単位数	履修年次	区分
必修	生涯学習論	生涯学習社会と学校・家庭・地域	2	2	必修
	博物館概論	博物館学概論	2	2	必修
	博物館経営論	博物館経営論	2	2	必修
	博物館資料論	博物館資料論	2	2	必修
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2	必修
	博物館展示論	博物館展示論	2	2	必修
	博物館教育論	博物館教育論	2	2	必修
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2	必修
	博物館実習	博物館実習（自然科学系）	3	3	必修

※上記の学芸員資格取得のための科目は、学芸員資格取得希望者のみ受講可となります。

※「生涯学習社会と学校・家庭・地域」最大受け入れ人数は10名とします。履修登録期間中に教務課窓口で履修登録申請の手続きをして下さい。

2. 資格取得希望者の登録

（1）資格取得希望者（1 年次生。2 年次生以上も可能）を対象に、12 月頃に説明会を行います。その後 1～2 月頃にある学芸員資格取得希望登録期間に登録をして下さい。

（2）2 年次の 12 月頃に博物館実習のガイダンスを行います（3 年次生以上も参加可能）。資格取得希望者は必ず出席して下さい。

3. 博物館実習

(1) 博物館実習は 2 週間程度の「学内実習」および 1 週間程度の「館園実習」からなります。「学内実習」では博物館実習の最初と最後に行う「実習事前指導」「実習事後指導」、博物館等を見学する「見学実習」、学内の資料整理等を行う「実務実習」、「館園実習」の前後に行う「館園実習事前指導」「館園実習事後指導」を行います。「館園実習」では博物館等において、学芸員の業務と博物館運営を体験します。

(2) 博物館実習は、施行規則に定められたその他の必修科目 4 単位以上を修得していないと参加できません。

(3) 博物館実習にかかる経費は、学生が負担することになります。

4. 学芸員資格証明書の発行について

施行規則に定められた所定科目の単位を修得した学生には、卒業時に「学芸員資格証明書」を発行します。「資格取得見込み証明書」等が必要な場合は、教務窓口で相談して下さい。

5. 必要な単位を満たせなかった場合について

卒業までに学芸員資格を得るのに必要な単位を満たすことができなかった場合も、次のいずれかの方法で学芸員資格を取得することが可能です。

- (1) 科目等履修生として不足単位を修得する
- (2) 学芸員資格認定試験を受験し、合格する

3. 公認心理師受験資格（人間発達文化学類・共生システム理工学類共通事項）

公認心理師の受験資格を得るためには、公認心理師法（平成27年法律第68号）及び同法施行規則（平成29年度文部科学省・厚生労働省令第3号）に定める必要な科目の単位（学類25科目）を修めて卒業し、かつ大学院において必要な科目の単位（10科目）を修得もしくは公認心理師法施行規則第5条で定める施設において2年以上の実務経験に従事することが求められます。受験資格を得ると直近に実施される公認心理師試験を受験することができます。

人間発達文化学類 心理学・幼児教育コースまたは共生システム理工学類 心理・生理コースに所属し、受験資格を得ようとする者は、次の公認心理師カリキュラムの履修基準に従い、24科目48単位を修得したうえで、心理実習2単位（80時間以上）を修得しなければなりません。

1) 公認心理師カリキュラム受講者の受け入れについて

公認心理師カリキュラムで学ぶことができるのは、人間発達文化学類 心理学・幼児教育コースの学生および共生システム理工学類 心理・生理コースの学生です。科目受講者数には明確な人数制限はありません。ただし、「心理実習」に参加できる人数は10名程度とし、学生の適性や成績等により選定することがあります。

なお、公認心理師カリキュラムを履修する学生は、教員免許や保育士資格等他の免許資格を同時に取得することはできません。

また、公認心理師カリキュラム履修希望者は、「心理学的支援法」の受講時に希望届を提出する必要があります。

2) 履修基準

公認心理師の受験資格を得るために修得しなければならない単位は、下記の表のとおりとなります。

No	科目名	開講形態	単位数
1	公認心理師の職責	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
2	心理学概論	共生システム理工学類専門科目 (人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可)	2
3	教育相談の心理（臨床心理学概論）	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
4	心理学研究法	共生システム理工学類専門科目 (人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可)	2
5	心理学統計法	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2

6	心理学実験	人間発達文化学類専門科目	2
	生体システム実験（心理学実験）	共生システム理工学類専門科目	
7	知覚・認知心理学Ⅰ	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
	知覚・認知心理学Ⅱ	人間発達文化学類専門科目	
8	基礎心理学Ⅰ（学習・言語心理学）	共生システム理工学類専門科目 （人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可）	2
9	感情・人格心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
10	神経・生理心理学Ⅰ	人間発達文化学類専門科目	2
	基礎心理学Ⅱ（神経・生理心理学）	共生システム理工学類専門科目 （人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可）	
11	社会・集団・家族心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
12	発達心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
13	障害者・障害児心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
14	心理的アセスメント	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
15	心理学的支援法	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
16	健康・医療心理学	人間発達文化学類専門科目	2
17	福祉心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
18	教育・学校心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
19	司法・犯罪心理学	人間発達文化学類専門科目 （理：心理・生理コースの学生のみ履修可）	2
20	産業・組織心理学	人間発達文化学類専門科目	2
21	人体の構造と機能及び疾病 （医学概論）	基盤教育科目	2

21	人体の構造と機能及び疾病 (医学概論)	基盤教育科目	2
22	精神疾患とその治療	基盤教育科目	2
23	関係行政論	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
24	心理演習 (注)	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可) 「公認心理師の職責」・「関係行政論」・「心理学的支援法」の単位を修得した者のみ履修可	2
25	心理実習 (80時間以上) (保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野における見学実習) (注)	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可) 心理演習の単位を修得した上で、実習参加可とされた者が履修可	2

注) 心理実習については、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行いながら、実習指導者又は実習担当者による指導を受けること。

3) 心理演習および心理実習の受講について

心理実習の履修は心理演習の単位を修得した上で、実習参加が可とされた者となります。また心理演習の履修についても、制限があります。

4) 公認心理師カリキュラムの履修希望者は、入学後のガイダンスに必ず参加してください。そこでカリキュラム等の説明をします。

20. カリキュラム・ポリシー、 カリキュラム・マップ

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ

1. カリキュラム・ポリシー

【カリキュラム・ポリシー(教育課程の編制方針)】

共生システム理工学類では、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」を養うため、1年次には基盤教育と併せて学類共通領域科目を履修させ、2年次よりコースを選択させてコース領域科目を履修させます。3年次後期に研究室に配属し、必修として演習と卒業研究を履修させます。卒業研究により、専門性を確かなものとし、立案決定力や実践力を養成します。学問領域や文系理系の枠を超えた幅広い自由な学びを保障するため、自由選択領域を設けます。

I. 専門力を養うカリキュラム

1年次に数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工系の基礎科目を配置するとともに、「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システムの捉える力を養成します。2年次より専門領域を意識したコースを選択させます。各コースでは、それぞれの専門領域に関する専門的な科目を積み上げると共に、現代社会の諸課題を多面的に見つめるための科目を設定し、幅広さと専門性を両立させるカリキュラムを構成します。研究倫理・技術者倫理などを養成するために、3年次にも「共生の科学」を配置します。

II. 決定力を養うカリキュラム

1年次の基盤教育から卒業研究発表まで、多くのプレゼンテーションの場を用意し、表現力および情報発信能力を養成します。各種の実践科目ではグループワーク・グループ討議により、討議を行なう力を養成します。必修である卒業研究では、自ら設定した課題に対して解決する手法を立案して実践するような指導を行ない、専門性を向上させ立案決定力を養成します。

III. 実践力を養うカリキュラム

課題解決を志向した講義科目や実践科目を各コースに配置し、社会での実践の必要性を伝えます。国際経験豊かな教員による講義や演習を中心に、グローバルな視点を伝授します。各コースで行なう実践科目により、講義で得た知識を体験により習熟させるとともに、自主的・主体的に実践する力を養います。

IV. 貢献力を養うカリキュラム

「共生の科学」を始めとする様々な科目で社会に貢献することの重要性を伝えます。各コースに「問題探求演習 II」を設け、課題解決に向けて貢献する力を養成します。地域に密着した大学として、震災からの復興・過疎化や少子高齢化への対応・産業の育成などに貢献している研究室が多数あり、地域の諸団体との交流も盛んです。学生がこれらの活動に直接的・間接的に関与することにより、地域課題に貢献する意欲と力が養成されます。

共生システム理工学類 数理・情報科学コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ		<凡例> : 必修科目 : 選択必修科目 : 学群・学類共通領域 : コース領域 (必修科目) : コース領域 (選択必修科目) : コース領域 (実践科目) : 演習・卒業研究	
数学Ⅰ (解析学)	数理科学系 科目	基礎解析学Ⅰ	★基礎解析学Ⅱ	基礎解析学Ⅲ			
			解析学Ⅰ	解析学Ⅱ			
数学Ⅱ (線形代数)		線形写像と幾何Ⅰ	★線形写像と幾何Ⅱ				
		集合と位相Ⅰ	★集合と位相Ⅱ				
		離散数学		★応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ		
				数理・情報学ゼミⅠ	数理・情報学ゼミⅡ		
	情報科学系 科目		課題探求セミナーⅡ		演習Ⅰ	演習Ⅱ	
		情報科学概論	★プログラミング言語論	★マルチメディアシステム論	人工知能と知識処理	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
		計算機システム論		★ネットワークシステム	情報理論		
		★情報社会と情報倫理					
	情報科学 実践系科目		★ソフトウェア設計開発論	★形式言語とコンパイラ			
			データベースシステム				
			アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ			
		プログラミング基礎	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	プログラミングⅢ	応用情報学演習	
		数理モデリング	オペレーションズ・リサーチ		関連領域 科目		
	数学Ⅲ (統計学)	経営のデータ科学		経営情報システム			
		経営工学					
			人間工学	デジタル信号処理			
物理学Ⅰ (力学)	物理学Ⅱ (電磁気学)						
化学Ⅰ	化学Ⅱ						
生物学							
地球科学							
			教員免許 科目	＊情報科教育法Ⅰ			
				＊情報科教育法Ⅱ			

共生システム理工学類 経営システムコース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ		<凡例> 必修科目 選択必修科目 学群・学類共通領域 コース領域 (必修科目) コース領域 (選択必修科目) コース領域 (実践科目) 演習・卒業研究	
数学Ⅰ (解析学)		離散数学		応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ		
数学Ⅱ (線形代数学)	数学Ⅲ (確率統計学)	数理モデリング					
		基礎解析学Ⅰ	基礎解析学Ⅱ	基礎解析学Ⅲ			
		入門統計学	統計学概論				
物理学Ⅰ (力学)	物理学Ⅱ (電磁気学)		生物・地球環境システム概論				
化学Ⅰ	化学Ⅱ						
生物学							
地球科学							
	プログラミング基礎	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	プログラミングⅢ			
		★情報科学概論	データベースシステム		人工知能と知識処理		
			アルゴリズムとデータ構造Ⅰ				
			ソフトウェア設計開発論				
		経営システム概論	経営システム演習Ⅰ	経営システム演習Ⅱ	演習Ⅰ	演習Ⅱ	
		経営工学	問題探究セミナーⅡ			卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
		経営のデータ科学	★オペレーションズ・リサーチ	★経営情報システム			
		産業・社会調査法	循環型産業論	★エコロジカル経済学			
		社会調査論	科学技術と環境の倫理学	★環境経済学			
			★基礎経営学Ⅰ	経営情報分析			
			基礎経営学Ⅱ	地域企業経営論			
			★経営戦略論	国際経営論			
		地域と経済		計量経済学			
			製品開発概論	CAD/CAM演習			
		心理学概論	★人間工学			知的財産権論	
		生産管理概論	★品質管理				
		★入門会計学	原価計算Ⅰ	原価計算Ⅱ			
			管理会計	コスト・マネジメント			
		流通管理概論	★サプライチェーン・マネジメント				
			都市計画概論	都市計画論			

共生システム理工学類 物理・システム工学コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ	物理・システム工学演習	問題探究セミナーⅡ	共生の科学Ⅲ	演習Ⅰ	演習Ⅱ	
数学Ⅰ(解析学)						卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
数学Ⅱ(線形代数学)	数学Ⅲ(統計学)	基礎解析学Ⅰ	基礎解析学Ⅱ	基礎解析学Ⅲ			
		線形写像と幾何Ⅰ	線形写像と幾何Ⅱ	解析学Ⅱ	解析学Ⅰ		
物理学Ⅰ(力学)	物理学Ⅱ(電磁気学)	物理学実験	機械・電気工学実験			知的財産権論	
化学Ⅰ	化学Ⅱ	化学実験Ⅰ					
生物学							
地球科学	プログラミング基礎	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ				
		情報科学概論	★アルゴリズムとデータ構造Ⅰ		人工知能と知識処理		
		計算機システム論					
		数理モデリング AB	計測工学 BF	★デジタル信号処理 B			
			制御工学 B				
		基礎物性物理	量子力学 A	★統計力学 A			
		物理化学		放射線科学 A			
		★熱力学 D	機器分析	★流体力学 D			
		材料力学 CD	機械材料・加工学 C	CAD/CAM演習			
		★材料工学 C					
		機構学 D					
		電気回路 E	★電子回路 E	★パワーエレクトロニクス E			
			★人間工学 F	医用福祉工学 F	生体工学実験 F		
		脳神経科学	システム生理学				
		心理学概論	基礎心理学Ⅱ	心理学研究法			
		＊技術科教育法Ⅰ	＊理科教育法Ⅰ	＊理科教育法Ⅱ	＊理科教育法Ⅲ		
		＊技術科教育法Ⅱ	＊理科教育法Ⅳ				
		＊技術科教育法Ⅳ	＊技術科教育法Ⅲ				
		＊工業科教育法Ⅰ	＊工業科教育法Ⅱ				

＜凡例＞

: 必修科目
 : 選択必修科目
 : 学群・学類共通領域
 : コース領域(必修科目)
 : コース領域(選択必修科目)
 : コース領域(実践科目)
 : 演習・卒業研究

推奨される組み合わせ〔◎:必修〕

A: 現代物理

- ◎数理モデリング
- ◎量子力学
- ★統計力学
- ・放射線科学

B: 制御・信号処理

- ◎数理モデリング
- ◎計測工学
- ◎制御工学
- ★デジタル信号処理

C: 機械材料

- ◎材料力学
- ★材料工学
- ・機械材料・加工学

D: 機械

- ◎材料力学
- ◎機構学
- ★流体力学
- ★熱力学

E: 電気

- ◎電気回路
- ★電子回路
- ★パワーエレクトロニクス

F: 生体工学

- ◎計測工学
- ★人間工学
- ・医用福祉工学
- ・生体工学実験

共生システム理工学類 物質科学コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ		<凡例> : 必修科目 : 選択必修科目 : 学群・学類共通領域 : コース領域 (必修科目) : コース領域 (選択必修科目) : コース領域 (実践科目) : 演習・卒業研究	
数学Ⅰ (解析学)							
数学Ⅱ (線形代数学)	数学Ⅲ (確率統計学)	基礎解析学Ⅰ	基礎解析学Ⅱ				
	プログラミング基礎						
物理学Ⅰ (力学)	物理学Ⅱ (電磁気学)	熱力学	量子力学				
		基礎物性物理					
		材料力学	機械材料・加工学	CAD/CAM演習			
		電気回路	電子回路				
		物理学実験					
化学Ⅰ	化学Ⅱ	物理化学	無機化学	放射線科学	演習Ⅰ	演習Ⅱ	
		基礎無機化学	有機化学	★発展無機化学		卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
		基礎有機化学	機器分析	★高分子化学			
		分析化学					
		★材料工学	★化学工学				
		★環境衛生科学	★資源・エネルギー工学	再生可能エネルギーⅠ	再生可能エネルギーⅡ		
			★生化学				
		化学実験Ⅰ	化学実験Ⅱ	化学実験Ⅲ			
			問題探究セミナーⅡ				
生物学		生物多様性概論	生態学基礎				サイエンスライティング演習
地球科学		地質学概論					
		気象学					
			製品開発概論			知的財産権論	
			品質管理				
			循環型産業論				
			理科教育法Ⅰ				
			理科教育法Ⅳ	理科教育法Ⅱ	理科教育法Ⅲ		

コースコア
科目

共生システム理工学類 エネルギーコース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ		<凡例> :必修科目 :選択必修科目 :学群・学類共通領域 :コース領域 (必修科目) :コース領域 (選択必修科目) :コース領域 (実践科目) :演習・卒業研究	
数学Ⅰ (解析学)		基礎解析学Ⅰ			基礎解析学Ⅱ		
数学Ⅱ (線形代数学)	数学Ⅲ (確率統計学)						
	プログラミング基礎						
物理学Ⅰ (力学)	物理学Ⅱ (電磁気学)	基礎物性物理		★流体力学			
		電気回路	計測工学	★パワーエレクトロニクス			
		材料力学	制御工学		放射線科学		
		熱力学					
		物理学実験					
化学Ⅰ	化学Ⅱ	材料工学					
		物理化学					
		分析化学	機器分析	基礎無機化学	無機化学	発展無機化学	
		基礎有機化学	有機化学				
		環境衛生科学	生化学	高分子化学			
		化学実験Ⅰ	化学実験Ⅱ				
生物学			生物・地球環境システム概論		生態学基礎		
			環境保全論				
			環境微生物学				
地球科学		★水循環システム学概論	流域水文学	★気象学			
		地質学概論	地下水盆管理学				
			資源・エネルギー工学	★再生可能エネルギーⅠ	★再生可能エネルギーⅡ		
			化学工学				
		エネルギー資源調査Ⅰ	エネルギー資源調査Ⅱ				
			機械・電気工学実験		演習Ⅰ		
			問題探究セミナーⅡ			演習Ⅱ	
						卒業研究Ⅰ	
		★経営工学	★循環型産業論	エコロジカル経済学			卒業研究Ⅱ
			都市計画概論	★社会計画概論			
				★環境計画論			
			社会計画演習Ⅰ				

共生システム理工学類 生物環境コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ		<凡例> : 必修科目 : 選択必修科目 : 学群・学類共通領域 : コース領域 (必修科目) : コース領域 (選択必修科目) : コース領域 (実践科目) : 演習・卒業研究	
数学Ⅰ (解析学)	プログラミング基礎					演習Ⅰ	演習Ⅱ
数学Ⅱ (線形代数学)	数学Ⅲ (確率統計学)					卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
物理学Ⅰ (力学)	物理学Ⅱ (電磁気学)						
化学Ⅰ	化学Ⅱ						
生物学							
地球科学							
生物環境全般		生物多様性概論	生態学基礎	保全生物学実験			サイエンスライティング演習
		自然環境調査法	問題探究セミナーⅡ	森林生態学			
		森林調査法	環境微生物学	生命環境の科学Ⅰ			
		他大学野外実習Ⅰ	生物・地球環境システム概論	土壌・水圏微生物学実験			
		他大学野外実習Ⅱ	環境保全論	生物多様性保全実習			
			保全遺伝学				
			考古学Ⅰ	考古学Ⅱ			
生物環境保全系		水環境システム学概論	★流域水文学		水理学演習		
		★地質学概論	★地下水盆管理学	★水循環システム学			
			★気象学				
		★環境計画論	★都市計画概論	エコロジカル経済学	都市計画論		
			資源・エネルギー工学	環境文化論			
		心理学概論	社会情報分析	サウンドスケープ			
			基礎心理学Ⅰ				
			基礎心理学Ⅱ				
		気象データ解析	地球環境科学実験A	地球環境科学実験B			
				地球環境調査法			
生物環境分析系		★基礎有機化学	★生化学	放射線科学			
		★分析化学	機器分析	★高分子化学			
		基礎無機化学	有機化学				
		化学実験Ⅰ					
理科教員免許関連			理科教育法Ⅰ	理科教育法Ⅱ	理科教育法Ⅲ		
			理科教育法Ⅳ				
学芸員資格関連		博物館資料論					
		博物館学概論					
		博物館教育論					
		博物館資料保存論					
		博物館展示論					
		博物館経営論					
		博物館情報・メディア論					

共生システム理工学類 地球環境コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ		<凡例> 必修科目 選択必修科目 学群・学類共通領域 コース領域 (必修科目) コース領域 (選択必修科目) コース領域 (実践科目) 演習・卒業研究 ★ 合計12単位以上が必要	
数学Ⅰ (解析学)	数学Ⅲ (確率統計学)	基礎解析学Ⅰ	★基礎解析学Ⅱ	基礎解析学Ⅲ			
数学Ⅱ (線形代数学)		線型写像と幾何Ⅰ	解析学Ⅰ	★解析学Ⅱ			
物理学Ⅰ (力学)	物理学Ⅱ (電磁気学)	物理学実験	線型写像と幾何Ⅱ				
化学Ⅰ	化学Ⅱ	化学実験Ⅰ					
		★基礎無機化学					
		基礎有機化学					
生物学	コース基礎 科目群						
地球科学							
	プログラミング基礎	情報社会と情報倫理					
		情報科学概論					
		プログラミングⅠ	プログラミングⅡ				
	コースコア 科目群	地質学概論	生物・地球環境 システム概論	水循環システム学	水理学演習		
		水循環システム学概論	地下水盆管理学	地球環境科学実験B	演習Ⅰ	演習Ⅱ	
		気象学	流域水文学	地球環境調査法		卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
		気象データ解析	問題探究セミナーⅡ	「地球環境科学実験A」と 「地球環境科学実験B」は 内容が同じであるため、 どちらか一方を履修すれば よい。			
			地球環境科学実験A				
	コース推奨 科目群	★生物多様性概論	★環境微生物学	流体力学			サイエンスライティング 演習
		★分析化学	★環境保全論	統計力学			
		熱力学	★保全遺伝学	森林生態学			
		環境衛生科学	★生態学基礎	保全生物学実験			
		環境計画論	★機器分析	土壌・水圏微生物学実験			
		自然環境調査法	都市計画概論	生物多様性保全実習			
		森林調査法					
	教員免許 科目群		理科教育法Ⅰ				
			理科教育法Ⅳ	理科教育法Ⅱ	理科教育法Ⅲ		

共生システム理工学類 社会計画コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ	共生の科学Ⅱ			共生の科学Ⅲ			
数学Ⅰ(解析学)	数学Ⅲ(確率統計学)				応用数学Ⅱ		
数学Ⅱ(線形代数)							
	プログラミング基礎	プログラミングⅠ					
物理学Ⅰ(力学)	物理学Ⅱ(電磁気学)	熱力学	資源・エネルギー工学	再生可能エネルギーⅠ	再生可能エネルギーⅡ		
化学Ⅰ	化学Ⅱ						
地球科学		水環境システム学概論	地下水盆管理学	水循環システム学			
		地質学概論	流域水文学				
		気象学	地球環境科学実験	地球環境調査法			
			生物・地球環境システム概論				
生物学		★生物多様性概論	★生態学基礎	森林生態学			
		自然環境調査法		生物多様性保全実習			
		森林調査法	生体システム実験				
		環境衛生科学		放射線科学			
			★循環型産業論	エコロジカル経済学		知的財産権論	
		心理学概論					
		社会計画概論	環境保全論				
		環境計画論	★環境文化論	★サウンドスケープ	演習Ⅰ	演習Ⅱ	
			都市計画概論	★都市計画論		卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
		★社会調査論	社会情報分析	社会計画演習Ⅱ			
			社会計画演習Ⅰ				
			問題探究セミナーⅡ				
			★科学技術と環境の倫理学				
		地域社会学		地域政策論	社会福祉論		
		都市とまちづくりの地理学		社会政策	地域福祉論		
		地域環境論		環境法	情報社会論		
		行政学Ⅰ					
		行政学Ⅱ					
		流通管理概論	地域経済論Ⅰ	環境経済学			
		知覚・認知心理学Ⅰ					
		社会・集団・家族心理学					

理工系
専門科目

社会計画
コア科目

人文社会系
専門科目

<凡例>

- : 必修科目
- : 選択必修科目
- : 学群・学類共通領域
- : コース基礎科目(必修)
- : コース専門科目(選択必修)
- : コース実践科目
- : 演習・卒業研究

注: このマップは社会計画コースの科目群をマップにしたものであり, Cap制度の上限は考慮していない。

共生システム理工学類 心理生理コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学Ⅰ 数学Ⅰ (解析学) 数学Ⅱ (線形代数学) 物理学Ⅰ (力学) 化学Ⅰ 生物学 地球科学 精神疾患とその治療+ 人体の構造と機能及び疾病+	共生の科学Ⅱ 数学Ⅲ (確率統計学) 物理学Ⅱ (電磁気学) 化学Ⅱ プログラミング基礎	コースコア科目 心理学概論+ ★知覚・認知心理学Ⅰ+ 社会・集団・家族心理学+ 心理学的支援法+ 発達心理学+ 教育・学校心理学+ (夏季集中) 感情・人格心理学+ 福祉心理学+ 脳神経科学 公認心理師の職責+		共生の科学Ⅲ 心理学研究法+ ★健康・医療心理学+ 心理的アセスメント+ 臨床心理学概論+ 司法・犯罪心理学+ 基礎心理学Ⅰ+ 基礎心理学Ⅱ+ 障害者・障害児心理学+ 産業・組織心理学+ 心理学統計法+ 生体システム実験+ システム生理学 関係行政論+ 心理演習+	演習Ⅰ 演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 心理実習 (80時間以上) + 支援システム実験	演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	
		周辺領域関連科目 ★基礎有機化学 ★基礎無機化学 生物多様性概論 分析化学 情報科学概論 環境計画論 “基礎解析学Ⅰ 社会調査論 食と健康 解剖学 物理学実験 化学実験 プログラミングⅠ		生命環境の科学Ⅰ ★社会情報分析 ★生態学基礎 人間工学 生物・地球環境システム概論 ★計測工学 ★医用福祉工学 生理学 (運動生理学を含む) 生理学 生化学 環境文化論 プログラミングⅡ			

<凡例>	
	:必修科目
	:選択必修科目
	:学群・学類共通領域
	:コース領域 (必修科目)
	:コース領域 (選択必修科目)
	:コース領域 (実践科目)
	:演習・卒業研究
+は公認心理師関連科目	

2 1. グローバル特修プログラムの履修について

グローバル特修プログラムの履修について

本学が重視しているグローバルな力を身につけたい学生のために「グローバル特修プログラム」を開設し、異文化理解やグローバルな教養を身につけることを目的とした「グローバル教養プログラム」、また英語力を強化し、より実践的な海外留学・インターンシップ支援のための「英語グレードアッププログラム」の二つを提供します。

①グローバル教養プログラム

広く一般学生を対象とした異文化理解のためのプログラムです。卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（30単位）を修得することでグローバル教養プログラム修了と見なします。

要認定単位数を満たした後に、教務課へ認定申請手続きを行ってください。

領域区分	科目区分		開設科目等	セメスター	1 科目 単位数	要認定 単位数		
						必修	選択	
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション科目	英語、英語以外の外国語	1～	1	1	8	
	教養領域	外国語科目	英語、英語以外の外国語	1～	1	1		
基盤教育 小計						10		
専門教育	学類専門科目		語学系科目	2～	2	2	14	
			専門講義系科目	3～	2	2		
その他	短期語学研修			2～	1又は2			
	交流協定校認定科目			2～	1又は2			
	外部資格試験認定			1～	2			2
専門教育＋その他 小計						20		
基盤教育＋専門教育＋その他 計						30		

※具体的な科目一覧等は、後日 LC 掲示板でお知らせいたします。個別シラバス上では各特修プログラムへの該当有無について明示されています。

②英語グレードアッププログラム

英語圏への海外留学・インターンシップの参加等を目指す学生のためのプログラムです。

このプログラムを修得するためには、試験によってプログラム受講資格を得なければなりません。また、卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（30単位）を修得することで英語グレードアッププログラム修了と見なします。

要認定単位数を満たした後に、教務課へ認定申請手続きを行ってください。

領域区分	科目区分		開設科目等	セメスター	1科目 単位数	要認定 単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション科目	英語	1～	1	4	
	教養領域	外国語科目	英語	1～	1	6	
	基盤教育 小計						10
専門教育	学類専門科目		語学系科目	2～	2	6	
			専門講義系科目	3～	2	6	
	専門教育 小計						12
その他	国際交流センター開講科目		英語による講義、 留学準備等	1～	1又は2		6
	短期語学研修			2～	1又は2		
	交流協定校認定科目			2～	1又は2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	
その他 小計						8	
基盤教育＋専門教育＋その他 計						30	

※具体的な科目一覧等は、後日 LC 掲示板でお知らせいたします。個別シラバス上では各特修プログラムへの該当有無について明示されています。

2 2 . 地域実践特修プログラム の履修について

地域実践特修プログラムの履修について

「地域実践特修プログラム」は、地域に根ざしたプロジェクト学習を幅広く体験できるよう基盤教育科目と学類専門教育科目とを組み合わせた科目です。本学の特徴ともいえる「解のない問い」にチャレンジする学生を育成する科目の中心的な位置づけとなる特修プログラムです。

より実践的な力を身につけたい学生は「むらの大学」などのプロジェクト科目を受講し、「自主学修プログラム」などを利用して複数年にわたってプロジェクトを継続します。一般的には、「ふくしま未来学入門Ⅰ」および「ふくしま未来学入門Ⅱ」などの「地域実践特修プログラム」科目を受講し、卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（30単位）を修得することで地域実践特修プログラム修了と見なします。

要認定単位数を満たした後に、教務課へ認定申請手続きを行ってください。

区分	科目区分		開設科目等	セメスター	1科目 単位数	要認定 単位数	
						必修	選択
基盤教育	教養領域	学術基礎科目	地域実践特修プログラム科目	1～	2		
	問題探究領域	問題探究セミナー	問題探究セミナーⅠ	2	2	2	
		問題探究科目	むらの大学	1～	2		
			ふくしま未来学入門Ⅰ	1～	2	2	
			ふくしま未来学入門Ⅱ	2～	2		
			その他の問題探究科目	1～	2		
			自主学修プログラム	1～	1又は2		
	基盤教育 小計					16	
専門教育	問題探究セミナー		問題探究セミナーⅡ	3～	2	2	
	学類専門科目		地域実践特修プログラム科目	1～	2		12
専門教育 小計						14	
基盤教育+専門教育 計						30	

※具体的な科目一覧等は、後日 LC 掲示板でお知らせいたします。個別シラバス上では各特修プログラムへの該当有無について明示されています。

2 3．他学類の専門教育科目等 の履修について

他学類の専門教育科目等の履修について

(1) 自由選択の科目になるもの

専門教育科目の中には、他学類生の受講が認められている科目があります。

これらの科目は、自由選択の単位として計上することができ、最大で、他大学で修得した単位等とあわせて60単位まで修得することができます。(ちなみに自由選択の単位は、専門教育科目だけでなく、基盤教育科目を含む必修、選択必修を超えて修得した単位が自由選択の単位として計上されます。)

他学類の科目を履修できるのは、人間発達文化学類、共生システム理工学類では1年次生以上、行政政策学類、経済経営学類、食農学類では2年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上になっていることが必要です。ただし、受講者数等の事情により、他学類生について、優先的に受講制限を行う場合があります。

また、他学類の科目であることから、履修開始後に「思っていた内容と違った」「授業の内容が難しすぎた」ということが、しばしば見受けられます。履修登録をする前に、シラバスで前提として求められる基礎知識、講義の水準等をよく確認して選ぶことをお勧めします。対象となる科目については、Webの「開放科目一覧」を確認してください。

(2) 専門教育科目になるもの

他学類の教員が担当する専門教育科目の中には、各学類において自学類の専門教育科目として履修基準に位置づけている科目があります。これらの科目は、自学類の科目と同様に履修することができます。ただし、教室収容人数等の事情により、受講者数に制限を設ける場合があります。

対象となる科目については、各学類の専門教育科目の一覧を確認してください。

(3) 夜間主開講科目について

本学には、①行政政策学類の「夜間主」と、②人文社会学群の「(旧)現代教養コース」に所属している学生のために、夜間(6～7時限目)や土曜日に開講される科目があります。

これらの科目は、昼間の学生は受講できません。行政政策学類の学生に限り、夜間主開講の問題探究科目を受講できる場合があります。

2 4．転学類について

転学類について

入学後に学習を進めるなかで、興味や関心が変わることも十分に考えられます。そのような場合のために、転学類制度があります。ただし自分の選んだ進路を大きく変更することになりますので、新たに授業科目を取り直すことも必要になり「4年間で卒業できない」、「教員免許など希望していた資格が取得できない」といった事態が生じる可能性がありますので、安易な気持ちでこの制度を利用することのないように留意してください。

【参考】福島大学学則より

(転学類)

第24条 本学の学生で、他の学類に転学類を希望する者に対しては、当該他学類で選考の上、転学類を許可することがある。

なお、本制度は受け入れる学類において選考時期や要件などが異なりますので、詳細は掲示板等でご案内します。(3セメスター時)

2 5．他大学及び大学以外の教育施設 等における学修の単位認定について

他大学等及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について

本学で修得した授業科目の外に、他の大学（短大含む）等で修得した単位や検定試験等学外における学修の成果を、本学類で修得の求められている授業科目の単位とみなし、一定の範囲で卒業要件単位や本学独自に定めている各種特修プログラムや履修コースの単位として認定する場合があります。これらの単位は合わせて 60 単位を上限としています。

1. 他大学等との単位互換科目の認定

本学では、以下の大学等との間で大学間単位互換協定を締結しています。

茨城大学、宇都宮大学、会津大学、医療創生大学、郡山女子大学、日本大学工学部、東日本国際大学、福島学院大学、福島県立医科大学、放送大学、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校

これは、本学に在学したまま他大学の特別聴講学生（協定により相手大学が受入れる学生）としての受入れ申請を行い、認められた場合、当該大学において開講される授業科目を履修できるものです。この場合、修得した授業科目の単位を本学で修得したものとみなします。

なお、詳細については毎年 3 月中旬にライブキャンパス及び掲示等でお知らせしますので、履修希望者は留意してください。

2. 能力検定試験等の学修成果の認定

英語や英語以外の外国語に関して、能力判定のための各種検定試験や語学研修の結果等をもって、本学で修得した単位として認める場合があります。詳細は「グローバル特修プログラム」の説明や関係規程等を参照してください。

3. 入学前在籍大学等での既修得単位

本学に入学する前に在籍していた大学や短期大学等で修得した単位は、本学で修得すべき授業科目の単位に充当できる場合があります。入学手続きの案内に記載のあるように、該当者は定められた期日までに申し出てください。なお、当該授業科目の単位・成績証明書や授業内容のわかるシラバス等の提出が必要となります。

2 6．大学間交流協定に基づく学 生派遣について

大学間交流協定に基づく学生派遣について

本学では大学間交流協定に基づき海外の52大学と学術交流協定を締結しています。また、以下の35大学と学生交流協定を締結しており、交換留学をはじめとした学生の派遣・受入れによる交流を行っています。※学生交流協定を締結している大学については、留学先大学への入学料、検定料、授業料の納入は免除されます。ただし、留学期間中、福島大学に授業料を納入する必要があります。その他、渡航費、生活費など、留学に関わる費用は自己負担となります。以下の海外協定大学への交換留学を希望する学生は、国際交流センターへお問合せ下さい。

◇学生交流協定締結大学 17ヵ国・地域 35大学

国名・地域	協定先	URL
中国	華東師範大学	http://www.ecnu.edu.cn
	河北大学	http://www.hbu.edu.cn
	重慶理工大学	http://www.cqut.edu.cn
台湾	国立台北大学	https://www.ntpu.edu.tw
	文藻外語大学	http://www.wzu.edu.tw
韓国	韓国外語大学校	http://www.hufs.ac.kr http://international.hufs.ac.kr (留学生用)
	ソウル市立大学校	https://www.uos.ac.kr
	中央大学校	http://neweng.cau.ac.kr
	培材大学校	http://www.pcu.ac.kr
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	http://www.ateneo.edu
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	https://www.vnu.edu.vn
	トゥイロイ大学	http://en.tlu.edu.vn
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学アルバニー校	http://www.albany.edu
	コロラド州立大学	http://www.colostate.edu
	オザークス大学	http://www.ozarks.edu
	サンフランシスコ州立大学	http://www.sfsu.edu
	セント・トーマス大学	https://www.stthom.edu
	ルイジアナ州立大学	https://lsu.edu
英国	グラスゴー大学	https://www.gla.ac.uk
	ノーサンブリア大学	https://www.northumbria.ac.uk
ドイツ	ルール大学ボーフム	http://www.ruhr-uni-bochum.de
	ハノーファー大学	https://www.uni-hannover.de
	ルーヴヴィヒスハーフェン経済大学	http://www.hs-lu.de
	ミュンスター応用科学大学	https://en.fh-muenster.de
オランダ	ハンザUAS・フローニンゲン大学	https://www.hanze.nl
スペイン	サラゴサ大学	https://www.unizar.es
セルビア	ベオグラード大学	http://www.bg.ac.rs
ルーマニア	ブカレスト大学	https://unibuc.ro
ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	http://www.kre.hu
スロベニア	リュブリャナ大学	http://www.uni-lj.si
ベラルーシ	ベラルーシ国立大学	http://www.bsu.by
ロシア	極東国立交通大学	http://en.dvgups.ru
トルコ	アンカラ大学	http://www.ankara.edu.tr
	中東工科大学	http://www.metu.edu.tr
	エーゲ大学	http://www.ege.edu.tr

1. 派遣人数および対象学类等（全学類、研究科対象）

協定先	人数
河北大学	5名以内
その他の協定校	原則2名以内

※派遣・受入れの状況により、年度毎の派遣人数は調整される場合があります。

2. 応募資格等

- ・海外派遣留学応募時点で本学の学生であること。
- ・派遣先大学での単位取得または専門の研究をする目的が明確であること。
- ・語学条件が設定されている協定校について、国際交流センターが定める語学要件を満たしている者。
- ・留学期間終了後、本学で卒業・修了できる者。

なお、応募の時点で非正規生である者、成績不良により最低修業年限を経過している者は対象外とします。

3. 留学期間

留学期間は半年～1年間です。渡航月は協定校により異なり、8～10月となります。

4. 派遣までの日程

2021年度は下記のとおり募集を行います。募集は、国際交流センターの掲示板やホームページにて行います。なお、日程については、変更になる可能性もあります。

2021年11月上旬～2022年1月末	募集
2022年2月上旬～中旬	面接選考
2022年2月下旬	派遣内定
2022年3月～7月	交換留学に向けての準備期間 (ビザの取得、航空券の手配)
2022年6月下旬	派遣者説明会の開催 (危機管理、渡航前手続きや奨学金等の説明)
2022年8月～10月	派遣先大学へ出発
※例年、募集は年1回（11月上旬～1月末）ですが、2021年度は、7月上旬にも募集を行う予定です。詳細は、国際交流センターの掲示板やホームページで確認してください。	

※派遣先大学から受入許可が下りて正式に派遣決定となります。選考により派遣内定を得た場合であっても、受入許可が下りない場合は派遣が取り消されます。

※派遣学生は、日本学生支援機構又は福島大学学生教育支援基金から給付型奨学金を受給できる可能性があります。給付金額は、地域によって異なりますが、1ヶ月あたり3～10万円となります。

◆ 国際交流センター ◆

S棟 1階 （平日：9：00-12：30 / 13：30-17：00）

TEL: 024-503-3066, 3067

E-mail: ryugaku@adb.fukukushima-u.ac.jp

27. 履修上の諸手続きについて

履修上の諸手続きについて

1. 学生への連絡方法等

学生に対する全ての諸連絡は、共通講義棟（S 棟）2 階（基盤教育、行政政策学類(夜間主含む)、経済経営学類、共生システム理工学類、食農学類、現代教養コース）、M 棟1 階（人間発達文化学類）掲示板に掲示します。休講や授業に関する連絡事項など教務上の全ての諸案内は、「学修案内」に記載する他、掲示により周知することになるので、毎日掲示板を見る習慣を身に付け、見落としによる過誤が生じないようにしてください。

なお、休講・補講等の情報は LC により閲覧できます。

また、基盤教育科目及び他学類の授業科目に関しての連絡等は、当該学類等の掲示板に掲示されますので見落とさないよう留意してください。

掲示物には履修や成績に関わる重要な内容が記載されていますので、絶対にはがしたり、汚損したりしないようにしてください。

2. 証明書の発行手続き

(1) 証明書自動発行機で発行するもの

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、JR の学割証及び通学定期券購入証明書は、共通講義棟（M 棟）1 階に設置の自動発行機により、交付を受けることが出来ます。利用できる時間は 8：30～20：30 ですが、日・祝日・年末年始の休業日及び大学行事により講義棟への出入りの出来ない日は利用できないので、必要日から余裕を持って手続きをしてください。

請求には情報処理センターから発行される、ID とパスワードが必要です。発行機にトラブルが生じた時は、教務課各学類係まで申し出てください。

卒業後の証明書申請手続きは、本学のHPに掲載されています。発行まで時間のかかる場合もありますので、余裕を持って申請してください。

なお、成績証明書等の厳封を必要とする場合は、証明書自動発行機で交付された証明書を窓口を持参のうえ申し込んでください。

自動発行機で取得できる証明書

学割証	最大、1 日 3 枚まで発行できます。
在学証明書	—
J R 通学定期券 購入証明書	LC に学籍情報を登録していて、定期券が必要な地域に在住の学生のみ発行 できます。
成績証明書	—
卒業見込証明書・ 修了見込証明書	LC の就職システムに志望調査登録をした最高学年の学類生、大学院生 を対象に発行します。
教育職員免許状 取得見込証明書	教員免許の資格希望を出している最高学年の学類生、大学院生を対象に 発行します。
身体検査証明書	保健管理センターで定期検診を受けた学類生、大学院生のみ。 また、異常が認められた学生には発行されません。

(2) 窓口で発行するもの

上記(1)以外の証明書については、教務課各学類係で交付します。教務課事務室にある申請書に必要事項を記入の上、教務課各学類係に申請してください。なお、申し込みの翌日以降の発行となりますので、余裕をもって申し込んでください。

3. 休退学の願出

休学、退学を希望する事態が生じた場合は所定の手続きが必要となるので、速やかに教務課各学類係に相談してください。休学や退学の異動の場合は授業料の納入期と関わりが生じ、手続きの遅れが多大な経済的負担を生じる場合がありますので、次のことに留意ください。

(1) 授業料は年間2回に分け(前期・後期)その納入期限を前期は4月に、後期は10月に納入することになっています。納入方法は入学時に届け出た銀行等の口座より引き落としとなるので期日までに所定額を入金しておいてください。(2) 休学や退学の事由が生じた場合、在籍している学期分の授業料は納入しなければならなくなるので留意してください。

このため、9月及び3月時の学期末に生じた異動は速やかに教務課各学類係まで申し出る必要があります。

4. 改姓の届出

改姓をした場合は、教務課各学類係に申し出てください。

5. 窓口受付時間

窓口受付時間は、原則として下記の曜日・時間です。

曜日	月～金
受付時間	9:00～12:30
	13:30～17:00
	17:00～20:30(夜間主生のみ)

【注意事項等】

特別の場合を除き、窓口時間外の受け付けは一切行いません。また、土曜・日曜・祝日・休日、入学試験当日及びその準備期間など、別途掲示した期間においても窓口業務を行いません。

電話による質問や問合せは誤解や間違いを生じる可能性があるので一切応じられません。受付時間内に直接窓口に来てください。また、外部からの学生呼び出し等連絡を依頼されても、応じられません。

掲示等について不明な点がある場合は、窓口で確認するようにしてください。

2 8 . 各種問い合わせ窓口・ 福島大学案内図

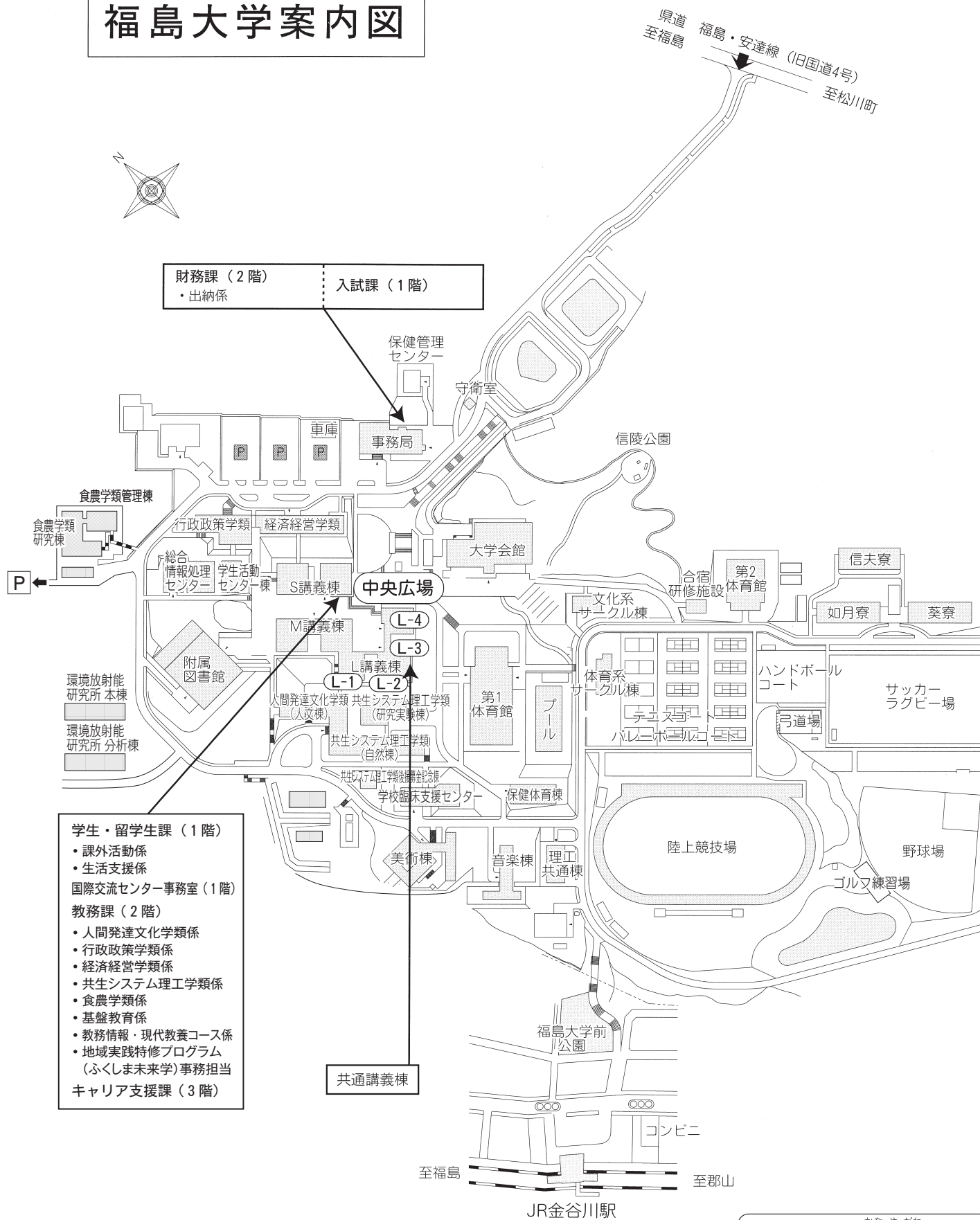
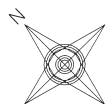
各種問い合わせ窓口について（学生関係窓口を中心に）

問い合わせ内容		担当窓口
身上 関係	学生証の紛失	<教務課> 人間発達文化学類係： T E L 024-548-8106 mail: k-ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
	休学、退学、改姓・改名、転学類の手続き	
教務 関係	履修基準や専門領域科目の履修に関しての相談	共生システム理工学類係： T E L 024-548-8357 mail: k-rikou@adb.fukushima-u.ac.jp
	試験について	行政政策学類係： T E L 024-548-8255 mail: kyomu2@adb.fukushima-u.ac.jp
	教員免許状、公認心理師ほか資格関係	経済経営学類係： T E L 024-548-8356 mail: k-keizai@adb.fukushima-u.ac.jp
	教育職員免許状取得見込証明書・英文の証明書等	食農学類係： T E L 024-549-0061 mail: k-syokunou@adb.fukushima-u.ac.jp
	地域実践特修プログラム（ふくしま未来学） グローバル特修プログラム の履修について	<教務課> 教務情報係： T E L 024-548-4070 mail: kyomujoho@adb.fukushima-u.ac.jp
	ライブキャンパス（LC）について （学籍情報の登録や住所・電話番号の変更、履修登録の方法等）、L ポートフォリオ	<教務課> 基盤教育係： T E L 024-548-8057 mail: kyotu@adb.fukushima-u.ac.jp
	S棟・M棟・L棟の教室を借りたい場合	<教務課> 教務企画係： T E L 024-548-8053 mail: k-kikaku@adb.fukushima-u.ac.jp
	接続領域科目や教養領域科目、問題探究領域科目について	
	インターンシップ（単位認定型）について	
	科目等履修生、研究生等について	<キャリア支援課> TEL 024-548-8108 mail: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp
	単位互換について	
福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	就職・進路（企業求人、公務員・教員採用試験等） についての相談	<学生・留学生課> T E L 024-548-8054 mail: gakusei-kagai@adb.fukushima-u.ac.jp
	アルバイトに関すること	
	インターンシップ（自由応募型）について	
	学内での忘れ物・落とし物	
	サークル活動で施設を借りたい場合	

福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	奨学生及び奨学金についての相談	<学生・留学生課> T E L 024-548-8060 mail: gakusei-s@adb.fukushima-u.ac.jp
	入学料・授業料の免除・徴収猶予について	
	授業料の納入について	<財務課> T E L 024-548-8015
	健康についての相談、健康診断書が欲しい場合	<保健管理センター> T E L 024-548-8068 mail: hcc-admin@ipc.fukushima-u.ac.jp
	学生生活上の様々な悩み事などの相談	<学生総合相談室> T E L 024-548-5156 mail: g-soudan@ipc.fukushima-u.ac.jp
	障がいのある学生の支援について	<アクセシビリティ支援室> T E L 024-503-3258 mail: a-shien@ipc.fukushima-u.ac.jp
	教育研究災害傷害保険等について	<福大生協> T E L 024-548-5141
留学・国際交流	留学や国際交流活動についての相談 外国人留学生の生活全般や在留資格等に関する相談	<国際交流センター> TEL 024-503-3066 024-503-3067 mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

【場所】教務課はS棟2F、学生・留学生課、国際交流センターはS棟1F、キャリア支援課はS棟3F、財務課は事務局棟2F、保健管理センターは事務局棟裏、学生総合相談室・アクセシビリティ支援室は大学会館2F、福大生協は大学会館1Fにあります。

福島大学案内図



JR東北本線金谷川駅下車
かなやがわ
中央広場まで徒歩約10分

教務課（共生システム理工学類係）

TEL 024-548-8357

FAX 024-548-8224

窓口取扱時間

月曜～金曜	9：00～12：30、13：30～17：00
土・日・祝日	

※その他、長期休業期間の一部、一般入試期間については、窓口が閉鎖される場合があります。詳しくは、教務関係日程表又は掲示板でご確認ください。



〒960－1296 福島市金谷川1番地

福島大学共生システム理工学類

学籍番号	
氏 名	